

新たな法曹養成プロセスの有機的
連携に関する調査（2010年度）

報 告 書

平成 23 年 3 月

法科大学院協会

早稲田大学法務教育研究センター

はしがき

本報告書は、法科大学院協会が主体となり 2010 年新司法試験について実施した「新たな法曹養成プロセスの有機的連携に関する調査研究」(法科大学院の成績と新司法試験の成績等との関連性に関する調査)の調査結果をまとめたものである。

法科大学院協会、文部科学省及び法曹三者は、2007 年 5 月、「法科大学院における教育の充実並びに法科大学院における教育、司法試験及び司法修習生の修習の有機的連携の確保の在り方を協議すること」を目的とする協議会(以下、「五者協議会」という)を設置した。法科大学院協会は、この五者協議会のもとに置かれた「法科大学院における成績、司法試験における成績等の関連性を検証し、その在り方を協議するためのワーキンググループ」(検証ワーキンググループ)において、「司法試験の成績と各法科大学院における成績との関連性を検証するための資料を調整し、これを他のメンバーに報告する」役割を引き受け、2007 年新司法試験から、そのための調査に着手した。今回の調査は、その 4 回目に当たる。当初 2 回の調査(2007 年及び 2008 年の新司法試験に関する調査)は、協力校を絞った形で試行的に実施した。それに続く 2009 年新司法試験に関する調査は、試行的調査の結果を踏まえつつ、規模をより拡大し(全法科大学院 74 校中 68 校の協力を得た)、調査内容にも見直しを加えて実施した。今回の調査は、前年調査の内容・方法をそのまま踏襲したが、協力校として法科大学院全 74 校の参加を得るに至った点が特筆に値しよう。

本調査は、実施事務局を早稲田大学法務教育研究センターに置き、同センターと法科大学院協会連携協議委員会との密接な連絡・協力のもとに、平成 22 年度文部科学省先導的の大学改革推進委託事業として実施した。調査の過程では、法科大学院協会内外の多数の方々の協力を得た。なかでも、調査の意義を理解し、積極的な協力をいただいた協力校の関係者の方々と、法科大学院協会の作業を見守り、様々な助言をいただいた検証ワーキンググループのメンバーには、この場を借りて、心から謝意を表したい。

本報告書は、法科大学院協会が検証ワーキンググループに提出する報告書にあたるが、同時に、法科大学院の教育と司法試験との有機的連携のあり方を検討するための基礎資料として、広く関係者の間に情報が共有されるよう編まれたものでもある。本報告書が、過去 3 回の調査の報告書とともに、法科大学院における教育と新司法試験との有機的連携のあり方に関する建設的な議論の一助となれば幸いである。

目 次

はじめに

1 調査の背景	1
(1) 新しい法曹養成制度とその理念	
(2) 連携協議機関の設置	
2 関連性調査の実施	2
(1) 調査の内容と目的	
(2) 試行的調査	
(3) 2009年、2010年新司法試験に関する調査	
I 調査の方法	
1 調査対象	4
(1) 協力校	
(2) 調査対象者	
2 データ	6
(1) データの収集	
(2) 法科大学院の成績	
(3) 新司法試験の成績	
3 統計的分析	19
(1) 関連性の調査項目	
(2) データの集計・分析	
II 調査の内容と結果	
1 新司法試験受験者の法科大学院の成績と新司法試験の成績	21
(1) 法科大学院の成績と新司法試験の成績とのクロス集計	
(2) 新司法試験の成績ランクと法科大学院の成績分布	
2 法科大学院修了者の法科大学院の成績と新司法試験の結果	78
(1) 法科大学院の成績と新司法試験の結果とのクロス集計	
(2) 新司法試験の結果と法科大学院の成績分布	
3 調査結果のまとめ	89
(1) 新司法試験受験者の法科大学院の成績と新司法試験の成績	
(2) 法科大学院修了者の法科大学院の成績と新司法試験の結果	
資料編 1 大学グループ別資料	97
資料編 2 大学別資料	121
統計上の用語について	152

はじめに

1 調査の背景

(1) 新しい法曹養成制度とその理念

2004年4月に法科大学院が開設されてから、ほぼ7年が経過した。法科大学院の修了者を対象とする新司法試験も、2006年5月にその第1回が実施されて以来、年ごとの実施を重ね、本調査が対象とする2010年5月に実施されたそれで5回を数えた。この間、法科大学院を修了し新司法試験に合格した者の合計は、9,042名に及んでいる。法科大学院を中核とする新しい法曹養成制度は、着実に定着を見つつあるといえる。

司法制度改革の柱の1つである「質量ともに豊かなプロフェッションとしての法曹を確保する」方策として整備されたこの新しい法曹養成制度は、「法学教育、司法試験、司法修習を有機的に連携させた『プロセス』としての法曹養成制度」(司法制度改革審議会意見書)であることをその理念的特色とする。この理念は、「法科大学院の教育と司法試験等との連携等に関する法律」(以下、「連携法」という)2条において規定された次のような法曹養成の基本事項の中により具体的に示されている。

「1 法科大学院……において、法曹の養成のための中核的な教育機関として、各法科大学院の創意をもって、入学者の適性の適確な評価及び多様性の確保に配慮した公平な入学者選抜を行い、少人数による密度の高い授業により、将来の法曹としての実務に必要な学識及びその応用能力(弁論の能力を含む。……)並びに法律に関する実務の基礎的素養を涵養するための理論的かつ実践的な教育を体系的に実施し、その上で厳格な成績評価及び修了認定を行うこと。

2 司法試験において、……法科大学院における教育との有機的連携の下に、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかの判定を行うこと。

3 司法修習生の修習において、……法科大学院における教育との有機的連携の下に、裁判官、検察官又は弁護士としての実務に必要な能力を修得させること。」

(2) 連携協議機関の設置

このような新しい法曹養成制度の理念を実現するための方策の1つとして、法科大学院協会、文部科学省、最高裁判所、法務省及び日本弁護士連合会の五者は、2007年5月、法曹の養成に係る機関の密接な連携を図りつつ、「法科大学院における教育の充実並びに法科大学院における教育、司法試験及び司法修習生の修習の有機的連携の確保の在り方を協議することを目的」とする協議会(以下、「五者協議会」という)を設置した。

* 五者協議会については、下記の法務省のホームページを参照されたい。

<http://www.moj.go.jp/KANBOU/DAIGAKUIN/kyougikai.html>

五者協議会は、当面の課題を「法科大学院における成績、司法試験における成績等の関連性を検証し、その在り方を協議すること」に置き、そのためのワーキンググループ（以下、「検証ワーキンググループ」という）を設置した。法科大学院協会は、新しい法曹養成制度の中核を担う法科大学院を代表する立場から、この課題を積極的に受けとめ、検証ワーキンググループにおいて、次のような責務を担うこととした。

「法科大学院協会は、検証ワーキンググループにおいて、法務省が各法科大学院に提供する司法試験の成績と各法科大学院における成績との関連性を検証するための資料を調整し、これを他のメンバーに報告する責任を負うものとする。」

2 関連性調査の実施

（１）調査の内容と目的

法科大学院協会は、上記の責務にしたがい、2007年に実施された新司法試験から「法科大学院の成績と新司法試験の成績との関連性の調査」（連携検証）に取り組むこととなった。

この調査は、法科大学院修了者の法科大学院在学時の学業成績と新司法試験の成績との関連性について、関係機関の協力のもと、個別の法科大学院から提供されたデータを基礎として、統計的な把握・分析を行うことを内容とする。

その主要な目的は、調査の経緯にも示したとおり、新しい法曹養成制度の理念に即した法科大学院教育と新司法試験との有機的な連携のあり方を検討する前提として、両者の関係の現状を客観的資料の形で提示することにある。それはまた、法科大学院教育のあり方と新司法試験のあり方の双方について、自己点検の素材を提供する役割をも果たすものと考えられる。

（２）試行的調査

このような調査は、モデルとし得る類例に乏しく、調査の方法自体、1から検討する必要があった。そこで、調査は段階的に進めることとし、まず当初の2カ年は、調査方法の検討、調査に関する様々な課題の把握をも目的の1つとして、協力校を絞った試行的調査を実施した。

調査の初年度である2007年の新司法試験に関する調査（2007年調査）は、法科大学院6校の協力を得て、考え得る様々な項目について広くデータを収集する方針で実施された。翌2008年の新司法試験に関する調査（2008年調査）は、2007年調査の結果とそれに関する五者協議会及び検証ワーキンググループの議論とを踏まえ、協力校を20校に拡大する一方、調査項目に若干の整理・重点化を加えて実施された。

両調査の結果をまとめた報告書は、調査の事務局を担当した早稲田大学法務教育研究センターのホームページ上に公表されている。

(3) 2009年、2010年新司法試験に関する調査

試行的調査とそれに関する検証ワーキンググループの議論を踏まえ、調査内容の整理・重点化を進めつつ規模を拡大したより本格的な調査を志向して実施されたのが、2009年の新司法試験に関する調査（2009年調査）とそれに引き続く2010年の新司法試験に関する調査（2010年調査）である。本報告書が対象とする2010年調査は、2009年調査の継続として、基本的にその調査内容・方法を踏襲して行われた。

2009年調査及び今回の2010年調査について、先行する試行的調査からの主な変更点を箇条書きすれば、次のとおりである。

- ①すべての法科大学院に対し調査への協力を呼びかけ、協力の了承が得られた法科大学院すべての参加のもとに調査を実施した。その結果、協力校は、全法科大学院74校のうち、2009年調査では68校となり、2010年調査では74校すべてとなった。
- ②法務省から調査のため各協力校に提供される新司法試験の成績情報が得点から成績ランク（項目にしたがい4～6段階）に改められた。これに伴い、統計処理の方法を見直し、作成する図表を改めた。
- ③法科大学院の修了者で新司法試験を受験しなかった者についてもデータを収集して一定の調査を行い、法曹養成プロセスの現状をよりトータルな形で把握することを試みた。

2009年調査の結果をまとめた報告書は、試行的調査の場合と同様、調査の事務局を担当した早稲田大学法務教育研究センターのホームページ上に公表されている。

本報告書では、2009年調査の報告書の構成にしたがいつつ、2010年調査の概要を報告する。Ⅰでは、調査の方法について、Ⅱでは、調査の内容と結果について、記述する。

*過去の調査の報告書については、下記の早稲田大学法務教育研究センターのホームページを参照されたい。

<http://www.waseda.jp/law-school/cplcr/research/01.html>

I 調査の方法

1 調査対象

(1) 協力校

法科大学院協会において、全国の法科大学院 74 校（法科大学院協会の会員校でもある）すべてに対し、調査への協力（一定の作業負担を含む）を依頼し、承諾が得られた校を協力校として調査を実施した。今回の調査では、すべての校から承諾の回答が得られたため、法科大学院全 74 校を協力校として調査を実施した。

協力校の承諾を得るに際しては、過去 3 回の調査の場合と同様、調査結果の公表にあたり大学名を特定しないことを条件とした。協力校の匿名性保持を重要視したのは、協力校が特定されると、①調査対象者個人が特定され、個人情報保護の要請を全うできなくなるおそれがあること、②各大学において新司法試験の成績との相関を意識するあまり法科大学院教育のあり方に悪影響が及ぶおそれがあること、による。

【表 1-1】は、協力校について、法科大学院の規模別・学生構成（既修者と未修者の割合）別の内訳を示したものである。法科大学院をその規模や学生構成で類別するための一般的な基準は存在しないが、本調査では、規模については、入学定員をもとに、50 名以下の法科大学院を「小規模校」、51 名以上 100 名以下の法科大学院を「中規模校」、101 名以上の法科大学院を「大規模校」と呼ぶこととした。また、学生構成については、修了者（本調査の対象となった 2010 年 3 月修了者）に占める未修者・既修者の割合をもとに、未修者 6 割以上（既修者 4 割以下）の法科大学院を「未修中心型」、未修者 4 割超 6 割未満（既修者 4 割超 6 割未満）の法科大学院を「バランス型」、未修者 4 割以下（既修者 6 割以上）の法科大学院を「既修中心型」と呼ぶこととした。

* 入学定員には変動があるが、今回の調査では、調査対象者である 2010 年 3 月修了者の最終入学時点（既修者として 2 年間で課程修了した者の入学時点）である 2008 年 4 月時点のそれを基準とした（2009 年調査において示した全法科大学院の規模別内訳からの変動は、「中規模校」→「小規模校」の 1 校である）。

* 法科大学院の課程の標準修業年限は、3 年であるが、法学の基礎的な学識を有すると認められる者については、2 年間の在学で課程を修了することが可能である。この 2 年間の短縮課程を修了した者を「既修者」、3 年間の標準課程を修了した者を「未修者」と呼ぶ。

【表 1-1】 協力校の規模別・学生構成別内訳

	協力校			
	未修 中心型	バランス 型	既修 中心型	合計
小規模校（定員 50 名以下）	32 校	3 校	1 校	36 校
中規模校（定員 51 名以上 100 名以下）	15 校	7 校	6 校	28 校
大規模校（定員 101 名以上）	3 校	0 校	7 校	10 校
合計	50 校	10 校	14 校	74 校

（２）調査対象者

協力校の法科大学院の課程を 2010 年 3 月に修了した者（2010 年新司法試験の直近の修了者）すべてを調査（データ収集）の対象とした。したがって、①協力校の修了者で 2010 年新司法試験を受験した者であっても、2009 年以前の修了者（2009 年度前期終了時点〔2009 年 9 月〕での繰上げ修了者を含む）は調査対象者に含めていない。他方、②2010 年 3 月の修了者のうち同年の新司法試験を受験しなかった者（未受験者）は調査対象者に含めている。

* 新司法試験実施前年以前（今回の調査では 2009 年以前）の修了者の場合、法科大学院の成績には反映する余地のない法科大学院修了後の学習成果が新司法試験の成績により直接的に影響すると考えられる。この点を考慮し、調査対象者は試験直近の修了者に限ることとした。

【表 1-2】は、調査対象者の内訳である。協力校から成績データが提供された調査対象者の総数は、4,641 名であり、うち 2010 年新司法試験を受験した者は、3,637 名であった。また、受験者のうち一次評価合格者は、2,705 名、総合評価合格者は、1,225 名であった。

* 2010 年（平成 22 年）新司法試験に関する法務省公表資料では、受験者の法科大学院修了年度別のデータが示されているが、そこにいう「平成 21 年度修了者」（途中欠席者を含めた受験者は、既修者 1,769 名、未修者 1,963 名、合計 3,732 名とされている）には、平成 21 年度末である 2010 年 3 月に法科大学院を修了した者のほかに、平成 21 年度中の例えば 2009 年 9 月に繰り上げ修了した者も含まれているものと思われる。この点で、「平成 21 年度修了者」と本調査対象者（2010 年 3 月法科大学院修了者）との間には、ずれがある。

【表 1-2】 調査対象者の内訳

		調査対象者		
		既修者	未修者	合計
調査対象者総数		1,911名	2,730名	4,641名
新司法試験未受験者		175名	829名	1,004名
新司法試験 受験者	総数	1,736名	1,901名	3,637名
	一次評価合格者	1,544名	1,161名	2,705名
	総合評価合格者	812名	413名	1,225名

2 データ

(1) データの収集

協力校は、調査対象者について、【図 1-1】のような書式の成績一覧表（個人は特定できないよう、整理番号のみによって示されている）を作成し、これを法科大学院協会の調査事務局に提出した。

なお、調査事務局では、統計処理の前提として、各協力校から提出されたデータを統合したが、その際、大学間での得点補正等の操作は行わなかった。

【図 1-1】 成績一覧表の書式

司法試験成績										法科大学院成績								
										公法系		民事系		刑事系		その他	総合	
LS成績表個人番号	LS未修・既修	(法務省)番号	短答式試験成績ランク(4ランク)			短答式試験合計点ランク(5ランク)			論文式試験成績ランク(4ランク)	論文式試験合計点ランク(5ランク)	総合評価得点ランク(6ランク)	法律基本 必修		必修実務基礎	法律基本 必修		必修実務基礎	全授業科目
			公法系	民事系	刑事系	1年次	2年次以降	1年次				2年次以降	1年次		2年次以降			
1																		
2																		
3																		

(2) 法科大学院の成績

ア 成績データ項目

法科大学院の開設科目・教育内容は、法科大学院ごとに多様であるが、授業科目として、法律基本科目（憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法に関する分野の科目）、法律実務基礎科目（法曹としての技能及び責任その他の法律実務に関する基礎的な分野の科目）、基礎法学・隣接科目（基礎法学に関する分野又は法学と関連を有する分野の科目）、展開・先端科目（先端的な法領域に関する科目その他の実定法に関する多様な分野の科目であって、法律基本科目以外のもの）を開設することとされている（平成15年文科省告示第53号「専門職大学院に関し必要な事項について定める件」5条）。

これらの授業科目のうち、法理論教育の中核となる法律基本科目は、新司法試験の必須科目と対応し、各法科大学院における教育内容にも共通性が高いうえ、その基本部分は、必修科目とされるのが一般的である。また、法律実務基礎科目においても、法曹としての責任感や倫理観を涵養するための教育を内容とする科目（法曹倫理あるいはそれに相当する科目）、民事訴訟実務の基礎を内容とする科目、刑事訴訟実務の基礎を内容とする科目は、各法科大学院において共通に開設され、必修科目とされるのが一般的である。

本調査においては、上記のような法科大学院の授業科目の性格、新司法試験の試験科目との対応を考慮し、法科大学院を横断した扱いをすることに無理が少なく、新司法試験の成績との対比に適切な科目カテゴリとして、必修法律基本科目と必修法律実務基礎科目を中心に、【表1-3】のような成績データ項目（変数）を設定した（図表中で用いることがある略称表記を太字で示した）。

* 協力校から提出を受けた成績一覧表（【図1-1】参照）には「法曹倫理に相当する必修実務基礎」科目の成績データが含まれていたが、この項目は、独立に新司法試験の成績と対比する項目とはしなかった。したがって、【表1-3】の項目には含まれていない。

イ 成績データ項目の得点

各成績データ項目の得点は、そのカテゴリにおいて単位修得した授業科目の成績の平均点（単位数による重み付き平均）とした。したがって、不合格科目の得点は算入していない。また、合否判定のみで評価される授業科目は、原則として、得点に算入しない扱いとした。

平均点の算出にあたっては、合格基準点を60点とする100点満点の得点を用いた。

* 必修科目については、不合格のまま修了することができないため、不合格科目があるのは、基本的に、「全授業科目」のカテゴリに限られる。また、合否判定のみで評価される授業科目は、「法律基本科目」のカテゴリには見られない。このような授業科目が含まれるのは、「全授業科目」のカテゴリと「法律実務基礎科目」のカテゴリに限られる。

【表 1-3】 法科大学院の成績データ項目(変数)

		成績データ項目 (変数)		包含される授業科目	
総合成績	全授業科目		全授業科目	全授業科目	
	必修法律基本科目 総合法基	1年次	1年次に配当された必修法律基本科目 (未修者のみ履修)		
		2年次以降	2年次以降に配当された必修法律基本科目 (既修者・未修者共通履修)		
必修法律実務基礎科目 総合実務		法律実務基礎科目のうち法曹倫理、民事訴訟実務の基礎、刑事訴訟実務の基礎に相当する必修授業科目			
分野別	公法系	必修法律基本科目 公法法基	1年次	1年次に配当された公法系の必修法律基本科目 (未修者のみ履修)	
			2年次以降	2年次以降に配当された公法系の必修法律基本科目 (既修者・未修者共通履修)	
	民事系	必修法律基本科目 民事法基	1年次	1年次に配当された民事系の必修法律基本科目 (未修者のみ履修)	
			2年次以降	2年次以降に配当された民事系の必修法律基本科目 (既修者・未修者共通履修)	
	必修法律実務基礎科目 民事実務		民事訴訟実務の基礎に相当する必修授業科目		
	刑事系	必修法律基本科目 刑事法基	1年次	1年次に配当された刑事系の必修法律基本科目 (未修者のみ履修)	
			2年次以降	2年次以降に配当された刑事系の必修法律基本科目 (既修者・未修者共通履修)	
	必修法律実務基礎科目 刑事実務		刑事訴訟実務の基礎に相当する必修授業科目		

(成績データ項目について)

- * 必修ではない法律基本科目が設けられている場合、その成績は、「必修法律基本科目」の成績項目には含めなかった（「必修法律基本科目」は、1つの法科大学院で修了者全員が修得しなければならない法律基本科目に限定した）。
- * 法律基本科目について、選択必修制度（一定の授業科目群の中から一定単位数以上の修得を修了要件とする）がとられている場合、実際に選択して修得した授業科目を必修法律基本科目として扱った。
- * 未修者のみ必修とされる2年次配当の法律基本科目が設けられている場合、その成績は、「必修法律基本科目（2年次以降）」の成績項目ではなく、「同（1年次）」の成績項目に算入した（未修者・既修者を問わず全員が修得すべき科目か、未修者のみが修得すべき科目かで区別した）。
- * 法律実務基礎科目において、法曹倫理、民事訴訟実務の基礎、刑事訴訟実務の基礎に相当する科目以外に必修科目が設けられている場合、その成績は、「必修法律実務基礎科目」の成績項目には含めなかった。
- * 法律実務基礎科目において、法曹倫理、民事訴訟実務の基礎、刑事訴訟実務の基礎に相当する必修科目が設けられていない場合、これらの科目に内容的に相当する選択科目の成績を「必修法律実務基礎科目」の成績項目に算入した（その場合、全員が修得していないため、その成績項目のみ、調査対象者の人数が異なることがある）。

(得点の計算について)

* 授業科目の成績について、段階評価方式を用いている法科大学院については、下表の例に示すように、各段階に対応する得点の幅の中央値（ただし、上限を 95 点とし、小数第 1 位で四捨五入したもの）をその授業科目の得点とした。

段階評価	A +	A	B	C
対応する得点	90～	80～89	70～79	60～69
中央値の計算	$(90+95)/2$ =92.5	$(80+89)/2$ =84.5	$(70+79)/2$ =74.5	$(60+69)/2$ =64.5
得点として用いる中央値	93	85	75	65

* 各法科大学院の間では、合否ライン（絶対評価に近いと考えられる）を 60 点にそろえる扱いとし、合格基準点がそれと異なる法科大学院の成績（得点）は、60 点を合格基準点とした場合の得点に換算した。例えば、合格基準点が 70 点の法科大学院の得点（X）は、次のような算式で合格基準点を 60 点とした場合の得点に換算を行った。

$$\begin{aligned}(\text{換算得点}) &= (X - 70) \times [(100 - 60) / (100 - 70)] + 60 \\ &= (4X - 100) / 3\end{aligned}$$

* 既修者選抜試験に不合格となり未修者課程に入学した者に対し、既修者選抜試験（法律科目試験）の成績により、一部の法律基本科目（1 年次）の単位修得認定（履修免除）をしている場合には、単位修得が認定された授業科目について、当該法科大学院における単位修得認定のための成績基準に従った換算点を「必修法律基本科目（1 年次）」の成績項目に算入した。

ウ 調査対象者の法科大学院の成績

【表 1-4】は、調査対象者の法科大学院の成績分布について、平均点と標準偏差を示した表である。また、【図 1-2】は、調査対象者の法科大学院の成績分布を示すヒストグラムである。

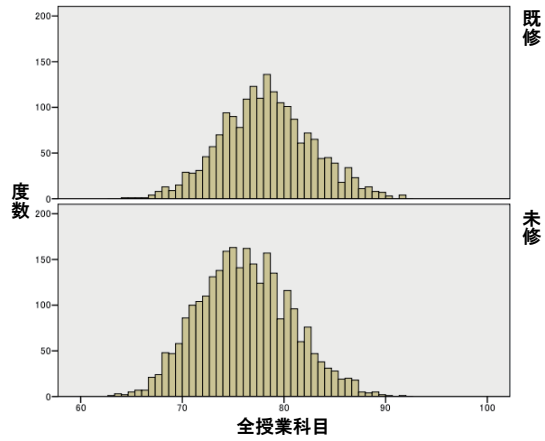
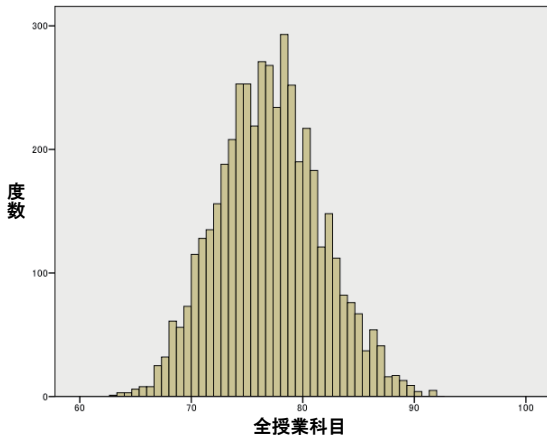
【表1-4】調査対象者の法科大学院の成績

		総合成績				公法系	
		全授業科目	綜合法基 1年	綜合法基 2年	総合実務	公法法基 1年	公法法基 2年
全体	平均値	77.02	75.72	75.66	76.30	75.74	75.76
	度数	4641	2730	4641	4641	2729	4641
	標準偏差	4.61	5.57	5.24	6.02	7.00	6.34
既修	平均値	78.25		77.17	77.24		76.79
	度数	1911		1911	1911		1911
	標準偏差	4.44		4.85	5.93		6.11
未修	平均値	76.16	75.72	74.60	75.64	75.74	75.04
	度数	2730	2730	2730	2730	2729	2730
	標準偏差	4.53	5.57	5.25	6.00	7.00	6.40

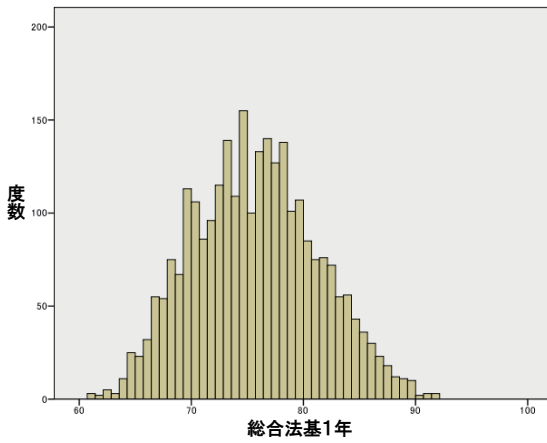
		民事系			刑事系		
		民事法基 1年	民事法基 2年	民事実務	刑事法基 1年	刑事法基 2年	刑事実務
全体	平均値	75.72	75.69	76.38	75.75	75.54	75.57
	度数	2730	4641	4634	2729	4641	4547
	標準偏差	6.13	5.80	8.25	6.92	6.52	8.25
既修	平均値		77.26	77.66		77.40	76.62
	度数		1911	1911		1911	1911
	標準偏差		5.37	7.89		6.07	8.17
未修	平均値	75.72	74.59	75.48	75.75	74.23	74.80
	度数	2730	2730	2723	2729	2730	2636
	標準偏差	6.13	5.84	8.38	6.92	6.50	8.23

【図1-2】 調査対象者の法科大学院の成績分布

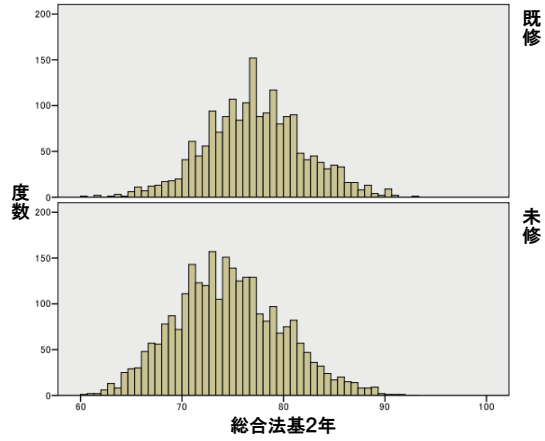
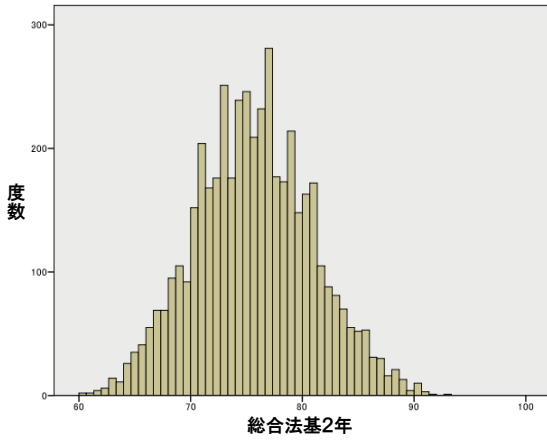
① 全授業科目



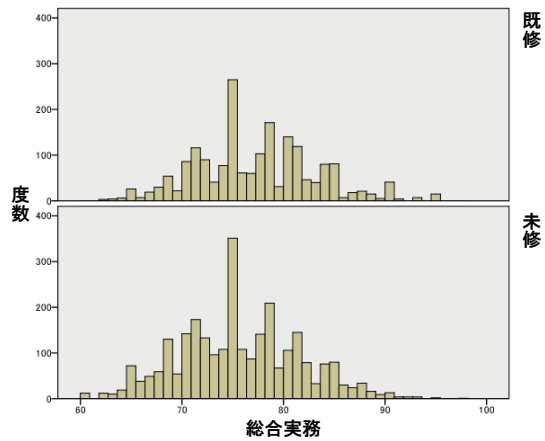
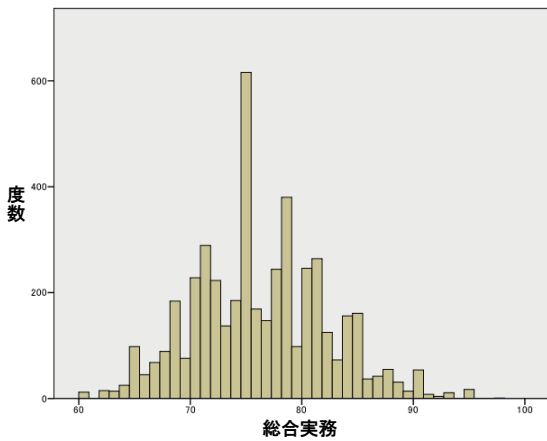
② 総合必修法律基本科目(1年次)(未修者のみ)



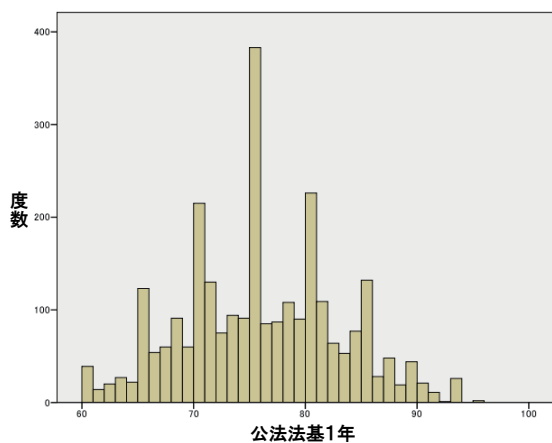
③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)



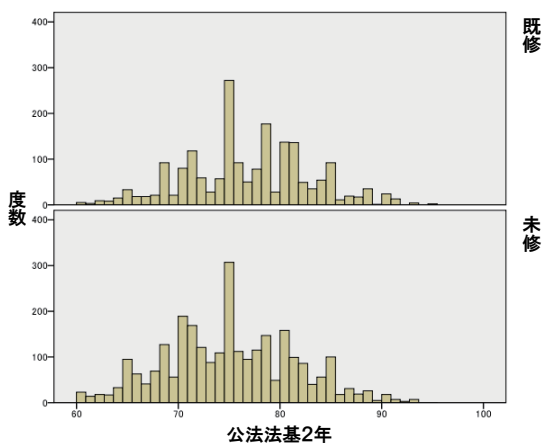
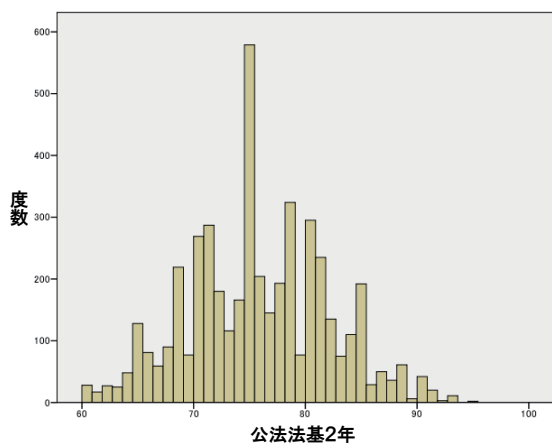
④ 総合必修法律実務基礎科目



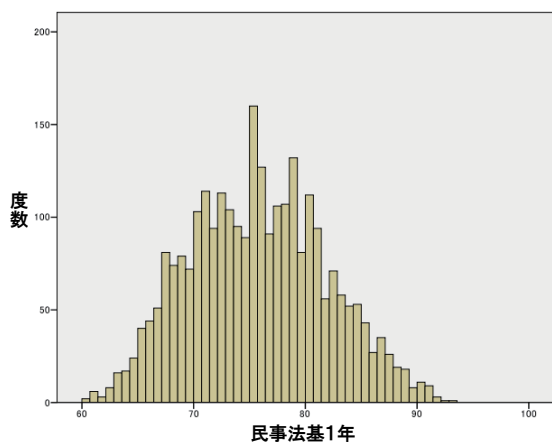
⑤ 公法系必修法律基本科目(1年次)(未修者のみ)



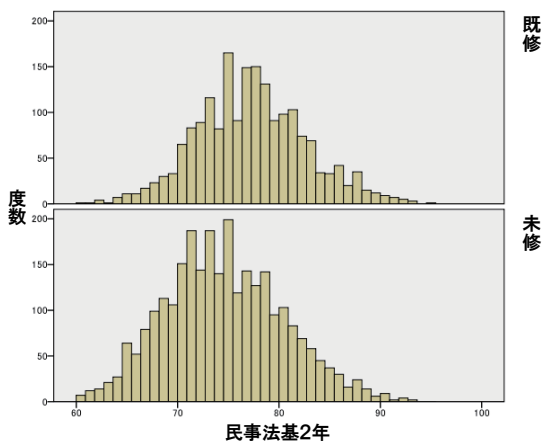
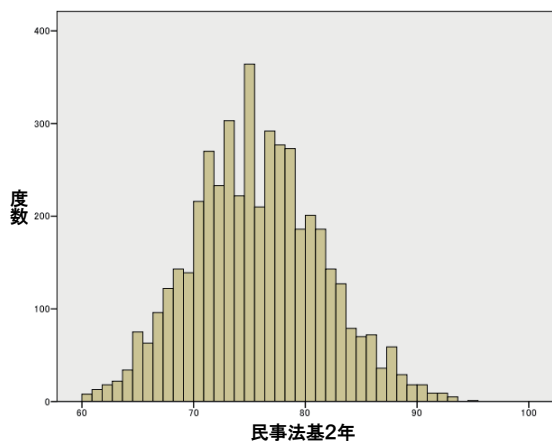
⑥ 公法系必修法律基本科目(2年次以降)



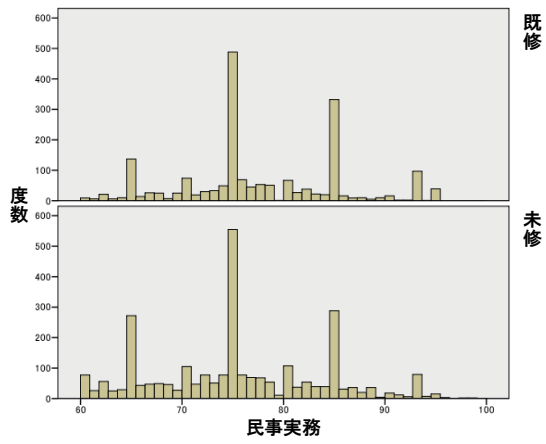
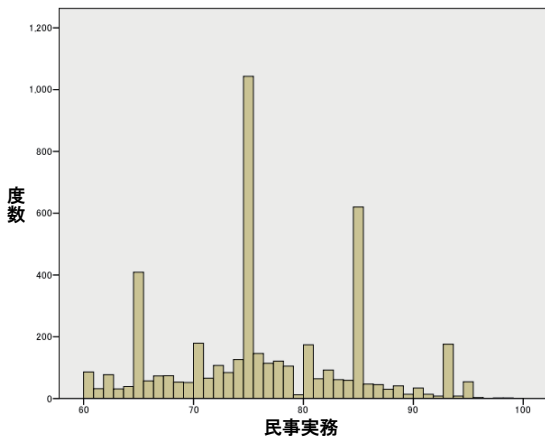
⑦ 民事系必修法律基本科目(1年次)(未修者のみ)



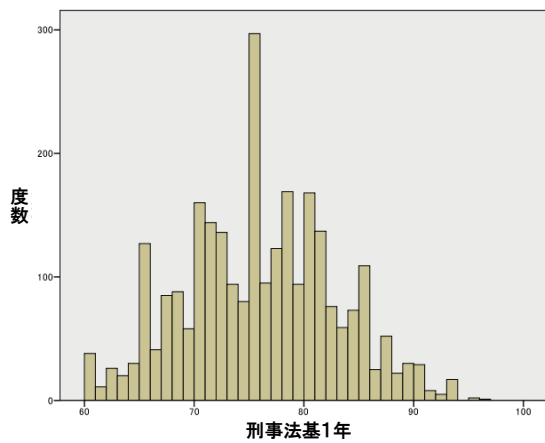
⑧ 民事系必修法律基本科目(2年次以降)



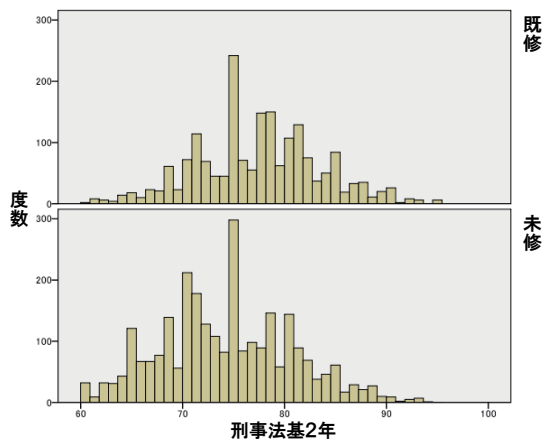
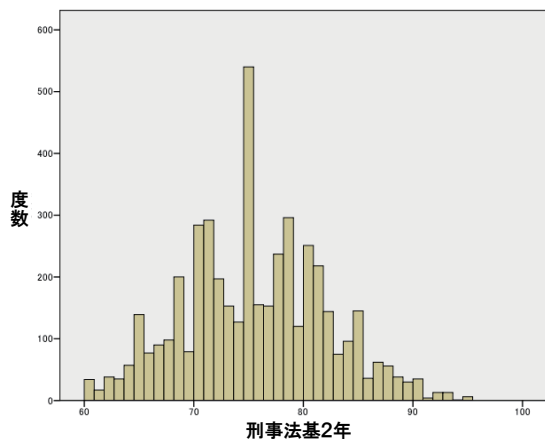
⑨ 民事系必修法律実務基礎科目



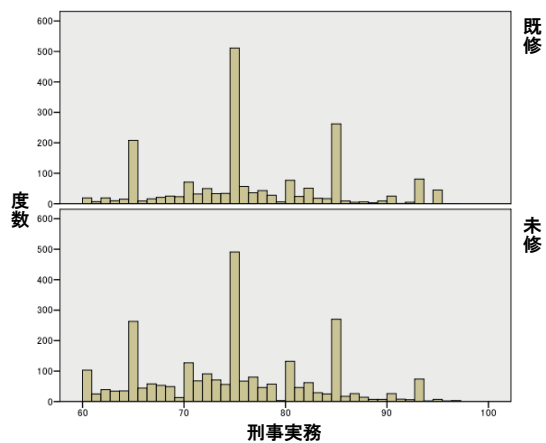
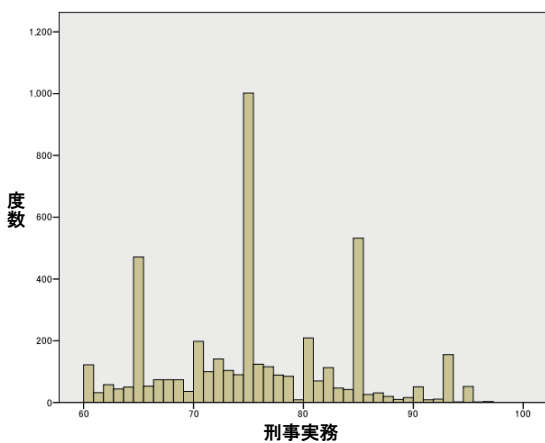
⑩ 刑事系必修法律基本科目(1年次)(未修者のみ)



⑪ 刑事系必修法律基本科目(2年次以降)



⑫ 刑事系必修法律実務基礎科目



(3) 新司法試験の成績

ア 成績データ項目と成績カテゴリ

新司法試験は、公法系科目（憲法及び行政法に関する分野の科目）、民事系科目（民法、商法及び民事訴訟法に関する分野の科目）、刑事系科目（刑法及び刑事訴訟法に関する分野の科目）を必須科目とし、これらについて短答式試験と論文式試験が行われる。また、専門的な法律の分野に関する科目として、倒産法、租税法、経済法、知的財産法、労働法、環境法、国際関係法（公法系）、国際関係法（私法系）を選択科目とし、これらの中から選択された1科目についても、論文式試験が行われる。

調査対象者のうち新司法試験を受験した者については、司法試験の事務を所管する法務省から各協力校に対し、その新司法試験の成績に関するデータが提供された。

提供された新司法試験の成績データの内容（項目と成績カテゴリ）は、①短答式試験について、科目別（公法系科目、民事系科目、刑事系科目）の成績ランク（4段階）と合計点の成績ランク（5段階）、②論文式試験について、科目別（必須科目である公法系科目、民事系科目、刑事系科目）の成績ランク（4段階）と合計点（選択科目を含む）の成績ランク（5段階）、③総合評価の成績ランク（6段階）である。ただし、新司法試験では、短答式試験による一次評価が行われ、短答式試験の合格に必要な成績を得た者（一次評価合格者）についてのみ、短答式試験と論文式試験による総合評価が行われるため、短答式試験の合格に必要な成績を得られなかった者（一次評価不合格者）については、論文式試験及び総合評価に関する成績データは存在しない。

【表1-5】は、提供された成績データの詳細である（図表中で用いることがある略称表記を太字で示した）。

【表 1-5】 新司法試験の成績データ項目(変数)と成績カテゴリ

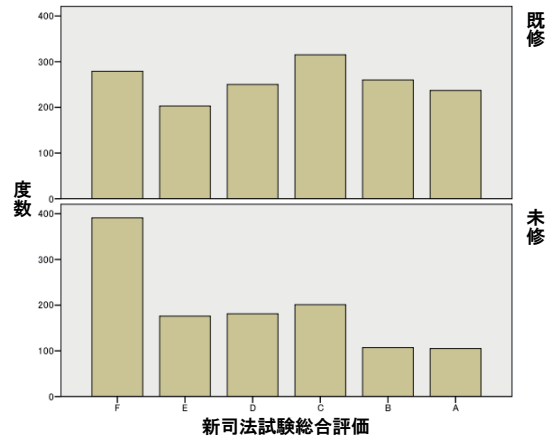
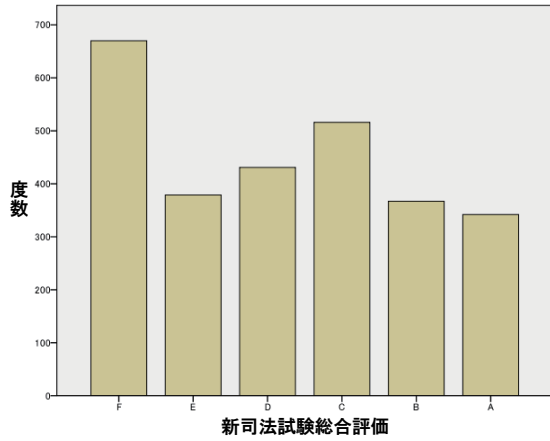
成績データ項目 (変数)		提供された成績ランク (成績カテゴリ)	
短答式試験	科目別 (3 科目) 公法系 短答公法 民事系 短答民事 刑事系 短答刑事	4 ランク	A : 80% 点以上 B : 60% 点以上 C : 40% 点以上 D : 40% 点未満
	合計点 上記 3 科目 短答総合	5 ランク	A : 265 点以上 (合格) B : 240 点以上 (合格) C : 215 点以上 (合格) D : 190 点以上 (不合格) E : 190 点未満 (不合格)
論文式試験	科目別 (3 科目) 公法系 論文公法 民事系 論文民事 刑事系 論文刑事	4 ランク	A : 60% 点以上 B : 50% 点以上 C : 40% 点以上 D : 40% 点未満
	合計点 上記 3 科目 + 選択科目 論文総合	5 ランク	A : 450 点以上 B : 400 点以上 C : 350 点以上 D : 300 点以上 E : 300 点未満
総合評価	合計点 総合評価	6 ランク	A : 905 点以上 (合格) B : 840 点以上 (合格) C : 775 点以上 (合格) D : 725 点以上 (不合格) E : 675 点以上 (不合格) F : 675 点未満 (不合格)

イ 調査対象者の新司法試験の成績

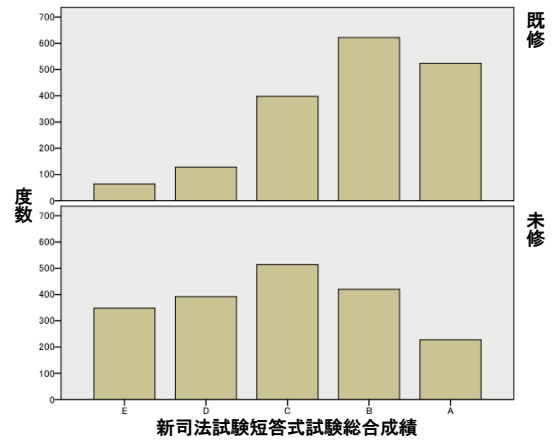
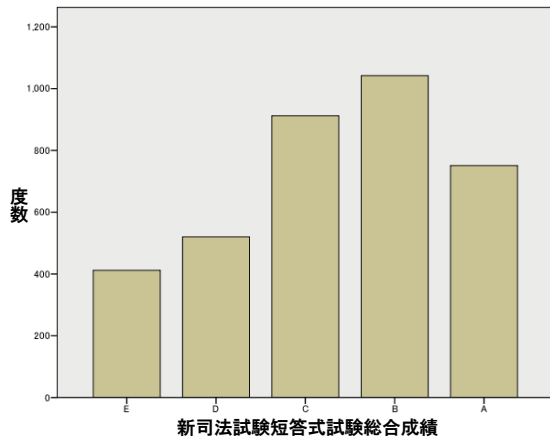
【図 1-3】は、調査対象者(受験者)の新司法試験の成績分布を示すヒストグラムである。

【図1-3】 調査対象者の新司法試験の成績分布

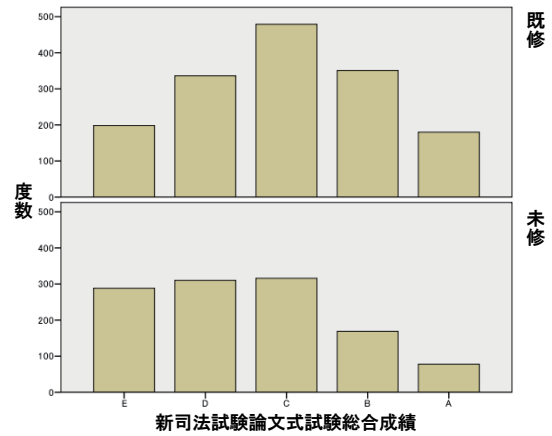
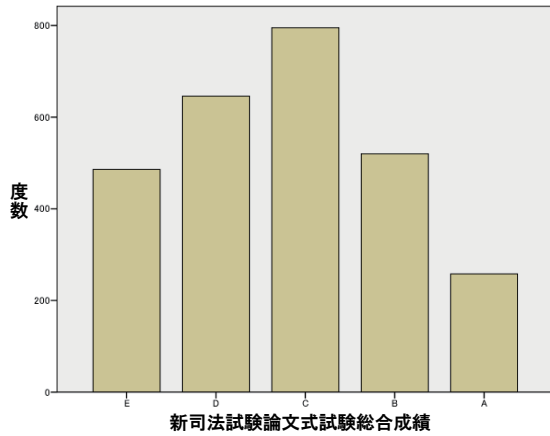
① 総合評価



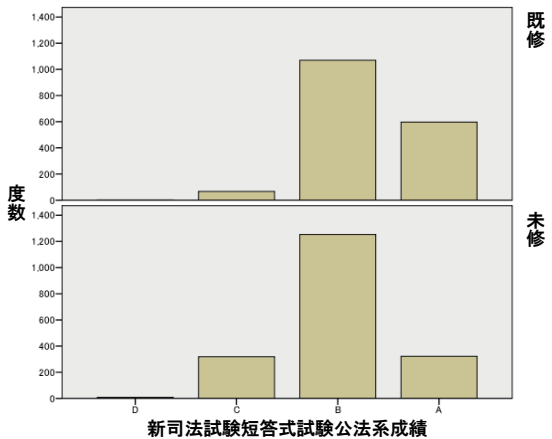
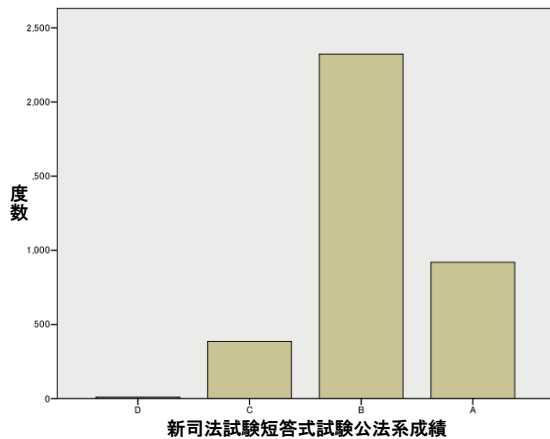
② 短答式試験総合成績



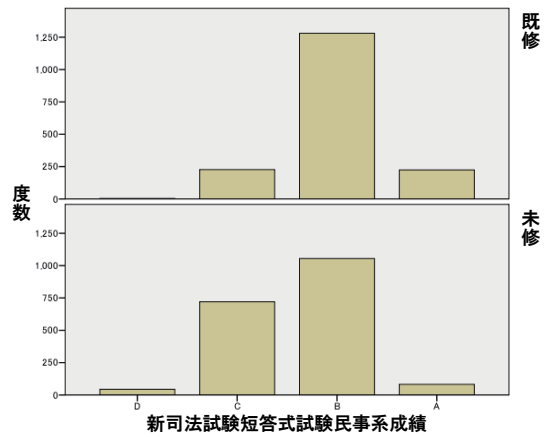
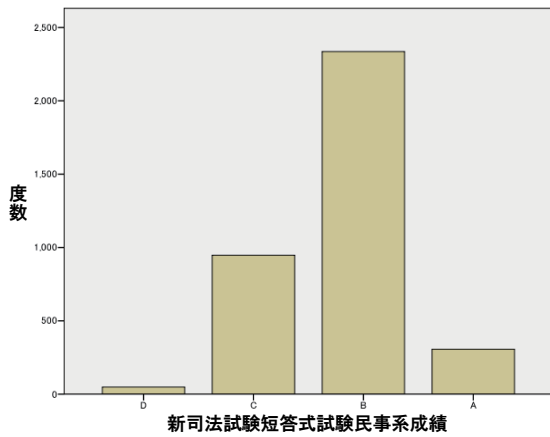
③ 論文集試験総合成績



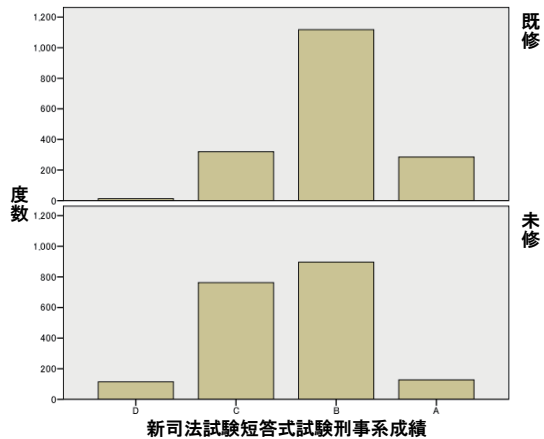
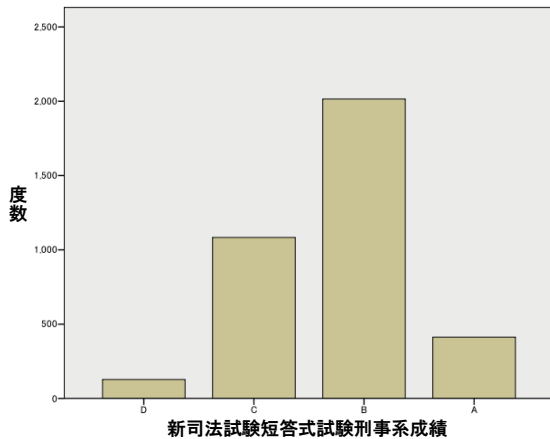
④ 公法系短答式試験



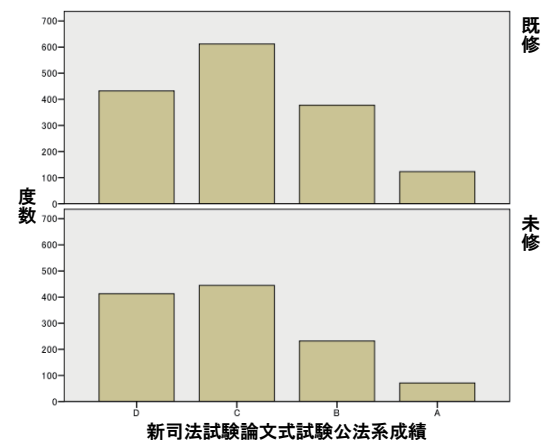
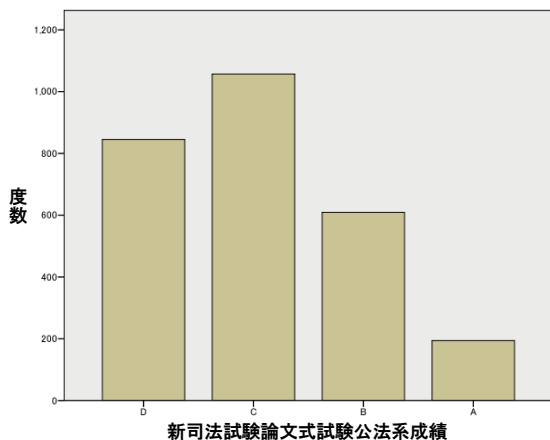
⑤ 民事系短答式試験



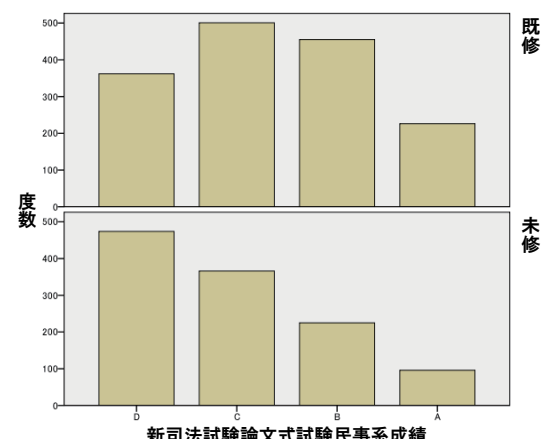
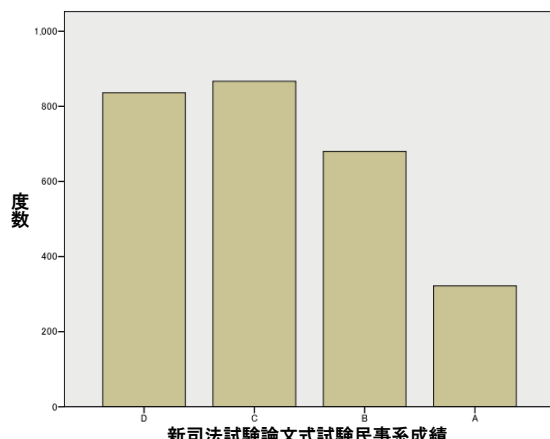
⑥ 刑事系短答式試験



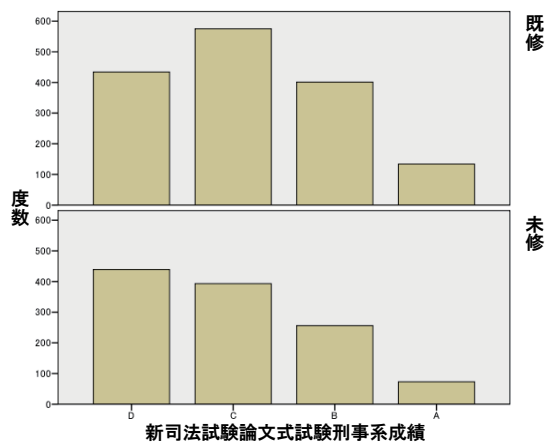
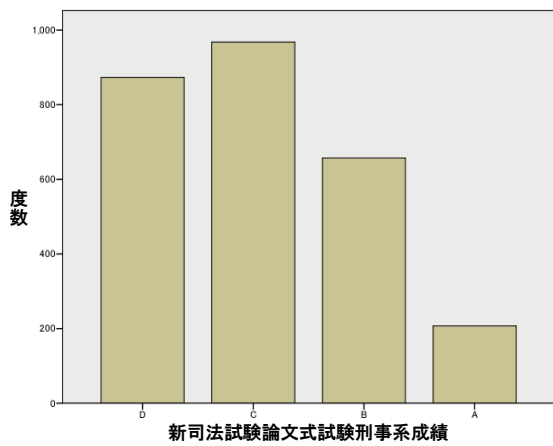
⑦ 公法系論文式試験



⑧ 民事系論文式試験



⑨ 刑事系論文式試験



3 統計的分析

(1) 関連性の調査項目

【表1-6】に示すデータ項目間において、データの集計・分析を行い、法科大学院の成績と新司法試験の成績等との関連性に関する統計資料を作成した。

【表1-6】 関連性の調査項目

新司法試験			結果		総合成績			公法系		民事系		刑事系	
			受験有無	合否	総合評価	短答式	論文式	短答式	論文式	短答式	論文式	短答式	論文式
法科大学院													
総合成績	全授業科目		○	○	○	○	○						
	必修法律 基本科目	1年次	○	○	○	○	○						
		2年次以降	○	○	○	○	○						
	必修法律実務基礎科目		○	○	○	○	○						
公法系	必修法律 基本科目	1年次						○	○				
		2年次以降						○	○				
民事系	必修法律 基本科目	1年次								○	○		
		2年次以降								○	○		
	必修法律実務基礎科目										○	○	
刑事系	必修法律 基本科目	1年次										○	○
		2年次以降										○	○
	必修法律実務基礎科目											○	○

(2) データの集計・分析

データの集計・分析は、基本的に、①協力校を一括した調査対象者全体と、②既修者、未修者別とで行い（既修者と未修者は、法科大学院における学修期間、学修内容において明確な差異があるため、両者の異同に留意した検証が求められる）、それらを比較対照しつつ、所見の把握に努めた。

また、極めて多様な法科大学院が協力校となっていることに鑑み、必要に応じ、大学グループ別及び大学別の集計・分析もを行い、上記①②による集計・分析の結果を補充・検証することとした（大学別の統計資料は、参考資料として、巻末の資料編に掲げた。ただし、大学別の統計資料は、調査対象者が少ない場合、統計的な意味が乏しい一方で、大学を特定できるデータが含まれたり、特定個人のデータがそのまま示される結果となったりすることがある。そのため、調査対象者の実数が50名以上ある中規模校以上の協力校28校について掲げることとした）。

大学グループは、①学生構成を指標としたグループ（協力校の内訳において示したもの）。

「未修中心型」「バランス型」「既修中心型」の3グループ)と、②新司法試験合格率(対調査対象受験者)を指標としたグループ(「合格率50%以上」「合格率20%以上50%未満」「合格率20%未満」とを設けた。①は、主として未修者と既修者との間に見られる差異についてより立ち入った検証を行う目的で設けたグループであり、②は、法科大学院の成績分布に比べ新司法試験の成績分布において法科大学院ごとの差異が大きいことに鑑み、より緻密な検証を行う目的で設けたグループである。

【表1-7】は、大学グループ別の調査対象者の内訳を示したものである。

【表1-7】 調査対象者の大学グループ別内訳

			総数	未受験者	受験者		
					総数	1次評価合格者	総合評価合格者
学 生 構 成 別	未修中心型 50校	総数	2,085人	618人	1,467人	953人	342人
		既修者	268人	31人	237人	219人	97人
		未修者	1,817人	587人	1,230人	734人	245人
	バランス型 10校	総数	720人	175人	545人	377人	144人
		既修者	357人	42人	315人	264人	110人
		未修者	363人	133人	230人	113人	34人
	既修中心型 14校	総数	1,836人	211人	1,625人	1,375人	739人
		既修者	1,286人	102人	1,184人	1,061人	605人
		未修者	550人	109人	441人	314人	134人
合 格 率 別	50%以上 7校	総数	1,285人	121人	1,164人	1,044人	643人
		既修者	871人	42人	829人	788人	523人
		未修者	414人	79人	335人	256人	120人
	20%以上 50%未満 29校	総数	1,720人	346人	1,374人	1,034人	455人
		既修者	644人	68人	576人	502人	227人
		未修者	1,076人	278人	798人	532人	228人
	20%未満 38校	総数	1,636人	537人	1,099人	627人	127人
		既修者	396人	65人	331人	254人	62人
		未修者	1,240人	472人	768人	373人	65人

Ⅱ 調査の内容と結果

本章では、調査の内容と結果について、統計資料を交えつつ記述する。ただし、本文中に掲げる統計資料は基本的なものに限り、それらを補充する統計資料（大学グループ別のクロス集計表）と参考資料である大学別の統計資料は、巻末の資料編にまとめて掲げることとする。

1 新司法試験受験者の法科大学院の成績と新司法試験の成績

法科大学院教育と新司法試験とは、その内容において関連性が確保される必要がある。このような内容面での関連性は、法科大学院を修了し新司法試験を受験した者について、法科大学院の成績と新司法試験の成績との間に一定の関連性が認められるかどうかを検証することによって、間接的な形で確認することができるであろう。そこで、まず、調査対象者のうち新司法試験受験者について、法科大学院の成績と新司法試験の成績との間の関連性に関する統計資料を作成し、その実状の把握を試みた。

（1）法科大学院の成績と新司法試験の成績とのクロス集計

法科大学院の成績（得点）を、「60点以上70点未満」、「70点以上75点未満」、「75点以上80点未満」、「80点以上」の4段階にカテゴリ化し、これと新司法試験の成績ランクとのクロス集計を行った。

ア 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績

【表2-1-1】～【表2-1-4】は、新司法試験の総合評価成績と法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）とのクロス集計表である。また、【図2-1】は、これを帯グラフで示したものである。

新司法試験の成績については、6段階（A～F）の総合評価成績ランクに、総合評価に至らなかった「1次評価不合格」を加え、7段階のカテゴリを用いた。また、「総合評価合格」（成績ランクA～C）、「1次評価合格・総合評価不合格」（成績ランクD～F）、「1次評価不合格」の3段階のカテゴリを用いた集計結果も付記した（帯グラフでは、「総合評価合格」のA～Cは青色系、「1次評価合格・総合評価不合格」のD～Fは緑色系で示した）。

【表2-1】及び【図2-1】によれば、法科大学院の成績カテゴリの段階が上がるにしたがって、新司法試験の成績カテゴリのうち「1次評価不合格」の割合は減少し、「総合評価合格」にあたる成績ランクA～Cの割合がいずれも増加している（【図2-1】の各帯グラフでは、グラフの帯が下る〔法科大学院の成績カテゴリが上位になる〕にしたがって、新司法試験の各成績カテゴリの境界が右方から左方に移動していることが確認できる）。ここからは、①法科大学院の成績がよい者ほど新司法試験の成績もよい傾向にあることがうか

がわれる。

また、②既修者と未修者とを比べると、法科大学院の成績カテゴリの段階が同じ者であっても、既修者の方が未修者よりも新司法試験の成績がよい傾向にあることもうかがわれる。

【表 2-1-1】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(全授業科目)

			司法試験総合評価成績							合計		
			1次 不合格	1次評価合格・総合評価不合格			総合評価合格					
				F	E	D	C	B	A			
全 体	60-70	度数	106	33	1	5	2	1	0	148		
		%	71.6%	22.3%	0.7%	3.4%	1.4%	0.7%	0.0%	100.0%	4.1%	
		度数	106	39			3			148		
		%	71.6%	26.4%			2.0%			100.0%	4.1%	
		70-75	度数	385	205	97	76	60	19	8	850	
			%	45.3%	24.1%	11.4%	8.9%	7.1%	2.2%	0.9%	100.0%	23.4%
	度数		385	378			87			850		
	%		45.3%	44.5%			10.2%			100.0%	23.4%	
	75-80	度数	350	300	182	202	233	149	109	1525		
		%	23.0%	19.7%	11.9%	13.2%	15.3%	9.8%	7.1%	100.0%	41.9%	
		度数	350	684			491			1525		
		%	23.0%	44.9%			32.2%			100.0%	41.9%	
	80-	度数	91	132	99	148	221	198	225	1114		
		%	8.2%	11.8%	8.9%	13.3%	19.8%	17.8%	20.2%	100.0%	30.6%	
		度数	91	379			644			1114		
		%	8.2%	34.0%			57.8%			100.0%	30.6%	
	合計	度数	932	670	379	431	516	367	342	3637		
		%	25.6%	18.4%	10.4%	11.9%	14.2%	10.1%	9.4%	100.0%	100.0%	
		度数	932	1480			1225			3637		
		%	25.6%	40.7%			33.7%			100.0%	100.0%	
	既 修	60-70	度数	15	15	0	3	1	1	0	35	
			%	42.9%	42.9%	0.0%	8.6%	2.9%	2.9%	0.0%	100.0%	2.0%
			度数	15	18			2			35	
			%	42.9%	51.4%			5.7%			100.0%	2.0%
70-75		度数	85	83	50	47	36	14	8	323		
		%	26.3%	25.7%	15.5%	14.6%	11.1%	4.3%	2.5%	100.0%	18.6%	
		度数	85	180			58			323		
		%	26.3%	55.7%			18.0%			100.0%	18.6%	
75-80		度数	83	132	104	113	147	104	82	765		
		%	10.8%	17.3%	13.6%	14.8%	19.2%	13.6%	10.7%	100.0%	44.1%	
		度数	83	349			333			765		
		%	10.8%	45.6%			43.5%			100.0%	44.1%	
80-		度数	9	49	49	87	131	141	147	613		
		%	1.5%	8.0%	8.0%	14.2%	21.4%	23.0%	24.0%	100.0%	35.3%	
		度数	9	185			419			613		
		%	1.5%	30.2%			68.4%			100.0%	35.3%	
合計		度数	192	279	203	250	315	260	237	1736		
		%	11.1%	16.1%	11.7%	14.4%	18.1%	15.0%	13.7%	100.0%	100.0%	
		度数	192	732			812			1736		
		%	11.1%	42.2%			46.8%			100.0%	100.0%	
未 修		60-70	度数	91	18	1	2	1	0	0	113	
			%	80.5%	15.9%	0.9%	1.8%	0.9%	0.0%	0.0%	100.0%	5.9%
			度数	91	21			1			113	
			%	80.5%	18.6%			0.9%			100.0%	5.9%
	70-75	度数	300	122	47	29	24	5	0	527		
		%	56.9%	23.1%	8.9%	5.5%	4.6%	0.9%	0.0%	100.0%	27.7%	
		度数	300	198			29			527		
		%	56.9%	37.6%			5.5%			100.0%	27.7%	
	75-80	度数	267	168	78	89	86	45	27	760		
		%	35.1%	22.1%	10.3%	11.7%	11.3%	5.9%	3.6%	100.0%	40.0%	
		度数	267	335			158			760		
		%	35.1%	44.1%			20.8%			100.0%	40.0%	
	80-	度数	82	83	50	61	90	57	78	501		
		%	16.4%	16.6%	10.0%	12.2%	18.0%	11.4%	15.6%	100.0%	26.4%	
		度数	82	194			225			501		
		%	16.4%	38.7%			44.9%			100.0%	26.4%	
	合計	度数	740	391	176	181	201	107	105	1901		
		%	38.9%	20.6%	9.3%	9.5%	10.6%	5.6%	5.5%	100.0%	100.0%	
		度数	740	748			413			1901		
		%	38.9%	39.3%			21.7%			100.0%	100.0%	

【表 2-1-2】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目[1 年次])

				司法試験総合評価成績							合計	
				1次 不合格	1次評価合格・総合評価不合格			総合評価合格				
					F	E	D	C	B	A		
総合法律基本1年	未修	60-70	度数	176	42	7	10	1	0	0	236	
			%	74.6%	17.8%	3.0%	4.2%	0.4%	0.0%	0.0%	100.0%	12.4%
		70-75	度数	176	59			1			236	
			%	74.6%	25.0%			0.4%			100.0%	12.4%
		75-80	度数	261	97	45	38	26	11	4	482	
			%	54.1%	20.1%	9.3%	7.9%	5.4%	2.3%	0.8%	100.0%	25.4%
		80-	度数	261	180			41			482	
			%	54.1%	37.3%			8.5%			100.0%	25.4%
		合計	度数	222	150	71	63	76	40	28	650	
			%	34.2%	23.1%	10.9%	9.7%	11.7%	6.2%	4.3%	100.0%	34.2%
		合計	度数	222	284			144			650	
			%	34.2%	43.7%			22.2%			100.0%	34.2%
		合計	度数	81	102	53	70	98	56	73	533	
			%	15.2%	19.1%	9.9%	13.1%	18.4%	10.5%	13.7%	100.0%	28.0%
		合計	度数	81	225			227			533	
			%	15.2%	42.2%			42.6%			100.0%	28.0%
		合計	度数	740	391	176	181	201	107	105	1901	
			%	38.9%	20.6%	9.3%	9.5%	10.6%	5.6%	5.5%	100.0%	100.0%
合計	度数	740	748			413			1901			
	%	38.9%	39.3%			21.7%			100.0%	100.0%		

* クロス集計表の合計欄について

クロス集計表の合計欄には、上段に当該成績階級の度数の合計値(◎)、下段に2つの%値が示されている。このうち左側の%値は、当該行の%値(◎を分母とする)の合計を示しており、100%(◎/◎)である。右側の%値は、4つの成績階級の度数の合計(総度数)を分母とした場合の当該成績階級の度数の合計値(◎)の割合(◎/総度数)を示している。

【表 2-1-3】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目〔2年次以降〕)

			司法試験総合評価成績							合計		
			1次 不合格	1次評価合格・総合評価不合格			総合評価合格					
				F	E	D	C	B	A			
全体	60-70	度数	212	71	19	16	10	1	0	329		
		%	64.4%	21.6%	5.8%	4.9%	3.0%	0.3%	0.0%	100.0%	9.0%	
	70-75	度数	212	106			11			329		
		%	64.4%	32.2%			3.3%			100.0%	9.0%	
	75-80	度数	426	259	115	105	84	34	20	1043		
		%	40.8%	24.8%	11.0%	10.1%	8.1%	3.3%	1.9%	100.0%	28.7%	
	80-	度数	426	479			138			1043		
		%	40.8%	45.9%			13.2%			100.0%	28.7%	
	合計	度数	248	249	167	185	238	158	121	1366		
		%	18.2%	18.2%	12.2%	13.5%	17.4%	11.6%	8.9%	100.0%	37.6%	
	60-70	度数	248	601			517			1366		
		%	18.2%	44.0%			37.8%			100.0%	37.6%	
	70-75	度数	46	91	78	125	184	174	201	899		
		%	5.1%	10.1%	8.7%	13.9%	20.5%	19.4%	22.4%	100.0%	24.7%	
	75-80	度数	46	294			559			899		
		%	5.1%	32.7%			62.2%			100.0%	24.7%	
	合計	度数	932	670	379	431	516	367	342	3637		
		%	25.6%	18.4%	10.4%	11.9%	14.2%	10.1%	9.4%	100.0%	100.0%	
	60-70	度数	932	1480			1225			3637		
		%	25.6%	40.7%			33.7%			100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	36	22	6	9	5	1	0	79	
			%	45.6%	27.8%	7.6%	11.4%	6.3%	1.3%	0.0%	100.0%	4.6%
		70-75	度数	36	37			6			79	
			%	45.6%	46.8%			7.6%			100.0%	4.6%
75-80		度数	95	120	56	54	50	23	18	416		
		%	22.8%	28.8%	13.5%	13.0%	12.0%	5.5%	4.3%	100.0%	24.0%	
80-		度数	95	230			91			416		
		%	22.8%	55.3%			21.9%			100.0%	24.0%	
合計		度数	58	105	104	118	148	115	88	736		
		%	7.9%	14.3%	14.1%	16.0%	20.1%	15.6%	12.0%	100.0%	42.4%	
60-70		度数	58	327			351			736		
		%	7.9%	44.4%			47.7%			100.0%	42.4%	
70-75		度数	3	32	37	69	112	121	131	505		
		%	0.6%	6.3%	7.3%	13.7%	22.2%	24.0%	25.9%	100.0%	29.1%	
75-80		度数	3	138			364			505		
		%	0.6%	27.3%			72.1%			100.0%	29.1%	
合計		度数	192	279	203	250	315	260	237	1736		
		%	11.1%	16.1%	11.7%	14.4%	18.1%	15.0%	13.7%	100.0%	100.0%	
60-70		度数	192	732			812			1736		
		%	11.1%	42.2%			46.8%			100.0%	100.0%	
未修		60-70	度数	176	49	13	7	5	0	0	250	
			%	70.4%	19.6%	5.2%	2.8%	2.0%	0.0%	0.0%	100.0%	13.2%
		70-75	度数	176	69			5			250	
			%	70.4%	27.6%			2.0%			100.0%	13.2%
	75-80	度数	331	139	59	51	34	11	2	627		
		%	52.8%	22.2%	9.4%	8.1%	5.4%	1.8%	0.3%	100.0%	33.0%	
	80-	度数	331	249			47			627		
		%	52.8%	39.7%			7.5%			100.0%	33.0%	
	合計	度数	190	144	63	67	90	43	33	630		
		%	30.2%	22.9%	10.0%	10.6%	14.3%	6.8%	5.2%	100.0%	33.1%	
	60-70	度数	190	274			166			630		
		%	30.2%	43.5%			26.3%			100.0%	33.1%	
	70-75	度数	43	59	41	56	72	53	70	394		
		%	10.9%	15.0%	10.4%	14.2%	18.3%	13.5%	17.8%	100.0%	20.7%	
	75-80	度数	43	156			195			394		
		%	10.9%	39.6%			49.5%			100.0%	20.7%	
	合計	度数	740	391	176	181	201	107	105	1901		
		%	38.9%	20.6%	9.3%	9.5%	10.6%	5.6%	5.5%	100.0%	100.0%	
	60-70	度数	740	748			413			1901		
		%	38.9%	39.3%			21.7%			100.0%	100.0%	

総合法律基本2年

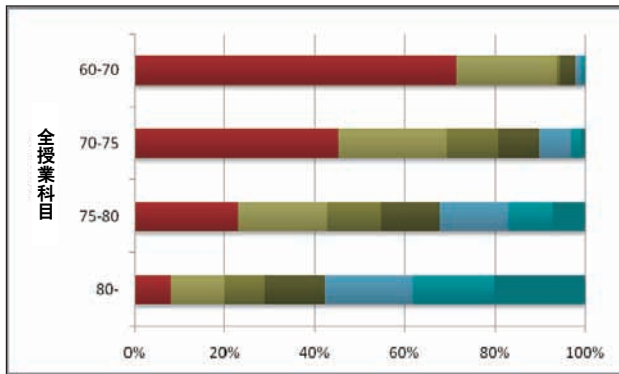
【表 2-1-4】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(必修法律実務基礎科目)

				司法試験総合評価成績							合計		
				1次 不合格	1次評価合格・総合評価不合格			総合評価合格					
					F	E	D	C	B	A			
全体	60-70	度数	199	96	33	27	18	11	3	387			
		%	51.4%	24.8%	8.5%	7.0%	4.7%	2.8%	0.8%	100.0%	10.6%		
		度数	199	156			32			387			
		%	51.4%	40.3%			8.3%			100.0%	10.6%		
		70-75	度数	279	179	95	106	84	40	26	809		
			%	34.5%	22.1%	11.7%	13.1%	10.4%	4.9%	3.2%	100.0%	22.2%	
	度数		279	380			150			809			
	%		34.5%	47.0%			18.5%			100.0%	22.2%		
	75-80	度数	312	248	138	176	190	124	90	1278			
		%	24.4%	19.4%	10.8%	13.8%	14.9%	9.7%	7.0%	100.0%	35.1%		
		度数	312	562			404			1278			
		%	24.4%	44.0%			31.6%			100.0%	35.1%		
	80-	度数	142	147	113	122	224	192	223	1163			
		%	12.2%	12.6%	9.7%	10.5%	19.3%	16.5%	19.2%	100.0%	32.0%		
		度数	142	382			639			1163			
		%	12.2%	32.8%			54.9%			100.0%	32.0%		
	合計	度数	932	670	379	431	516	367	342	3637			
		%	25.6%	18.4%	10.4%	11.9%	14.2%	10.1%	9.4%	100.0%	100.0%		
		度数	932	1480			1225			3637			
			%	25.6%	40.7%			33.7%			100.0%	100.0%	
	総合実務基礎	既修	60-70	度数	37	45	21	14	9	8	2	136	
				%	27.2%	33.1%	15.4%	10.3%	6.6%	5.9%	1.5%	100.0%	7.8%
			度数	37	80			19			136		
			%	27.2%	58.8%			14.0%			100.0%	7.8%	
70-75			度数	79	76	49	68	51	25	18	366		
			%	21.6%	20.8%	13.4%	18.6%	13.9%	6.8%	4.9%	100.0%	21.1%	
		度数	79	193			94			366			
		%	21.6%	52.7%			25.7%			100.0%	21.1%		
75-80		度数	63	107	74	103	115	92	64	618			
		%	10.2%	17.3%	12.0%	16.7%	18.6%	14.9%	10.4%	100.0%	35.6%		
		度数	63	284			271			618			
		%	10.2%	46.0%			43.9%			100.0%	35.6%		
80-		度数	13	51	59	65	140	135	153	616			
		%	2.1%	8.3%	9.6%	10.6%	22.7%	21.9%	24.8%	100.0%	35.5%		
		度数	13	175			428			616			
		%	2.1%	28.4%			69.5%			100.0%	35.5%		
合計		度数	192	279	203	250	315	260	237	1736			
		%	11.1%	16.1%	11.7%	14.4%	18.1%	15.0%	13.7%	100.0%	100.0%		
		度数	192	732			812			1736			
			%	11.1%	42.2%			46.8%			100.0%	100.0%	
未修		60-70	度数	162	51	12	13	9	3	1	251		
			%	64.5%	20.3%	4.8%	5.2%	3.6%	1.2%	0.4%	100.0%	13.2%	
			度数	162	76			13			251		
			%	64.5%	30.3%			5.2%			100.0%	13.2%	
	70-75		度数	200	103	46	38	33	15	8	443		
			%	45.1%	23.3%	10.4%	8.6%	7.4%	3.4%	1.8%	100.0%	23.3%	
		度数	200	187			56			443			
		%	45.1%	42.2%			12.6%			100.0%	23.3%		
	75-80	度数	249	141	64	73	75	32	26	660			
		%	37.7%	21.4%	9.7%	11.1%	11.4%	4.8%	3.9%	100.0%	34.7%		
		度数	249	278			133			660			
		%	37.7%	42.1%			20.2%			100.0%	34.7%		
	80-	度数	129	96	54	57	84	57	70	547			
		%	23.6%	17.6%	9.9%	10.4%	15.4%	10.4%	12.8%	100.0%	28.8%		
		度数	129	207			211			547			
		%	23.6%	37.8%			38.6%			100.0%	28.8%		
	合計	度数	740	391	176	181	201	107	105	1901			
		%	38.9%	20.6%	9.3%	9.5%	10.6%	5.6%	5.5%	100.0%	100.0%		
		度数	740	748			413			1901			
			%	38.9%	39.3%			21.7%			100.0%	100.0%	

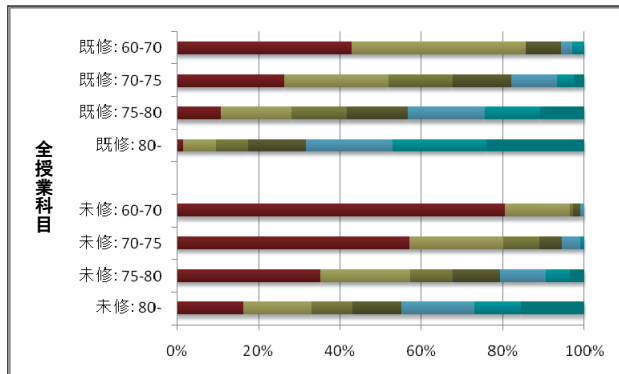
【図 2-1】新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績

① 全授業科目

A 全体

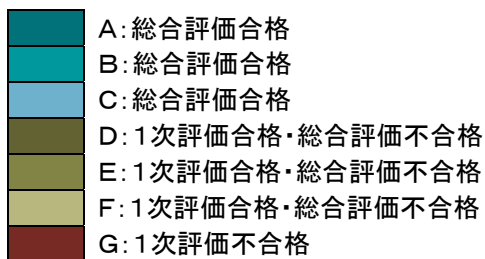
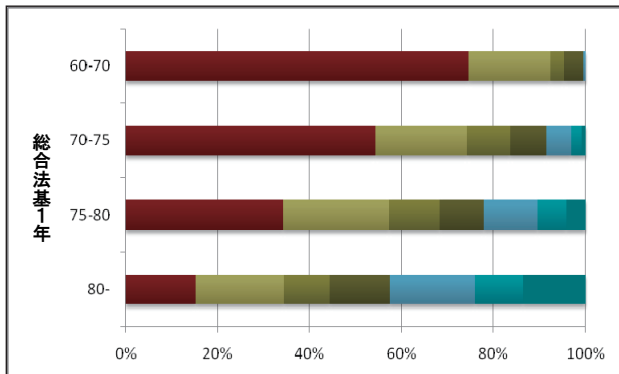


B 既修・未修別



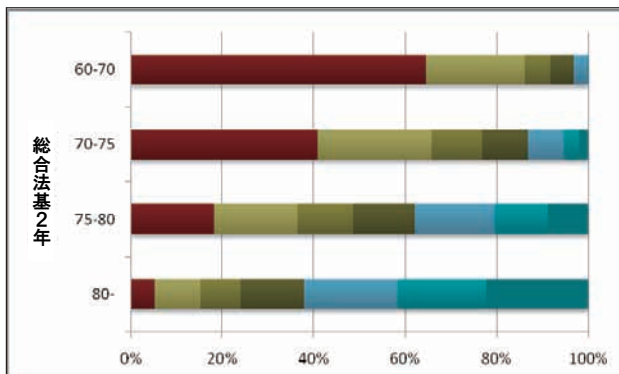
② 総合必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

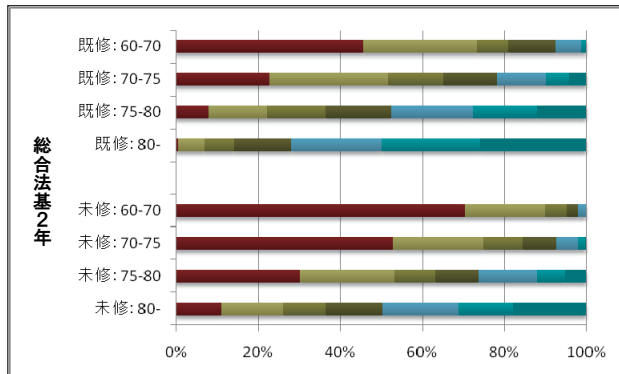


③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

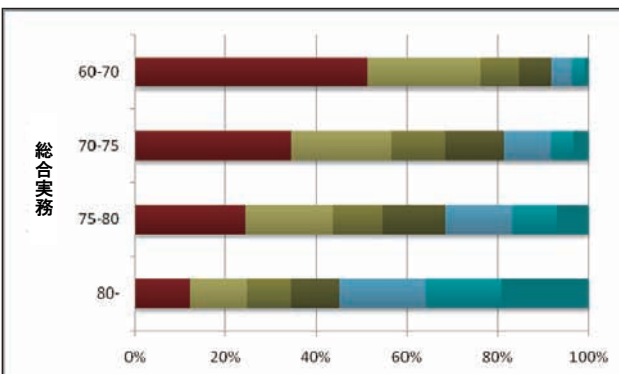


B 既修・未修別

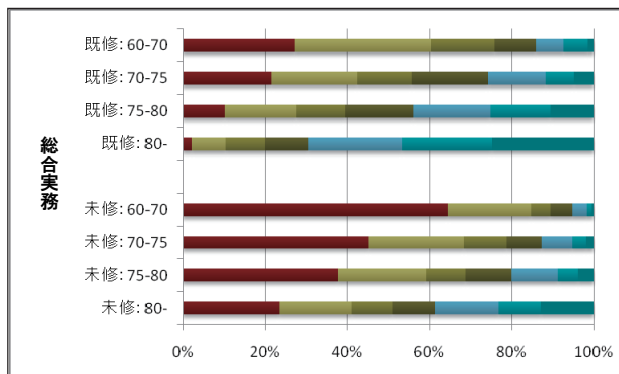


④ 総合必修法律実務基礎科目

A 全体



B 既修・未修別



上述の傾向について、さらに立ち入って検証するため、法科大学院の全授業科目の成績について、大学グループ別（学生構成別、合格率別）の集計を行い、それを帯グラフに表したのが【図 2-2】【図 2-3】である（クロス集計表は、資料編 1【資料 1-1】【資料 1-2】参照）。

まず、学生構成による大学グループ別の集計を行い、その結果を示したのが【図 2-2】である。

上記②の傾向が、既修者と未修者の違いに起因するものであるか否かは、協力校全体に関する【表 2-1】と【図 2-1】のみからは即断することができない。なぜならば、既修者と未修者の学生構成は法科大学院によって異なるが、例えば、既修者が多い法科大学院と未修者が多い法科大学院との違いが統計上②のような形で現れている可能性も否定できないからである。

しかし、【図 2-2】によれば、上記②の傾向は、未修中心型の法科大学院でも既修中心型の法科大学院でも共通に確認することができる。ここからは、②の傾向が上記のような法科大学院の違いと結び付いたものではないことが読み取れよう。

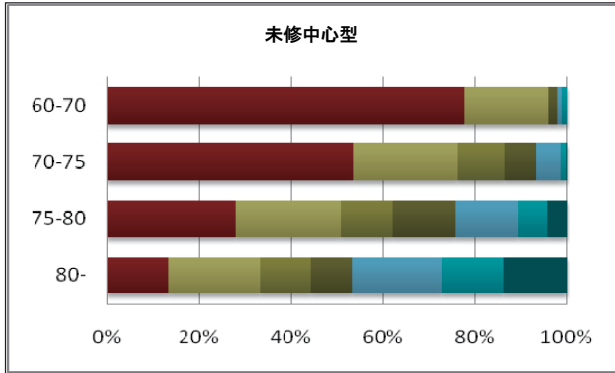
次に、合格率による大学グループ別の集計を行い、その結果を示したのが【図 2-3】である。これによれば、上記①②の傾向は、いずれの大学グループについても同様に確認することができるといえる。

* 【図 2-2】【図 2-3】において、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層は、サンプル数が極めて少ない場合がある。とりわけ、【図 2-2】の「未修中心型」グループの既修者、「バランス型」グループの既修者、未修者、【図 2-3】の「合格率 50%以上」グループの全体、既修者、未修者は、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層のサンプル数が 10 未満である（【資料 1-1】【資料 1-2】参照）。この点は、【図 2-2】【図 2-3】を見るうえで注意を要する。例えば、【図 2-2】の「未修中心型」グループの既修者、【図 2-3】の「合格率 50%以上」グループの既修者には、①の傾向とはやや異なった所見が認められる部分があるが、上記の点に注意した見方が必要である。

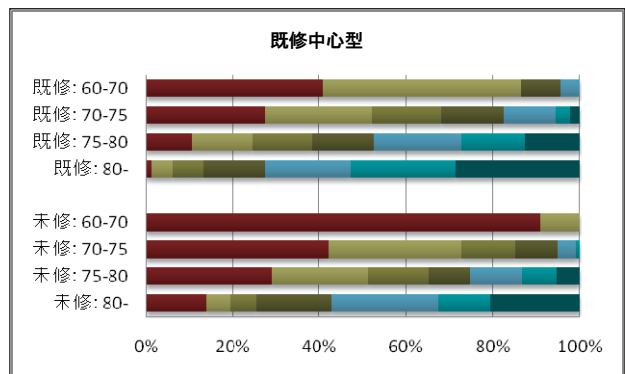
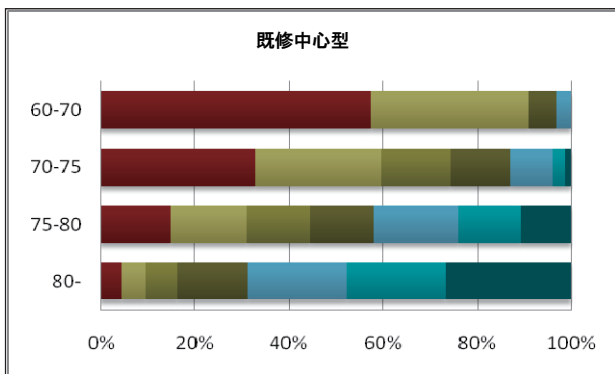
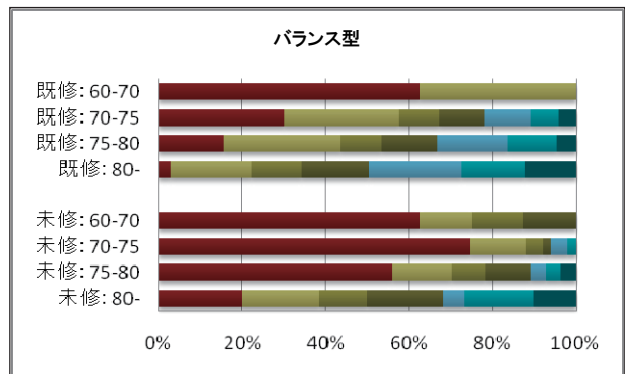
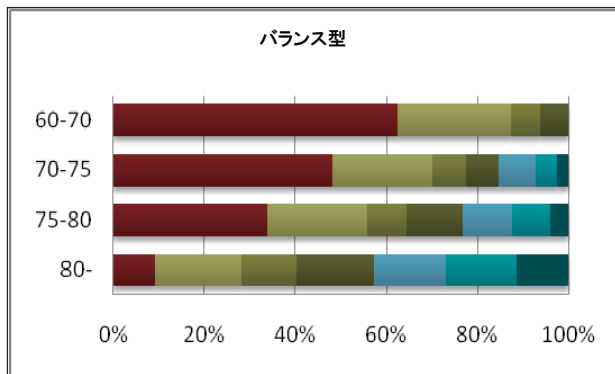
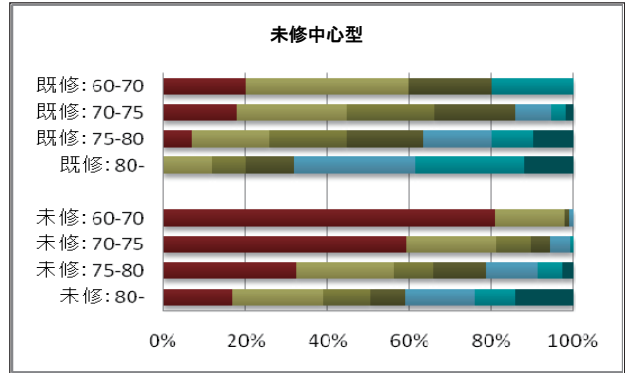
以上に関連する参考資料として、資料編 2【資料 2-1】には、法科大学院の全授業科目の成績について大学別の統計資料（帯グラフ）を示した。

【図 2-2】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(全授業科目):大学グループ別(学生構成別)

A 全体



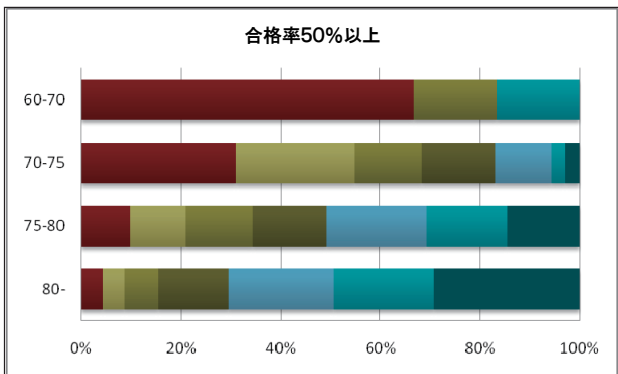
B 既修・未修別



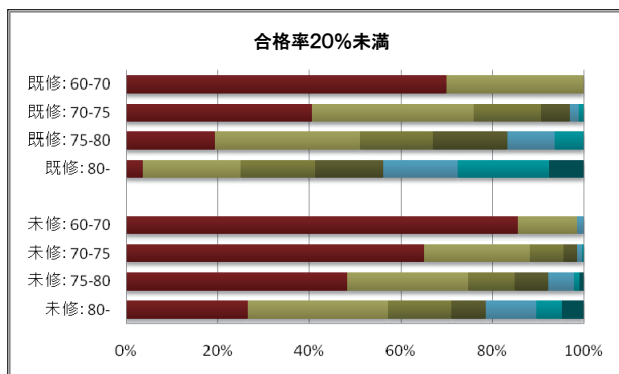
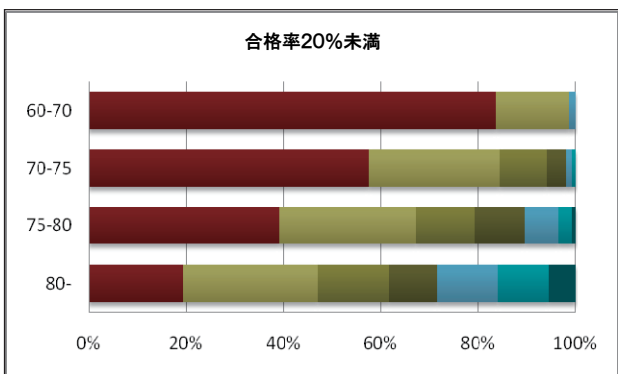
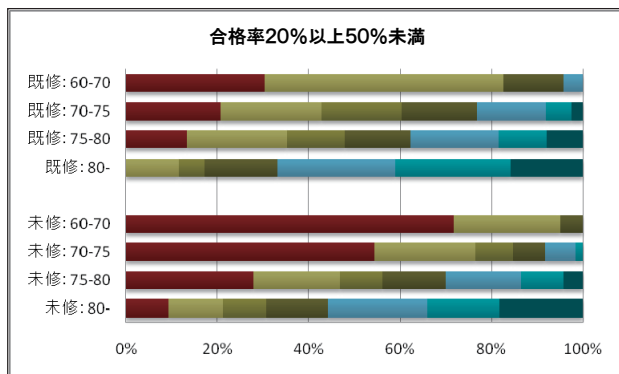
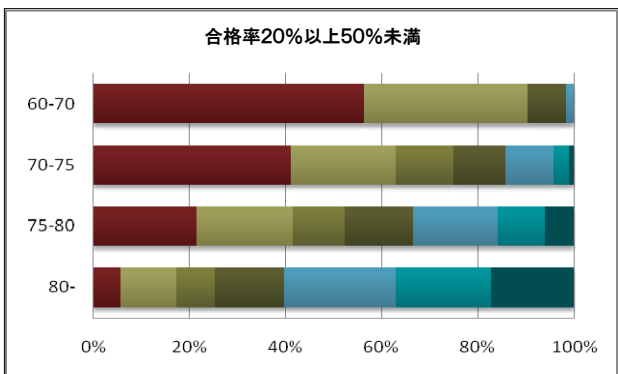
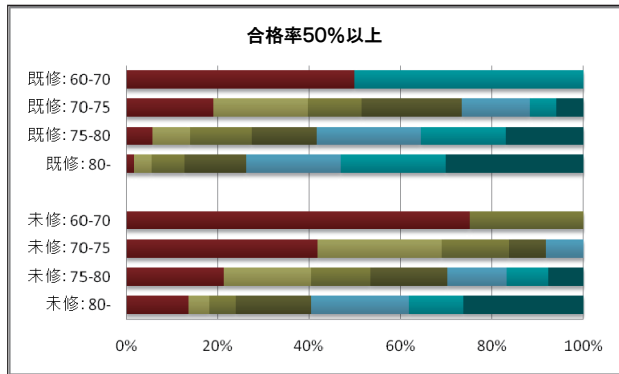
- A: 総合評価合格
- B: 総合評価合格
- C: 総合評価合格
- D: 1次評価合格・総合評価不合格
- E: 1次評価合格・総合評価不合格
- F: 1次評価合格・総合評価不合格
- G: 1次評価不合格

【図 2-3】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績(全授業科目):大学グループ別(合格率別)

A 全体



B 既修・未修別



- A: 総合評価合格
- B: 総合評価合格
- C: 総合評価合格
- D: 1次評価合格・総合評価不合格
- E: 1次評価合格・総合評価不合格
- F: 1次評価合格・総合評価不合格
- G: 1次評価不合格

イ 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績

【表 2-2-1】～【表 2-2-4】は、新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1 年次〕、同〔2 年次以降〕、必修法律実務基礎科目の 4 項目）とのクロス集計表である。また、【図 2-4】は、これを帯グラフで示したものである。

新司法試験の成績のカテゴリは、5 段階（A～E）の短答式試験総合成績ランクを用い、「1 次評価合格」（成績ランク A～C）、「1 次評価不合格」（D～E）の 2 段階のカテゴリによる集計結果も付記した（帯グラフでは、「1 次評価合格」の A～C は緑色系、「1 次評価不合格」の D～E は赤色系で示した）。

【表 2-2】及び【図 2-4】によれば、法科大学院の成績カテゴリの段階が上がるにしたがって、新司法試験の成績カテゴリのうち「1 次評価不合格」にあたる成績ランク E の割合は減少し、D の割合も概ね減少している一方、「1 次評価合格」にあたる成績ランクのうち A の割合は増加し、B の割合も概ね増加している（【図 2-4】の各帯グラフでは、グラフの帯が下る〔法科大学院の成績カテゴリが上位になる〕にしたがって、新司法試験の各成績カテゴリの境界が右方から左方に移動していることが確認できる）。ここからは、新司法試験の短答式試験総合成績についても、総合評価成績についてと同様、①法科大学院の成績がよい者ほど新司法試験の成績もよい傾向にあることがうかがわれる。また、②既修者と未修者とを比べると、法科大学院の成績カテゴリの段階が同じ者であっても、既修者の方が未修者よりも新司法試験の成績がよい傾向にあることもうかがわれる。

これらの傾向について、さらに立ち入って検証するため、法科大学院の全授業科目の成績について、大学グループ別（学生構成別、合格率別）の集計を行い、それを帯グラフに表したのが【図 2-5】【図 2-6】である（クロス集計表は、資料編 1【資料 1-3】【資料 1-4】参照）。

ここでも、新司法試験の総合評価成績について確認したのと同じことを概ね確認することができる。

* 【図 2-5】【図 2-6】において、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層は、サンプル数が極めて少ない場合がある。とりわけ、【図 2-5】の「未修中心型」グループの既修者、「バランス型」グループの既修者、未修者、【図 2-6】の「合格率 50%以上」グループの全体、既修者、未修者は、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層のサンプル数が 10 未満である（【資料 1-3】【資料 1-4】参照）。この点は、【図 2-5】【図 2-6】を見るうえで注意を要する。例えば、【図 2-5】の「未修中心型」グループの既修者、「バランス型」グループの未修者には、①の傾向とはやや異なった所見が認められる部分があり、また、「バランス型」グループの法科大学院の成績「60 点以上 70 点未満」の層には、②の傾向とはやや異なった所見が認められる部分があるが、いずれについても、上記の点に注意した見方が必要である。

以上に関連する参考資料として、資料編 2【資料 2-2】には、法科大学院の全授業科目の成績について大学別の統計資料（帯グラフ）を示した。

【表 2-2-1】 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目)

				司法試験短答式総合成績					合計	
				1次不合格		1次合格				
				E	D	C	B	A		
全 体	60-70	度数	69	37	26	12	4	148		
		%	46.6%	25.0%	17.6%	8.1%	2.7%	100.0%	4.1%	
	70-75	度数	106		42			148		
		%	71.6%		28.4%			100.0%	4.1%	
	75-80	度数	191	194	240	176	49	850		
		%	22.5%	22.8%	28.2%	20.7%	5.8%	100.0%	23.4%	
	80-	度数	385		465			850		
		%	45.3%		54.7%			100.0%	23.4%	
	合計	度数	131	219	446	445	284	1525		
		%	8.6%	14.4%	29.2%	29.2%	18.6%	100.0%	41.9%	
	60-70	度数	350		1175			1525		
		%	23.0%		77.0%			100.0%	41.9%	
	70-75	度数	21	70	200	409	414	1114		
		%	1.9%	6.3%	18.0%	36.7%	37.2%	100.0%	30.6%	
	75-80	度数	91		1023			1114		
		%	8.2%		91.8%			100.0%	30.6%	
	合計	度数	412	520	912	1042	751	3637		
		%	11.3%	14.3%	25.1%	28.6%	20.6%	100.0%	100.0%	
	既 修	60-70	度数	6	9	10	6	4	35	
			%	17.1%	25.7%	28.6%	17.1%	11.4%	100.0%	2.0%
		70-75	度数	15		20			35	
			%	42.9%		57.1%			100.0%	2.0%
		75-80	度数	37	48	97	102	39	323	
			%	11.5%	14.9%	30.0%	31.6%	12.1%	100.0%	18.6%
80-		度数	85		238			323		
		%	26.3%		73.7%			100.0%	18.6%	
合計		度数	18	65	214	269	199	765		
		%	2.4%	8.5%	28.0%	35.2%	26.0%	100.0%	44.1%	
60-70		度数	83		682			765		
		%	10.8%		89.2%			100.0%	44.1%	
70-75		度数	3	6	77	245	282	613		
		%	0.5%	1.0%	12.6%	40.0%	46.0%	100.0%	35.3%	
75-80		度数	9		604			613		
		%	1.5%		98.5%			100.0%	35.3%	
合計		度数	64	128	398	622	524	1736		
		%	3.7%	7.4%	22.9%	35.8%	30.2%	100.0%	100.0%	
60-70		度数	192		1544			1736		
		%	11.1%		88.9%			100.0%	100.0%	
未 修		60-70	度数	63	28	16	6	0	113	
			%	55.8%	24.8%	14.2%	5.3%	0.0%	100.0%	5.9%
		70-75	度数	91		22			113	
			%	80.5%		19.5%			100.0%	5.9%
	75-80	度数	154	146	143	74	10	527		
		%	29.2%	27.7%	27.1%	14.0%	1.9%	100.0%	27.7%	
	80-	度数	300		227			527		
		%	56.9%		43.1%			100.0%	27.7%	
	合計	度数	113	154	232	176	85	760		
		%	14.9%	20.3%	30.5%	23.2%	11.2%	100.0%	40.0%	
	60-70	度数	267		493			760		
		%	35.1%		64.9%			100.0%	40.0%	
	70-75	度数	18	64	123	164	132	501		
		%	3.6%	12.8%	24.6%	32.7%	26.3%	100.0%	26.4%	
	75-80	度数	82		419			501		
		%	16.4%		83.6%			100.0%	26.4%	
	合計	度数	348	392	514	420	227	1901		
		%	18.3%	20.6%	27.0%	22.1%	11.9%	100.0%	100.0%	
	60-70	度数	740		1161			1901		
		%	38.9%		61.0%			100.0%	100.0%	

【表 2-2-2】 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目〔1年次〕)

				司法試験短答式総合成績					合計	
				1次不合格		1次合格				
				E	D	C	B	A		
総合法律基本1年	未修	60-70	度数	115	61	42	18	0	236	
			%	48.7%	25.8%	17.8%	7.6%	0.0%	100.0%	12.4%
		70-75	度数	176		60			236	
			%	74.6%		25.4%			100.0%	12.4%
		75-80	度数	132	129	137	67	17	482	
			%	27.4%	26.8%	28.4%	13.9%	3.5%	100.0%	25.4%
		80-	度数	261		221			482	
			%	54.1%		45.9%			100.0%	25.4%
		合計	度数	78	144	200	155	73	650	
			%	12.0%	22.2%	30.8%	23.8%	11.2%	100.0%	34.2%
		合計	度数	222		428			650	
			%	34.2%		65.8%			100.0%	34.2%
		合計	度数	23	58	135	180	137	533	
			%	4.3%	10.9%	25.3%	33.8%	25.7%	100.0%	28.0%
		合計	度数	81		452			533	
			%	15.2%		84.8%			100.0%	28.0%
		合計	度数	348	392	514	420	227	1901	
			%	18.3%	20.6%	27.0%	22.1%	11.9%	100.0%	100.0%
合計	度数	740		1161			1901			
	%	38.9%		61.1%			100.0%	100.0%		

【表 2-2-3】 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目〔2年次以降〕)

				司法試験短答式総合成績					合計		
				1次不合格		1次合格					
				E	D	C	B	A			
総合法律基本2年	全体	60-70	度数	131	81	78	29	10	329		
			%	39.8%	24.6%	23.7%	8.8%	3.0%	100.0%	9.0%	
		70-75	度数	209	217	319	218	80	1043		
			%	20.0%	20.8%	30.6%	20.9%	7.7%	100.0%	28.7%	
		75-80	度数	63	185	370	465	283	1366		
			%	4.6%	13.5%	27.1%	34.0%	20.7%	100.0%	37.6%	
		80-	度数	9	37	145	330	378	899		
			%	1.0%	4.1%	16.1%	36.7%	42.0%	100.0%	24.7%	
		合計	度数	412	520	912	1042	751	3637		
			%	11.3%	14.3%	25.1%	28.6%	20.6%	100.0%	100.0%	
		既修	60-70	度数	17	19	23	12	8	79	
				%	21.5%	24.1%	29.1%	15.2%	10.1%	100.0%	4.6%
	70-75		度数	36	59	138	124	59	416		
			%	8.7%	14.2%	33.2%	29.8%	14.2%	100.0%	24.0%	
	75-80		度数	11	47	189	289	200	736		
			%	1.5%	6.4%	25.7%	39.3%	27.2%	100.0%	42.4%	
	80-		度数	0	3	48	197	257	505		
			%	0.0%	0.6%	9.5%	39.0%	50.9%	100.0%	29.1%	
	合計		度数	64	128	398	622	524	1736		
			%	3.7%	7.4%	22.9%	35.8%	30.2%	100.0%	100.0%	
	未修		60-70	度数	114	62	55	17	2	250	
				%	45.6%	24.8%	22.0%	6.8%	0.8%	100.0%	13.2%
		70-75	度数	173	158	181	94	21	627		
			%	27.6%	25.2%	28.9%	15.0%	3.3%	100.0%	33.0%	
75-80		度数	52	138	181	176	83	630			
		%	8.3%	21.9%	28.7%	27.9%	13.2%	100.0%	33.1%		
80-		度数	9	34	97	133	121	394			
		%	2.3%	8.6%	24.6%	33.8%	30.7%	100.0%	20.7%		
合計		度数	348	392	514	420	227	1901			
		%	18.3%	20.6%	27.0%	22.1%	11.9%	100.0%	100.0%		

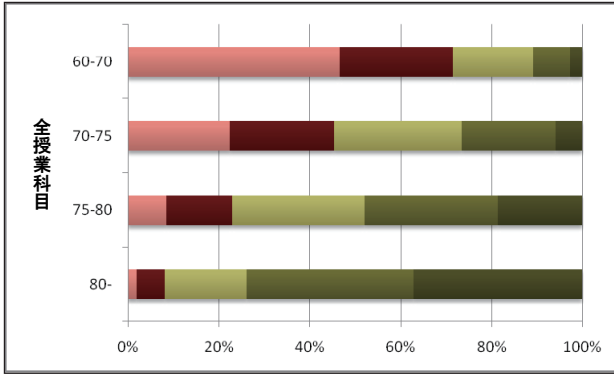
【表 2-2-4】 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律実務基礎科目)

				司法試験短答式総合成績					合計		
				1次不合格		1次合格					
				E	D	C	B	A			
総合実務基礎	全体	60-70	度数	110	89	97	73	18	387		
			%	28.4%	23.0%	25.1%	18.9%	4.7%	100.0%	10.6%	
		70-75	度数	199		188			387		
			%	51.4%		48.6%			100.0%	10.6%	
		75-80	度数	140	139	250	190	90	809		
			%	17.3%	17.2%	30.9%	23.5%	11.1%	100.0%	22.2%	
		80-	度数	279		530			809		
			%	34.5%		65.5%			100.0%	22.2%	
		合計	度数	116	196	345	394	227	1278		
			%	9.1%	15.3%	27.0%	30.8%	17.8%	100.0%	35.1%	
		既修	60-70	度数	312		966			1278	
				%	24.4%		75.6%			100.0%	35.1%
	70-75		度数	46	96	220	385	416	1163		
			%	4.0%	8.3%	18.9%	33.1%	35.8%	100.0%	32.0%	
	75-80		度数	142		1021			1163		
			%	12.2%		87.8%			100.0%	32.0%	
	80-		度数	15	22	41	44	14	136		
			%	11.0%	16.2%	30.1%	32.4%	10.3%	100.0%	7.8%	
	合計		度数	31	48	113	112	62	366		
			%	8.5%	13.1%	30.9%	30.6%	16.9%	100.0%	21.1%	
	未修		60-70	度数	79		287			366	
				%	21.6%		78.4%			100.0%	21.1%
		70-75	度数	13	50	156	240	159	618		
			%	2.1%	8.1%	25.2%	38.8%	25.7%	100.0%	35.6%	
75-80		度数	63		555			618			
		%	10.2%		89.8%			100.0%	35.6%		
80-		度数	5	8	88	226	289	616			
		%	0.8%	1.3%	14.3%	36.7%	46.9%	100.0%	35.5%		
合計		度数	13		603	97.9%			616		
		%	2.1%		97.9%				100.0%	35.5%	
合計		度数	64	128	398	622	524	1736			
		%	3.7%	7.4%	22.9%	35.8%	30.2%	100.0%	100.0%		
60-70	度数	192		1544			1736				
	%	11.1%		88.9%			100.0%	100.0%			
60-70	度数	95	67	56	29	4	251				
	%	37.8%	26.7%	22.3%	11.6%	1.6%	100.0%	13.2%			
70-75	度数	162		89			251				
	%	64.5%		35.5%			100.0%	13.2%			
75-80	度数	109	91	137	78	28	443				
	%	24.6%	20.5%	30.9%	17.6%	6.3%	100.0%	23.3%			
80-	度数	200		243			443				
	%	45.1%		54.9%			100.0%	23.3%			
合計	度数	103	146	189	154	68	660				
	%	15.6%	22.1%	28.6%	23.3%	10.3%	100.0%	34.7%			
60-70	度数	249		411			660				
	%	37.7%		62.3%			100.0%	34.7%			
70-75	度数	41	88	132	159	127	547				
	%	7.5%	16.1%	24.1%	29.1%	23.2%	100.0%	28.8%			
75-80	度数	129		418			547				
	%	23.6%		76.4%			100.0%	28.8%			
80-	度数	348	392	514	420	227	1901				
	%	18.3%	20.6%	27.0%	22.1%	11.9%	100.0%	100.0%			
合計	度数	740		1161			1901				
	%	38.9%		61.1%			100.0%	100.0%			

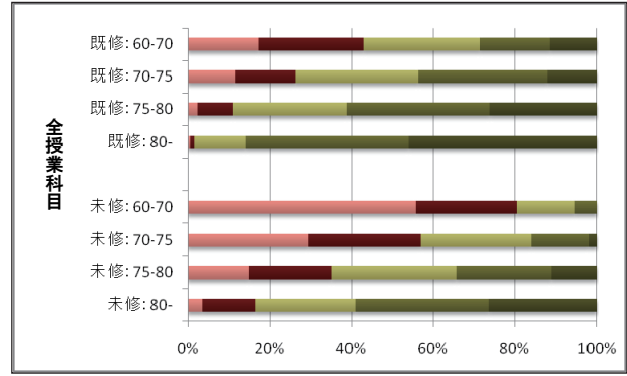
【図 2-4】 新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績

① 全授業科目

A 全体

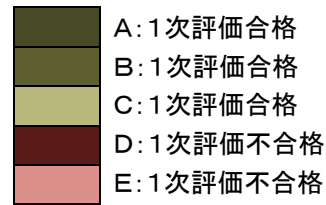
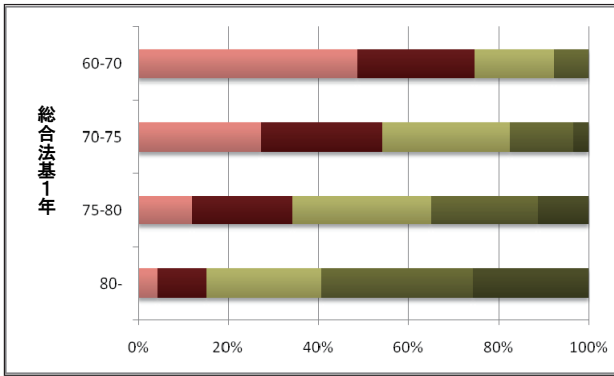


B 既修・未修別



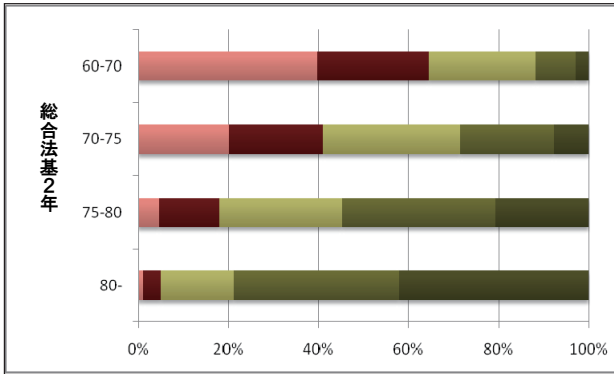
② 総合必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

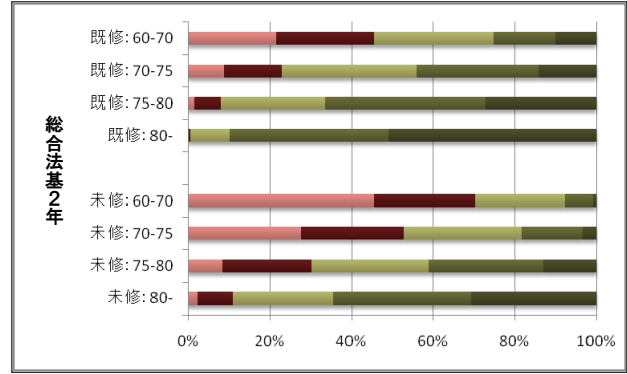


③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

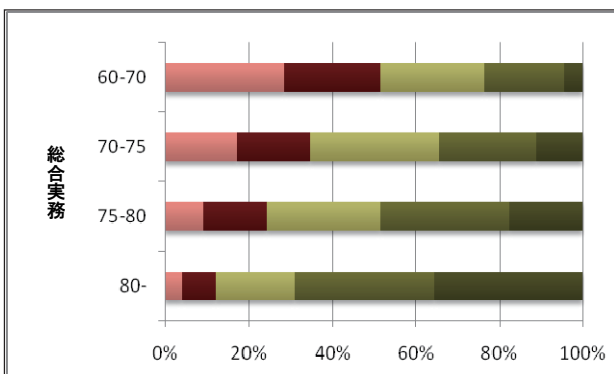


B 既修・未修別

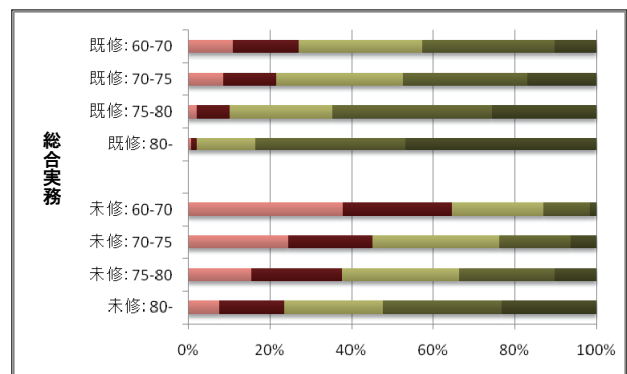


④ 総合必修法律実務基礎科目

A 全体

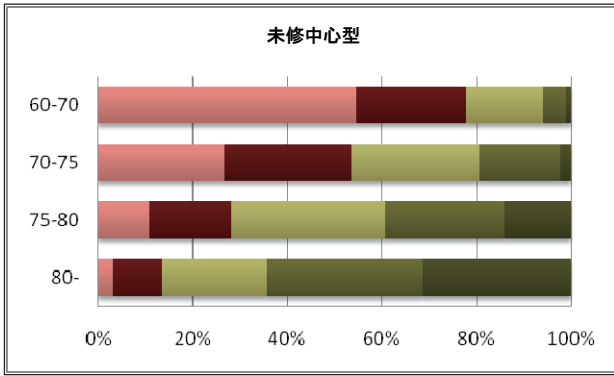


B 既修・未修別

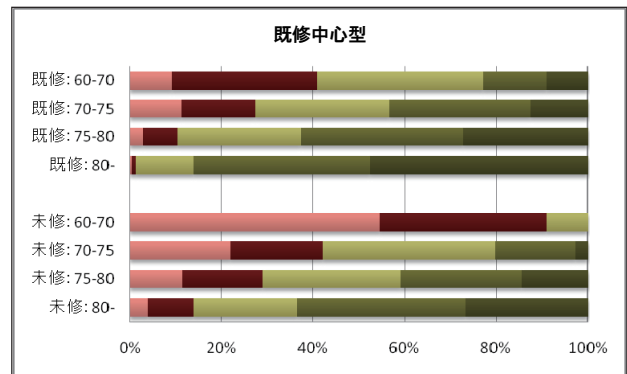
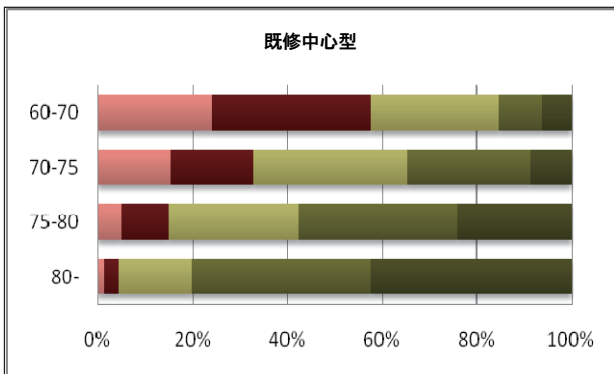
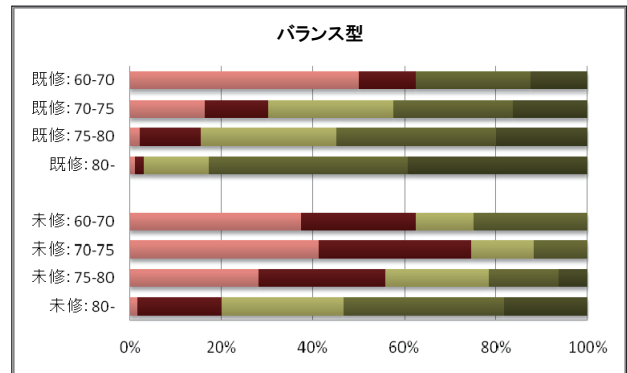
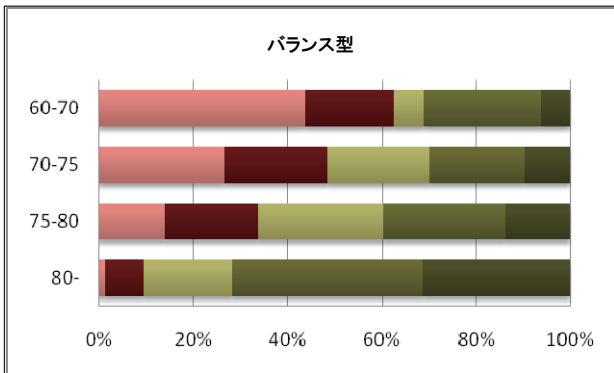
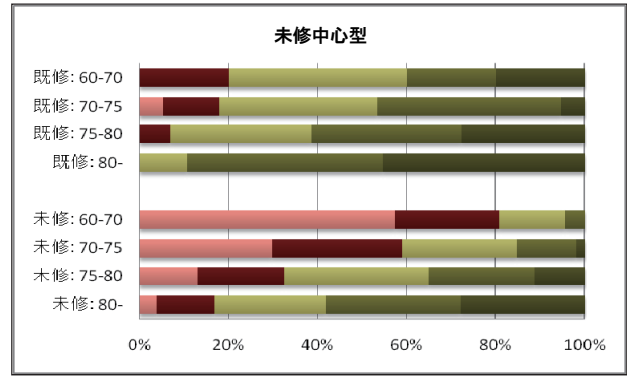


【図 2-5】新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目):大学グループ別(学生構成別)

A 全体



B 既修・未修別

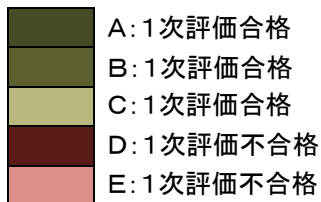
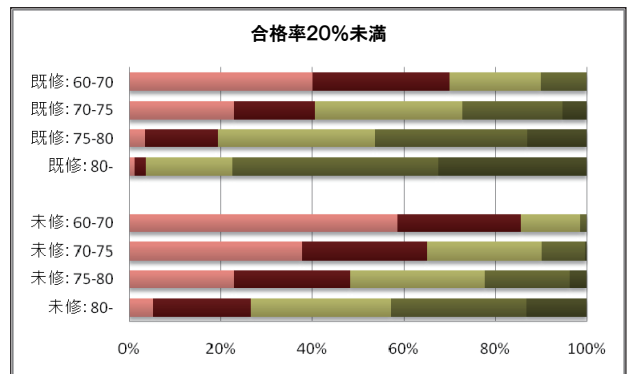
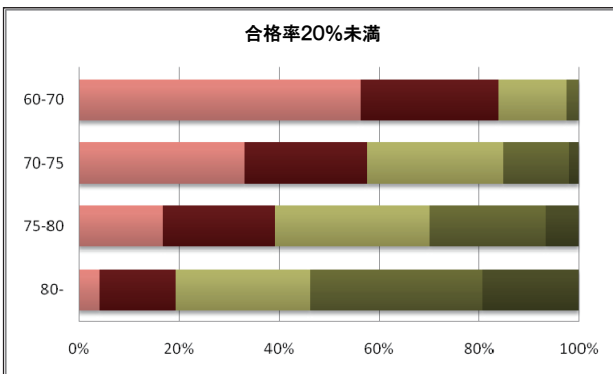
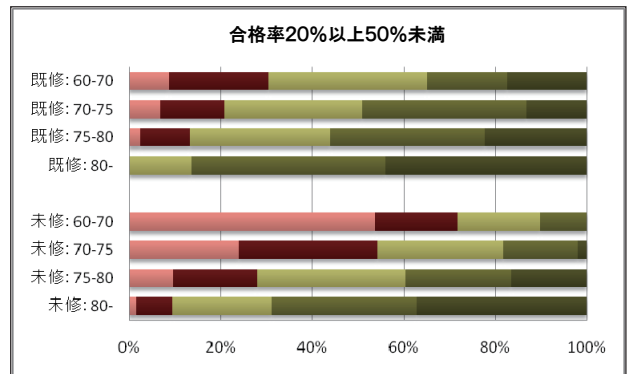
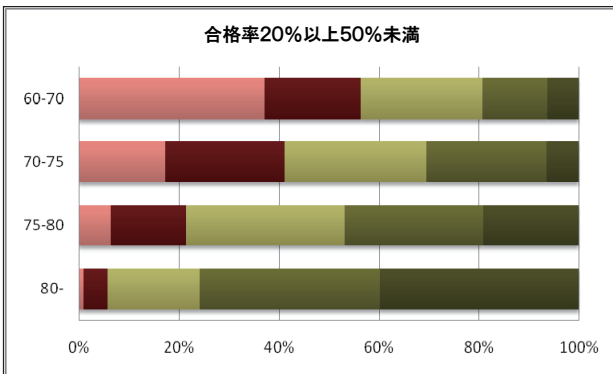
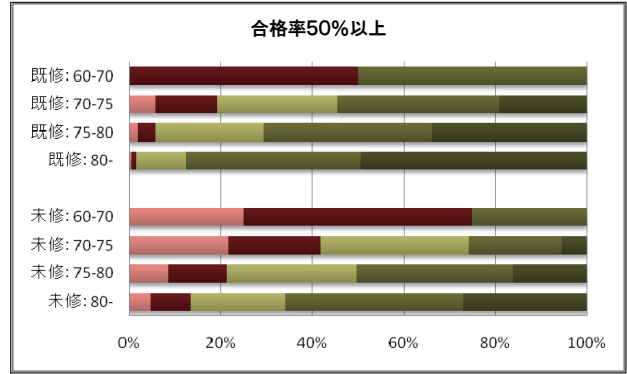
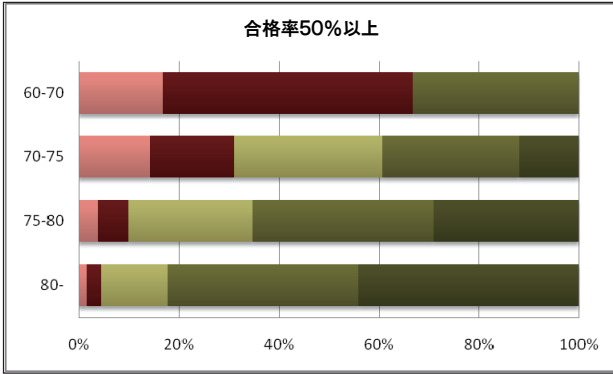


- A: 1次評価合格
- B: 1次評価合格
- C: 1次評価合格
- D: 1次評価不合格
- E: 1次評価不合格

【図 2-6】新司法試験の短答式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目):大学グループ別(合格率別)

A 全体

B 既修・未修別



ウ 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績

【表 2-3-1】～【表 2-3-4】は、新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1 年次〕、同〔2 年次以降〕、必修法律実務基礎科目の 4 項目）とのクロス集計表である。また、【図 2-7】は、これを帯グラフで示したものである。

新司法試験の成績のカテゴリは、5 段階（A～E）の論文式試験総合成績ランクを用いた。これらの図表は、新司法試験受験者のうち、1 次評価合格者のみを母数とする。

【表 2-3】及び【図 2-7】によれば、法科大学院の成績カテゴリの段階が上がるにしたがって、新司法試験の成績カテゴリのうち、成績ランク E の割合は減少している一方、成績ランク A～B の割合はいずれも増加している（【図 2-7】の各帯グラフでは、グラフの帯が下る〔法科大学院の成績カテゴリが上位になる〕にしたがって、新司法試験の各成績カテゴリの境界が右方から左方に移動していることが確認できる）。ここからは、新司法試験の論文式試験総合成績についても、総合評価成績についてと同様、①法科大学院の成績がよい者ほど新司法試験の成績もよい傾向にあることがうかがわれる。また、②既修者と未修者とを比べると、法科大学院の成績カテゴリの段階が同じ者であっても、既修者の方が未修者よりも新司法試験の成績がよい傾向にあることもうかがわれる。

これらの傾向について、さらに立ち入って検証するため、法科大学院の全授業科目の成績について、大学グループ別の集計（学生構成別、合格率別）を行い、それを帯グラフに表したのが【図 2-8】【図 2-9】である（クロス集計表は、資料編 1【資料 1-5】【資料 1-6】参照）。

ここでも、新司法試験の総合評価成績について確認したのと同じことを概ね確認することができる。

* 上記②として指摘した既修者と未修者との差は、総合評価成績や短答式試験成績に比べて小さいものと思われる。また、大学グループ別に見た場合、法科大学院の成績カテゴリ中、②に指摘した傾向が明らかとはいえない段階が存在する。これらの点については、「3 調査結果のまとめ」において、資料を補った（88 頁以下参照）。

* 【図 2-8】【図 2-9】において、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層は、サンプル数が極めて少ない場合がある。とりわけ、【図 2-8】の「未修中心型」グループの既修者、「バランス型」グループの全体、既修者、未修者、「既修中心型」グループの未修者、【図 2-9】の「合格率 50%以上」グループの全体、既修者、未修者、「合格率 20%未満」グループの既修者は、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層のサンプル数が 10 未満である（【資料 1-5】【資料 1-6】参照）。この点は、【図 2-8】【図 2-9】を見るうえで注意を要する。例えば、【図 2-8】の未修中心型グループの既修者、【図 2-9】の合格率 50%以上グループの全体、既修者、未修者には、①の傾向とはやや異なった所見が認められる部分があるが、上記の点に注意した見方が必要である。

以上に関連する参考資料として、資料編 2【資料 2-3】には、法科大学院の全授業科目の成績について大学別の統計資料（帯グラフ）を示した。

【表 2-3-1】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目)

			司法試験論文式総合成績							
			E	D	C	B	A	合計		
全授業科目	全体	60-70	度数	28	8	5	1	0	42	
			%	66.7%	19.0%	11.9%	2.4%	0.0%	100.0%	1.6%
		70-75	度数	149	169	110	31	6	465	
			%	32.0%	36.3%	23.7%	6.7%	1.3%	100.0%	17.2%
		75-80	度数	211	305	369	206	84	1175	
	%		18.0%	26.0%	31.4%	17.5%	7.1%	100.0%	43.4%	
	80-	度数	98	164	311	282	168	1023		
		%	9.6%	16.0%	30.4%	27.6%	16.4%	100.0%	37.8%	
	合計	度数	486	646	795	520	258	2705		
	%	18.0%	23.9%	29.4%	19.2%	9.5%	100.0%	100.0%		
	既修	60-70	度数	13	3	3	1	0	20	
			%	65.0%	15.0%	15.0%	5.0%	0.0%	100.0%	1.3%
		70-75	度数	57	86	67	22	6	238	
			%	23.9%	36.1%	28.2%	9.2%	2.5%	100.0%	15.4%
		75-80	度数	98	161	221	138	64	682	
%	14.4%		23.6%	32.4%	20.2%	9.4%	100.0%	44.2%		
80-	度数	30	86	188	190	110	604			
	%	5.0%	14.2%	31.1%	31.5%	18.2%	100.0%	39.1%		
合計	度数	198	336	479	351	180	1544			
%	12.8%	21.8%	31.0%	22.7%	11.7%	100.0%	100.0%			
未修	60-70	度数	15	5	2	0	0	22		
		%	68.2%	22.7%	9.1%	0.0%	0.0%	100.0%	1.9%	
	70-75	度数	92	83	43	9	0	227		
		%	40.5%	36.6%	18.9%	4.0%	0.0%	100.0%	19.6%	
	75-80	度数	113	144	148	68	20	493		
%		22.9%	29.2%	30.0%	13.8%	4.1%	100.0%	42.5%		
80-	度数	68	78	123	92	58	419			
	%	16.2%	18.6%	29.4%	22.0%	13.8%	100.0%	36.1%		
合計	度数	288	310	316	169	78	1161			
%	24.8%	26.7%	27.2%	14.6%	6.7%	100.0%	100.0%			

【表 2-3-2】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目[1 年次])

				司法試験論文式総合成績						
				E	D	C	B	A	合計	
総合法律基本1年	未修	60-70	度数	33	18	9	0	0	60	
			%	55.0%	30.0%	15.0%	0.0%	0.0%	100.0%	5.2%
		70-75	度数	70	79	52	16	4	221	
			%	31.7%	35.7%	23.5%	7.2%	1.8%	100.0%	19.0%
		75-80	度数	112	116	116	66	18	428	
	%		26.2%	27.1%	27.1%	15.4%	4.2%	100.0%	36.9%	
	80-	度数	73	97	139	87	56	452		
		%	16.2%	21.5%	30.8%	19.2%	12.4%	100.0%	38.9%	
	合計	度数	288	310	316	169	78	1161		
	%	24.8%	26.7%	27.2%	14.6%	6.7%	100.0%	100.0%		

【表 2-3-3】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律基本科目[2 年次以降])

				司法試験論文式総合成績						
				E	D	C	B	A	合計	
総合法律基本2年	全体	60-70	度数	56	38	20	3	0	117	
			%	47.9%	32.5%	17.1%	2.6%	0.0%	100.0%	4.3%
		70-75	度数	189	203	155	56	14	617	
			%	30.6%	32.9%	25.1%	9.1%	2.3%	100.0%	22.8%
		75-80	度数	177	276	353	222	90	1118	
			%	15.8%	24.7%	31.6%	19.9%	8.1%	100.0%	41.3%
		80-	度数	64	129	267	239	154	853	
			%	7.5%	15.1%	31.3%	28.0%	18.1%	100.0%	31.5%
		合計	度数	486	646	795	520	258	2705	
		%	18.0%	23.9%	29.4%	19.2%	9.5%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	18	12	11	2	0	43	
			%	41.9%	27.9%	25.6%	4.7%	0.0%	100.0%	2.8%
		70-75	度数	85	103	83	37	13	321	
			%	26.5%	32.1%	25.9%	11.5%	4.0%	100.0%	20.8%
		75-80	度数	75	159	224	153	67	678	
			%	11.1%	23.5%	33.0%	22.6%	9.9%	100.0%	43.9%
		80-	度数	20	62	161	159	100	502	
			%	4.0%	12.4%	32.1%	31.7%	19.9%	100.0%	32.5%
		合計	度数	198	336	479	351	180	1544	
		%	12.8%	21.8%	31.0%	22.7%	11.7%	100.0%	100.0%	
未修	60-70	度数	38	26	9	1	0	74		
		%	51.4%	35.1%	12.2%	1.4%	0.0%	100.0%	6.4%	
	70-75	度数	104	100	72	19	1	296		
		%	35.1%	33.8%	24.3%	6.4%	.3%	100.0%	25.5%	
	75-80	度数	102	117	129	69	23	440		
		%	23.2%	26.6%	29.3%	15.7%	5.2%	100.0%	37.9%	
	80-	度数	44	67	106	80	54	351		
		%	12.5%	19.1%	30.2%	22.8%	15.4%	100.0%	30.2%	
	合計	度数	288	310	316	169	78	1161		
	%	24.8%	26.7%	27.2%	14.6%	6.7%	100.0%	100.0%		

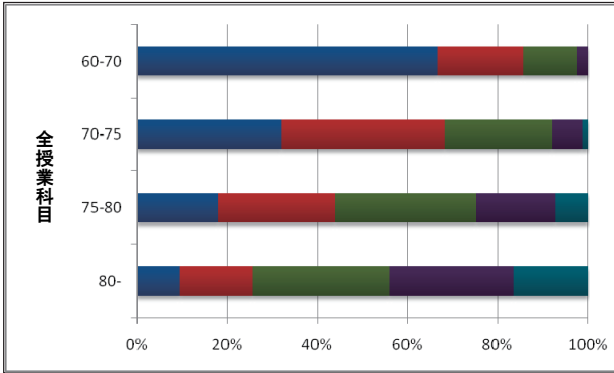
【表 2-3-4】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(必修法律実務基礎科目)

			司法試験論文式総合成績							
			E	D	C	B	A	合計		
総合実務基礎	全体	60-70	度数	71	65	34	15	3	188	
			%	37.8%	34.6%	18.1%	8.0%	1.6%	100.0%	7.0%
		70-75	度数	136	153	158	63	20	530	
			%	25.7%	28.9%	29.8%	11.9%	3.8%	100.0%	19.6%
		75-80	度数	175	247	307	172	65	966	
	%		18.1%	25.6%	31.8%	17.8%	6.7%	100.0%	35.7%	
	80-	度数	104	181	296	270	170	1021		
		%	10.2%	17.7%	29.0%	26.4%	16.7%	100.0%	37.7%	
	合計	度数	486	646	795	520	258	2705		
		%	18.0%	23.9%	29.4%	19.2%	9.5%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	31	40	17	9	2	99	
			%	31.3%	40.4%	17.2%	9.1%	2.0%	100.0%	6.4%
		70-75	度数	52	83	101	37	14	287	
			%	18.1%	28.9%	35.2%	12.9%	4.9%	100.0%	18.6%
		75-80	度数	83	122	180	122	48	555	
%	15.0%		22.0%	32.4%	22.0%	8.6%	100.0%	35.9%		
80-	度数	32	91	181	183	116	603			
	%	5.3%	15.1%	30.0%	30.3%	19.2%	100.0%	39.1%		
合計	度数	198	336	479	351	180	1544			
	%	12.8%	21.8%	31.0%	22.7%	11.7%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	40	25	17	6	1	89		
		%	44.9%	28.1%	19.1%	6.7%	1.1%	100.0%	7.7%	
	70-75	度数	84	70	57	26	6	243		
		%	34.6%	28.8%	23.5%	10.7%	2.5%	100.0%	20.9%	
	75-80	度数	92	125	127	50	17	411		
%		22.4%	30.4%	30.9%	12.2%	4.1%	100.0%	35.4%		
80-	度数	72	90	115	87	54	418			
	%	17.2%	21.5%	27.5%	20.8%	12.9%	100.0%	36.0%		
合計	度数	288	310	316	169	78	1161			
	%	24.8%	26.7%	27.2%	14.6%	6.7%	100.0%	100.0%		

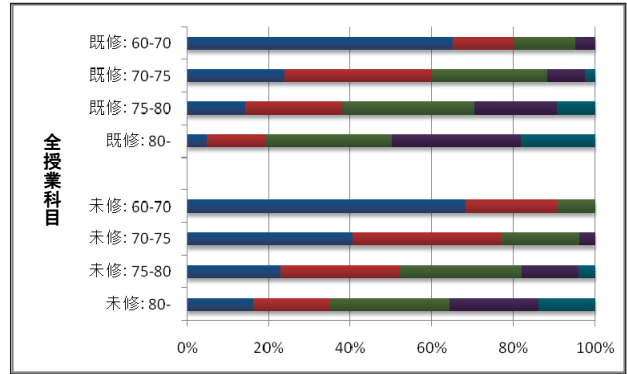
【図 2-7】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績

① 全授業科目

A 全体

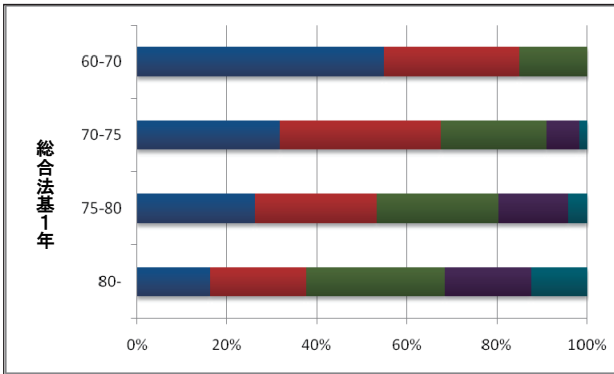


B 既修・未修別



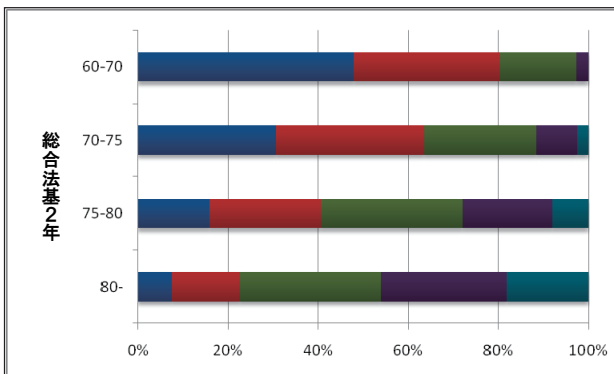
② 総合必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

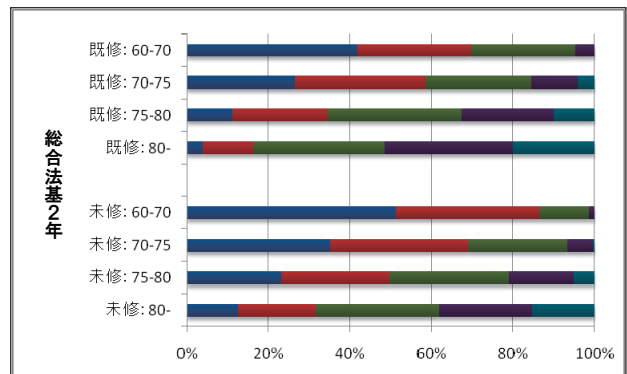


③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

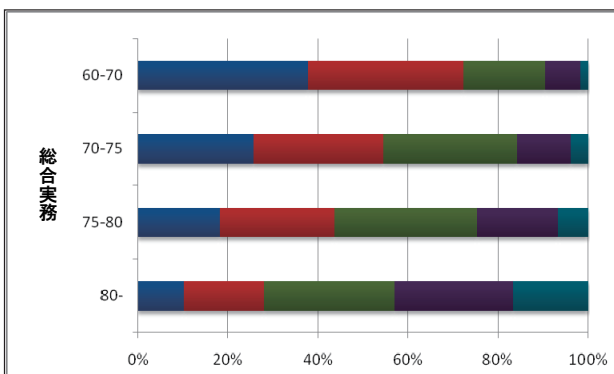


B 既修・未修別

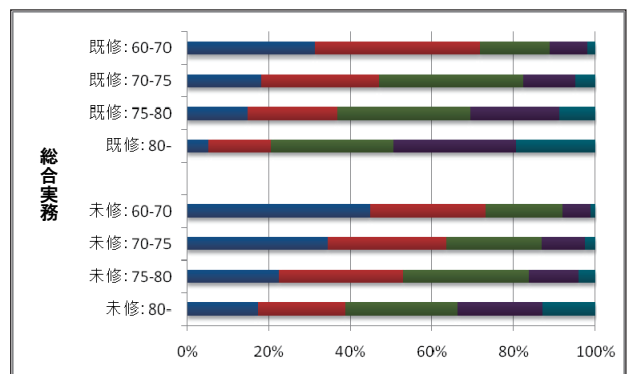


④ 総合必修法律実務基礎科目

A 全体

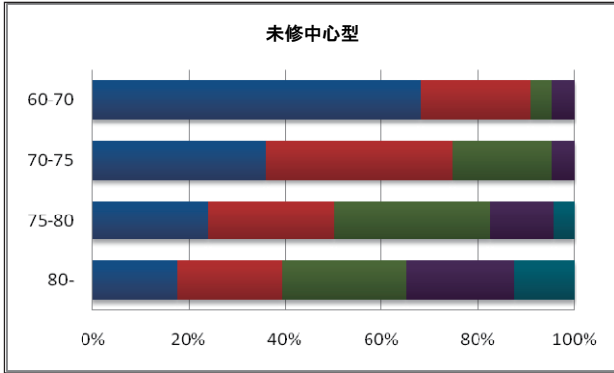


B 既修・未修別

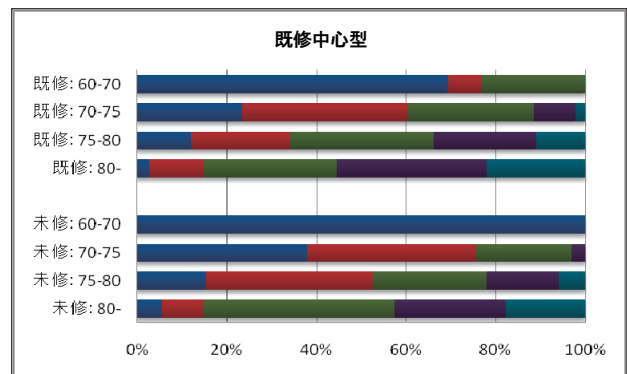
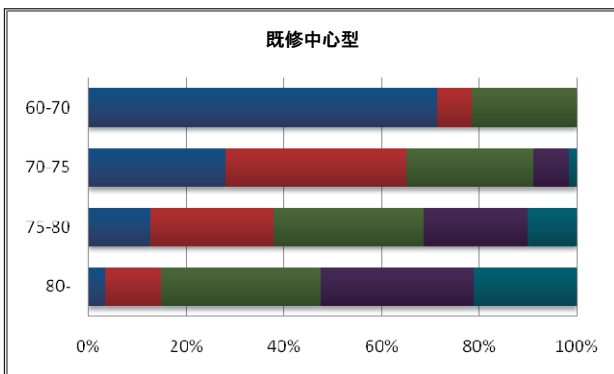
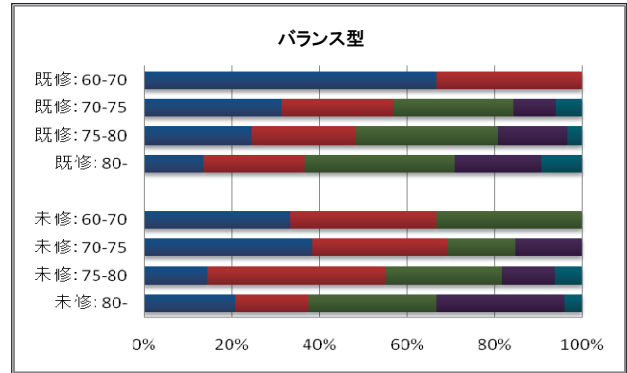
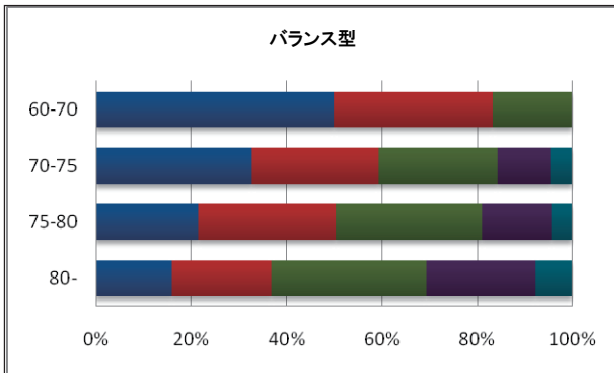
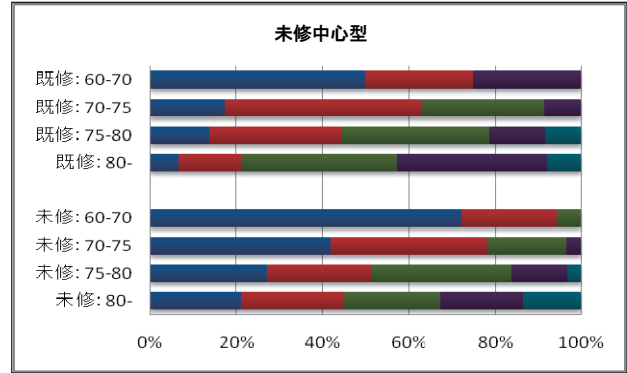


【図 2-8】新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目):大学グループ別(学生構成別)

A 全体

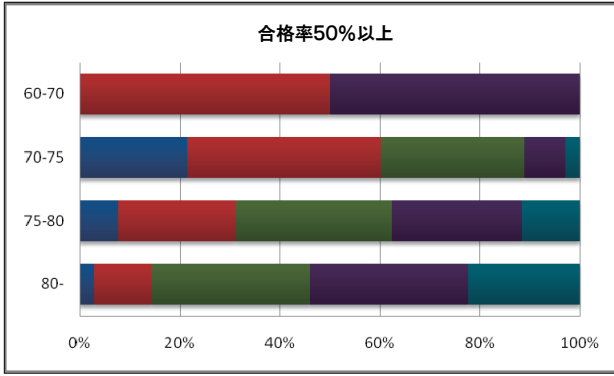


B 既修・未修別

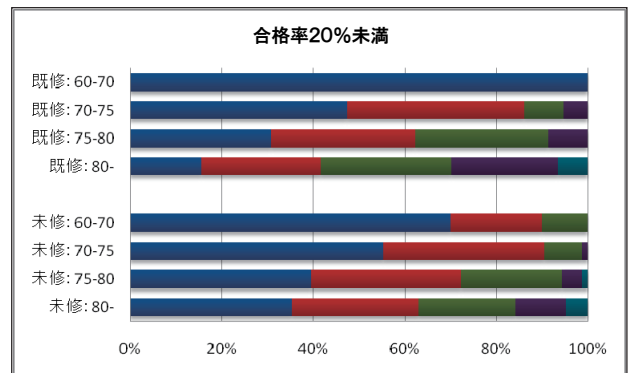
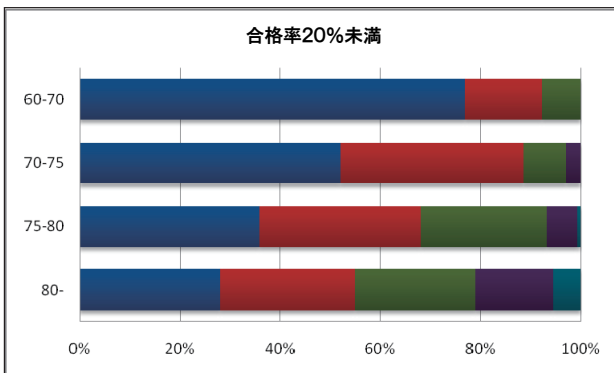
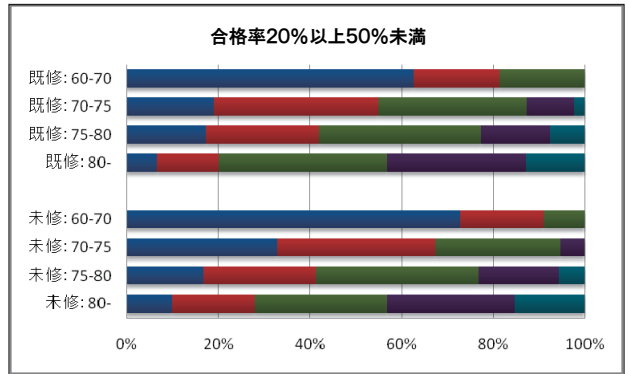
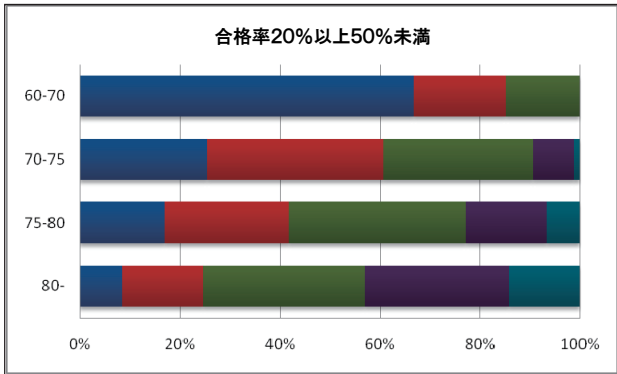
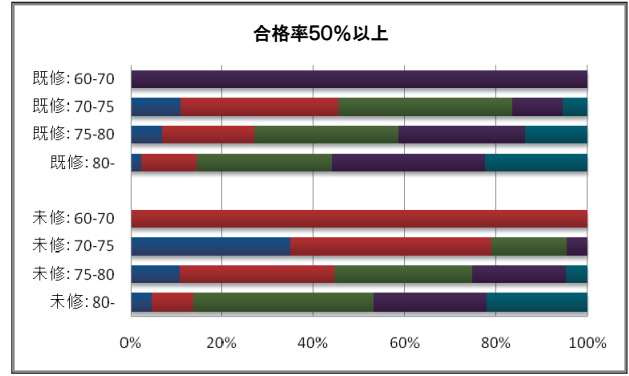


【図 2-9】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績(全授業科目): 大学グループ別(合格率別)

A 全体



B 既修・未修別



エ 新司法試験の科目別の成績と法科大学院の成績

【表 2-4-1】～【表 2-4-4】は、新司法試験の公法系の成績（短答式試験、論文式試験の 2 項目）と法科大学院の公法系の成績（必修法律基本科目〔1 年次〕、同〔2 年次以降〕の 2 項目）とのクロス集計表であり、【図 2-10】は、これを帯グラフで示したものである。

【表 2-5-1】～【表 2-5-6】は、新司法試験の民事系の成績（短答式試験、論文式試験の 2 項目）と法科大学院の民事系の成績（必修法律基本科目〔1 年次〕、同〔2 年次以降〕、必修実務基礎科目の 3 項目）とのクロス集計表であり、【図 2-11】は、これを帯グラフで示したものである。

【表 2-6-1】～【表 2-6-6】は、新司法試験の刑事系の成績（短答式試験、論文式試験の 2 項目）と法科大学院の刑事系の成績（必修法律基本科目〔1 年次〕、同〔2 年次以降〕、必修実務基礎科目の 3 項目）とのクロス集計表であり、【図 2-12】は、これを帯グラフで示したものである。

新司法試験の成績カテゴリは、いずれも 4 段階（A～D）の各試験成績ランクを用いた。論文式試験に関する図表は、新司法試験受験者のうち、1 次評価合格者のみを母数とする。

【表 2-4】～【表 2-6】及び【図 2-10】～【図 2-12】によれば、公法系、民事系、刑事系いずれの科目についても、概ね、法科大学院の成績カテゴリの段階が上がるにしたがって、新司法試験の短答式試験の成績も論文式試験の成績も、下位の成績カテゴリの割合は減少し、上位の成績カテゴリの割合は増加する傾向にあるといえる（【図 2-10】～【図 2-12】の各帯グラフでは、グラフの帯が下る〔法科大学院の成績カテゴリが上位になる〕にしたがって、新司法試験の各成績カテゴリの境界が右から左に移動していることが確認できる）。ここからは、新司法試験の科目別の成績についても、①法科大学院の成績がよい者ほど新司法試験の成績もよい傾向にあることがうかがわれる。また、②既修者と未修者とを比べると、法科大学院の成績カテゴリの段階が同じ者であっても、既修者の方が未修者よりも新司法試験の成績がよい傾向にあることもうかがわれる。

*ただし、公法系の未修者の論文式試験、刑事系の実務基礎科目については、①の傾向とはやや異なった所見が認められる部分がある。

以上に関連する参考資料として、資料編 2【資料 2-4】～【資料 2-6】には、公法系、民事系、刑事系の各科目別に、法科大学院の必修法律基本科目（2 年次以降）の成績について、大学別の統計資料（帯グラフ）を示した。

【表 2-4-1】 新司法試験の公法系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(公法系法律基本科目〔1 年次〕)

				司法試験公法系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
公法法律基本1年	未修	60-70	度数	3	77	163	18	261	
			%	1.1%	29.5%	62.5%	6.9%	100.0%	13.7%
		70-75	度数	5	90	259	55	409	
			%	1.2%	22.0%	63.3%	13.4%	100.0%	21.5%
		75-80	度数	0	94	370	75	539	
	%		0.0%	17.4%	68.6%	13.9%	100.0%	28.4%	
	80-	度数	0	57	460	174	691		
		%	0.0%	8.2%	66.6%	25.2%	100.0%	36.4%	
	合計	度数	8	318	1252	322	1900		
		%	0.4%	16.7%	65.9%	16.9%	100.0%	100.0%	

【表 2-4-2】 新司法試験の公法系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(公法系法律基本科目〔2年次以降〕)

				司法試験公法系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
公法法律基本2年	全体	60-70	度数	6	102	331	50	489	
			%	1.2%	20.9%	67.7%	10.2%	100.0%	13.4%
		70-75	度数	3	121	537	135	796	
			%	0.4%	15.2%	67.5%	17.0%	100.0%	21.9%
		75-80	度数	0	110	794	290	1194	
	%		0.0%	9.2%	66.5%	24.3%	100.0%	32.8%	
	80-	度数	1	52	661	444	1158		
		%	0.1%	4.5%	57.1%	38.3%	100.0%	31.8%	
	合計	度数	10	385	2323	919	3637		
		%	0.3%	10.6%	63.9%	25.3%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	1	24	130	32	187	
			%	0.5%	12.8%	69.5%	17.1%	100.0%	10.8%
		70-75	度数	1	17	223	80	321	
			%	0.3%	5.3%	69.5%	24.9%	100.0%	18.5%
		75-80	度数	0	18	404	205	627	
	%		0.0%	2.9%	64.4%	32.7%	100.0%	36.1%	
	80-	度数	0	8	313	280	601		
		%	0.0%	1.3%	52.1%	46.6%	100.0%	34.6%	
合計	度数	2	67	1070	597	1736			
	%	0.1%	3.9%	61.6%	34.4%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	5	78	201	18	302		
		%	1.7%	25.8%	66.6%	6.0%	100.0%	15.9%	
	70-75	度数	2	104	314	55	475		
		%	0.4%	21.9%	66.1%	11.6%	100.0%	25.0%	
	75-80	度数	0	92	390	85	567		
%		0.0%	16.2%	68.8%	15.0%	100.0%	29.8%		
80-	度数	1	44	348	164	557			
	%	0.2%	7.9%	62.5%	29.4%	100.0%	29.3%		
合計	度数	8	318	1253	322	1901			
	%	0.4%	16.7%	65.9%	16.9%	100.0%	100.0%		

【表 2-4-3】 新司法試験の公法系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(公法系法律基本科目〔1 年次〕)

				司法試験公法系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
公法法律基本1年	未修	60-70	度数	54	47	10	3	114	
			%	47.4%	41.2%	8.8%	2.6%	100.0%	9.8%
		70-75	度数	77	92	43	9	221	
			%	34.8%	41.6%	19.5%	4.1%	100.0%	19.0%
		75-80	度数	126	97	56	21	300	
	%		42.0%	32.3%	18.7%	7.0%	100.0%	25.8%	
	80-	度数	156	209	123	38	526		
		%	29.7%	39.7%	23.4%	7.2%	100.0%	45.3%	
	合計	度数	413	445	232	71	1161		
	%	35.6%	38.3%	20.0%	6.1%	100.0%	100.0%		

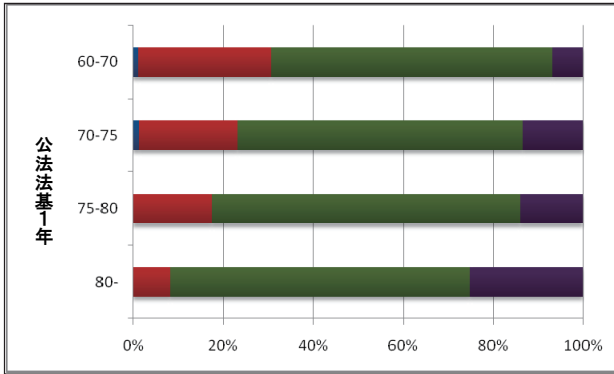
【表 2-4-4】 新司法試験の公法系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(公法系法律基本科目〔2 年次以降〕)

				司法試験公法系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
公法法律基本2年	全体	60-70	度数	115	107	37	3	262	
			%	43.9%	40.8%	14.1%	1.1%	100.0%	9.7%
		70-75	度数	219	202	87	17	525	
			%	41.7%	38.5%	16.6%	3.2%	100.0%	19.4%
		75-80	度数	288	360	207	63	918	
			%	31.4%	39.2%	22.5%	6.9%	100.0%	33.9%
		80-	度数	223	388	278	111	1000	
			%	22.3%	38.8%	27.8%	11.1%	100.0%	37.0%
		合計	度数	845	1057	609	194	2705	
		%	31.2%	39.1%	22.5%	7.2%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	57	52	17	1	127	
			%	44.9%	40.9%	13.4%	0.8%	100.0%	8.2%
		70-75	度数	104	105	50	13	272	
			%	38.2%	38.6%	18.4%	4.8%	100.0%	17.6%
		75-80	度数	166	222	140	41	569	
			%	29.2%	39.0%	24.6%	7.2%	100.0%	36.9%
		80-	度数	105	233	170	68	576	
			%	18.2%	40.5%	29.5%	11.8%	100.0%	37.3%
		合計	度数	432	612	377	123	1544	
		%	28.0%	39.6%	24.4%	8.0%	100.0%	100.0%	
未修	60-70	度数	58	55	20	2	135		
		%	43.0%	40.7%	14.8%	1.5%	100.0%	11.6%	
	70-75	度数	115	97	37	4	253		
		%	45.5%	38.3%	14.6%	1.6%	100.0%	21.8%	
	75-80	度数	122	138	67	22	349		
		%	35.0%	39.5%	19.2%	6.3%	100.0%	30.1%	
80-	度数	118	155	108	43	424			
	%	27.8%	36.6%	25.5%	10.1%	100.0%	36.5%		
合計	度数	413	445	232	71	1161			
%	35.6%	38.3%	20.0%	6.1%	100.0%	100.0%			

【図2-10】新司法試験の公法系試験成績と法科大学院の成績

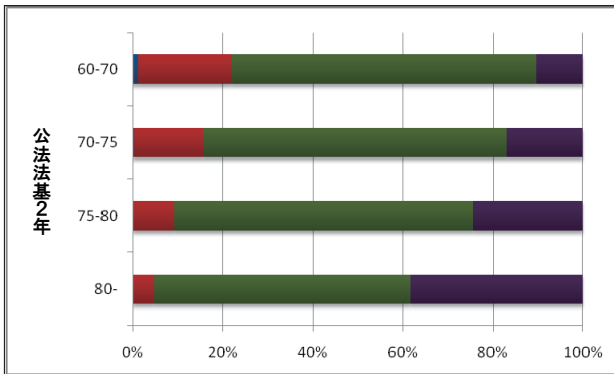
① 短答式試験と公法系必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

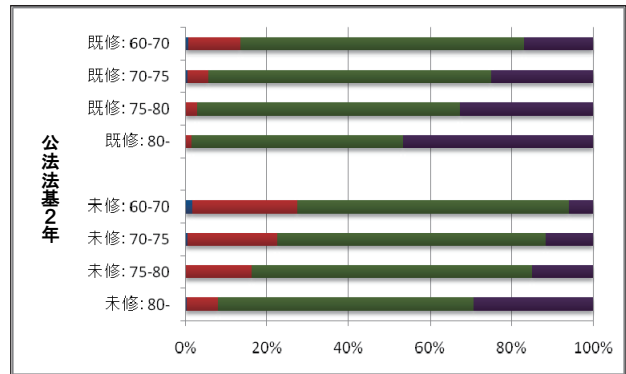


② 短答式試験と公法系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

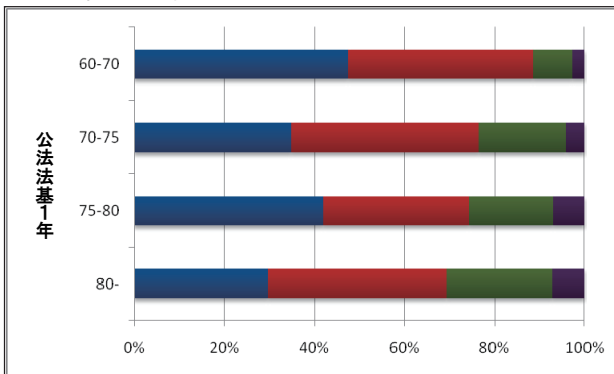


B 既修・未修別



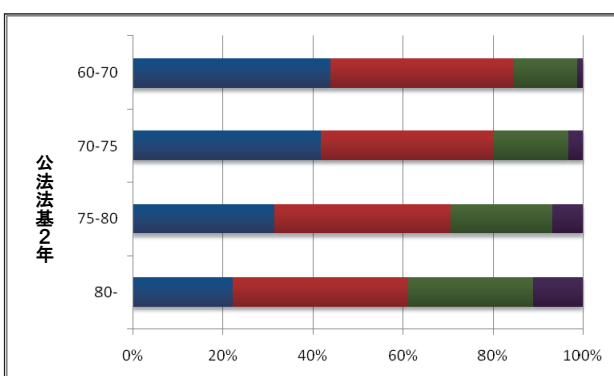
③ 論文式試験と公法系必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

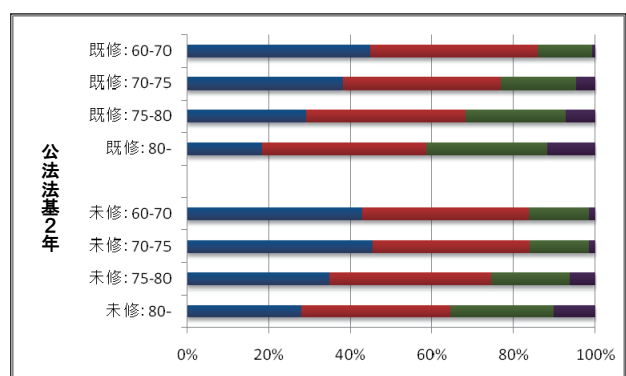


④ 論文式試験と公法系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体



B 既修・未修別



【表 2-5-1】 新司法試験の民事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(民事系法律基本科目〔1 年次〕)

				司法試験民事系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
民事法律基本1年	未修	60-70	度数	22	192	75	0	289	
			%	7.6%	66.4%	26.0%	0.0%	100.0%	15.2%
		70-75	度数	10	207	197	5	419	
			%	2.4%	49.4%	47.0%	1.2%	100.0%	22.0%
		75-80	度数	10	211	360	17	598	
	%		1.7%	35.3%	60.2%	2.8%	100.0%	31.5%	
	80-	度数	2	110	423	60	595		
		%	0.3%	18.5%	71.1%	10.1%	100.0%	31.3%	
	合計	度数	44	720	1055	82	1901		
	%	2.3%	37.9%	55.5%	4.3%	100.0%	100.0%		

【表 2-5-2】 新司法試験の民事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(民事系法律基本科目〔2 年次以降〕)

				司法試験民事系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
民事法律基本2年	全体	60-70	度数	21	242	155	4	422	
			%	5.0%	57.3%	36.7%	0.9%	100.0%	11.6%
		70-75	度数	20	361	542	29	952	
			%	2.1%	37.9%	56.9%	3.0%	100.0%	26.2%
		75-80	度数	6	255	934	82	1277	
	%		0.5%	20.0%	73.1%	6.4%	100.0%	35.1%	
	80-	度数	1	89	705	191	986		
		%	0.1%	9.0%	71.5%	19.4%	100.0%	27.1%	
	合計	度数	48	947	2336	306	3637		
	%	1.3%	26.0%	64.2%	8.4%	100.0%	100.0%		
	既修	60-70	度数	3	39	60	4	106	
			%	2.8%	36.8%	56.6%	3.8%	100.0%	6.1%
		70-75	度数	1	97	282	23	403	
			%	0.2%	24.1%	70.0%	5.7%	100.0%	23.2%
		75-80	度数	0	77	544	66	687	
	%		0.0%	11.2%	79.2%	9.6%	100.0%	39.6%	
	80-	度数	0	14	395	131	540		
		%	0.0%	2.6%	73.1%	24.3%	100.0%	31.1%	
	合計	度数	4	227	1281	224	1736		
	%	0.2%	13.1%	73.8%	12.9%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	18	203	95	0	316		
		%	5.7%	64.2%	30.1%	0.0%	100.0%	16.6%	
	70-75	度数	19	264	260	6	549		
		%	3.5%	48.1%	47.4%	1.1%	100.0%	28.9%	
	75-80	度数	6	178	390	16	590		
%		1.0%	30.2%	66.1%	2.7%	100.0%	31.0%		
80-	度数	1	75	310	60	446			
	%	0.2%	16.8%	69.5%	13.5%	100.0%	23.5%		
合計	度数	44	720	1055	82	1901			
%	2.3%	37.9%	55.5%	4.3%	100.0%	100.0%			

【表 2-5-3】 新司法試験の民事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(民事系法律実務基礎科目)

			司法試験民事系短答式成績						
			D	C	B	A	合計		
民事実務基礎	全体	60-70	度数	26	294	334	8	662	
			%	3.9%	44.4%	50.5%	1.2%	100.0%	18.2%
		70-75	度数	3	153	255	11	422	
			%	0.7%	36.3%	60.4%	2.6%	100.0%	11.6%
		75-80	度数	13	300	826	66	1205	
	%		1.1%	24.9%	68.5%	5.5%	100.0%	33.1%	
	80-	度数	6	199	921	221	1347		
		%	0.4%	14.8%	68.4%	16.4%	100.0%	37.0%	
	合計	度数	48	946	2336	306	3636		
		%	1.3%	26.0%	64.2%	8.4%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	2	69	164	7	242	
			%	0.8%	28.5%	67.8%	2.9%	100.0%	13.9%
		70-75	度数	0	45	128	9	182	
			%	0.0%	24.7%	70.3%	4.9%	100.0%	10.5%
		75-80	度数	2	71	510	54	637	
%	0.3%		11.1%	80.1%	8.5%	100.0%	36.7%		
80-	度数	0	42	479	154	675			
	%	0.0%	6.2%	71.0%	22.8%	100.0%	38.9%		
合計	度数	4	227	1281	224	1736			
	%	0.2%	13.1%	73.8%	12.9%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	24	225	170	1	420		
		%	5.7%	53.6%	40.5%	0.2%	100.0%	22.1%	
	70-75	度数	3	108	127	2	240		
		%	1.3%	45.0%	52.9%	0.8%	100.0%	12.6%	
	75-80	度数	11	229	316	12	568		
%		1.9%	40.3%	55.6%	2.1%	100.0%	29.9%		
80-	度数	6	157	442	67	672			
	%	0.9%	23.4%	65.8%	10.0%	100.0%	35.4%		
合計	度数	44	719	1055	82	1900			
	%	2.3%	37.8%	55.5%	4.3%	100.0%	100.0%		

【表 2-5-4】 新司法試験の民事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(民事系法律基本科目[1年次])

				司法試験民事系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
民事法律基本1年	未修	60-70	度数	53	19	7	0	79	
			%	67.1%	24.1%	8.9%	0.0%	100.0%	6.8%
		70-75	度数	108	58	28	11	205	
			%	52.7%	28.3%	13.7%	5.4%	100.0%	17.7%
		75-80	度数	171	128	60	26	385	
	%		44.4%	33.2%	15.6%	6.8%	100.0%	33.2%	
	80-	度数	142	161	130	59	492		
		%	28.9%	32.7%	26.4%	12.0%	100.0%	42.4%	
	合計	度数	474	366	225	96	1161		
		%	40.8%	31.5%	19.4%	8.3%	100.0%	100.0%	

【表 2-5-5】 新司法試験の民事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(民事系法律基本科目[2年次以降])

				司法試験民事系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
民事法律基本2年	全体	60-70	度数	98	47	14	7	166	
			%	59.0%	28.3%	8.4%	4.2%	100.0%	6.1%
		70-75	度数	262	193	104	28	587	
			%	44.6%	32.9%	17.7%	4.8%	100.0%	21.7%
		75-80	度数	300	346	261	127	1034	
	%		29.0%	33.5%	25.2%	12.3%	100.0%	38.2%	
	80-	度数	176	281	301	160	918		
		%	19.2%	30.6%	32.8%	17.4%	100.0%	33.9%	
	合計	度数	836	867	680	322	2705		
		%	30.9%	32.1%	25.1%	11.9%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	34	18	7	5	64	
			%	53.1%	28.1%	10.9%	7.8%	100.0%	4.1%
		70-75	度数	117	112	71	20	320	
			%	36.6%	35.0%	22.2%	6.3%	100.0%	20.7%
		75-80	度数	149	207	181	94	631	
	%		23.6%	32.8%	28.7%	14.9%	100.0%	40.9%	
	80-	度数	62	164	196	107	529		
		%	11.7%	31.0%	37.1%	20.2%	100.0%	34.3%	
	合計	度数	362	501	455	226	1544		
		%	23.4%	32.4%	29.5%	14.6%	100.0%	100.0%	
未修	60-70	度数	64	29	7	2	102		
		%	62.7%	28.4%	6.9%	2.0%	100.0%	8.8%	
	70-75	度数	145	81	33	8	267		
		%	54.3%	30.3%	12.4%	3.0%	100.0%	23.0%	
	75-80	度数	151	139	80	33	403		
%		37.5%	34.5%	19.9%	8.2%	100.0%	34.7%		
80-	度数	114	117	105	53	389			
	%	29.3%	30.1%	27.0%	13.6%	100.0%	33.5%		
合計	度数	474	366	225	96	1161			
	%	40.8%	31.5%	19.4%	8.3%	100.0%	100.0%		

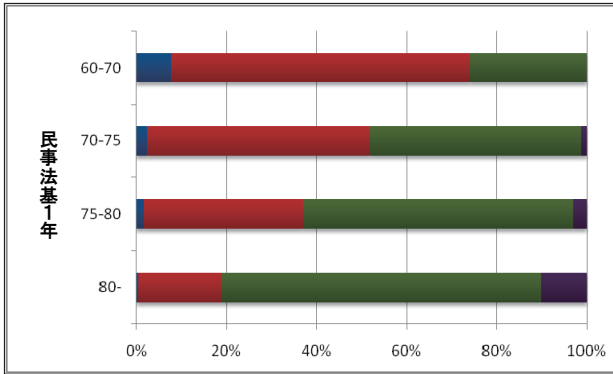
【表 2-5-6】 新司法試験の民事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(民事系法律実務基礎科目)

			司法試験民事系論文式成績						
			D	C	B	A	合計		
民事実務基礎	全体	60-70	度数	195	95	47	10	347	
			%	56.2%	27.4%	13.5%	2.9%	100.0%	12.8%
		70-75	度数	111	98	56	18	283	
			%	39.2%	34.6%	19.8%	6.4%	100.0%	10.5%
		75-80	度数	281	323	211	95	910	
	%		30.9%	35.5%	23.2%	10.4%	100.0%	33.6%	
	80-	度数	249	351	366	199	1165		
		%	21.4%	30.1%	31.4%	17.1%	100.0%	43.1%	
	合計	度数	836	867	680	322	2705		
		%	30.9%	32.1%	25.1%	11.9%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	76	59	32	4	171	
			%	44.4%	34.5%	18.7%	2.3%	100.0%	11.1%
		70-75	度数	48	46	39	12	145	
			%	33.1%	31.7%	26.9%	8.3%	100.0%	9.4%
		75-80	度数	153	202	153	72	580	
	%		26.4%	34.8%	26.4%	12.4%	100.0%	37.6%	
	80-	度数	85	194	231	138	648		
		%	13.1%	29.9%	35.6%	21.3%	100.0%	42.0%	
合計	度数	362	501	455	226	1544			
	%	23.4%	32.4%	29.5%	14.6%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	119	36	15	6	176		
		%	67.6%	20.5%	8.5%	3.4%	100.0%	15.2%	
	70-75	度数	63	52	17	6	138		
		%	45.7%	37.7%	12.3%	4.3%	100.0%	11.9%	
	75-80	度数	128	121	58	23	330		
%		38.8%	36.7%	17.6%	7.0%	100.0%	28.4%		
80-	度数	164	157	135	61	517			
	%	31.7%	30.4%	26.1%	11.8%	100.0%	44.5%		
合計	度数	474	366	225	96	1161			
	%	40.8%	31.5%	19.4%	8.3%	100.0%	100.0%		

【図 2-11】 新司法試験の民事系試験成績と法科大学院の成績

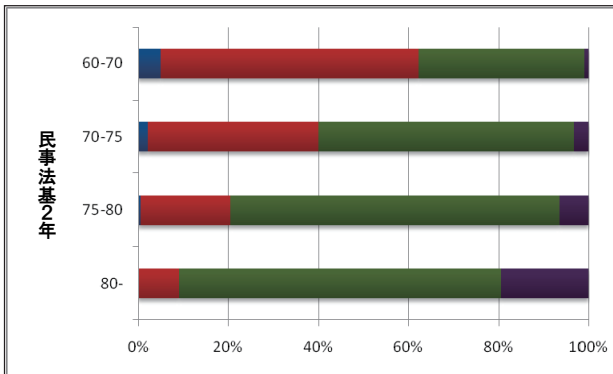
① 短答式試験と民事系必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

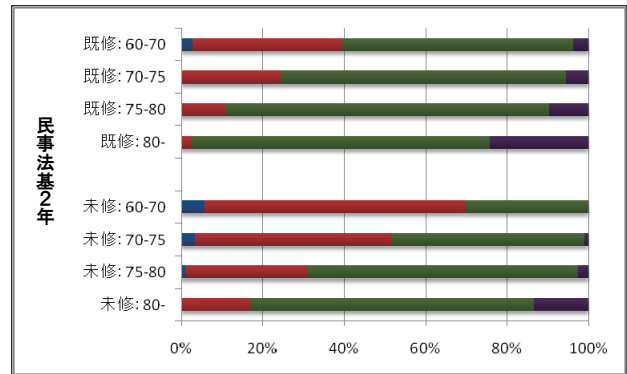


② 短答式試験と民事系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

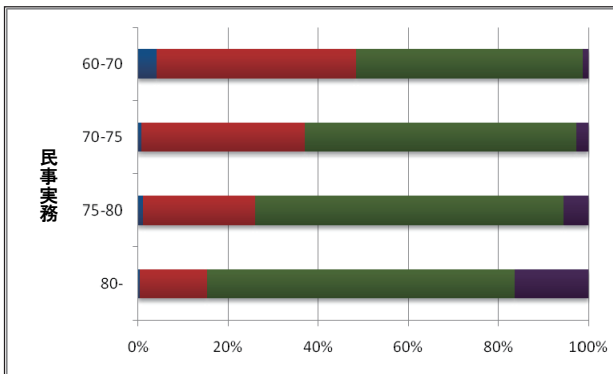


B 既修・未修別

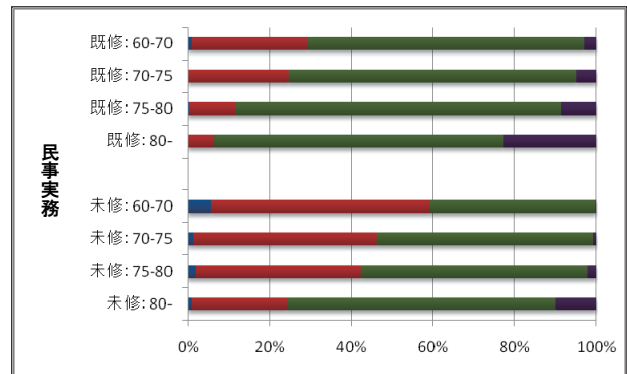


③ 短答式試験と民事系必修実務基礎科目

A 全体

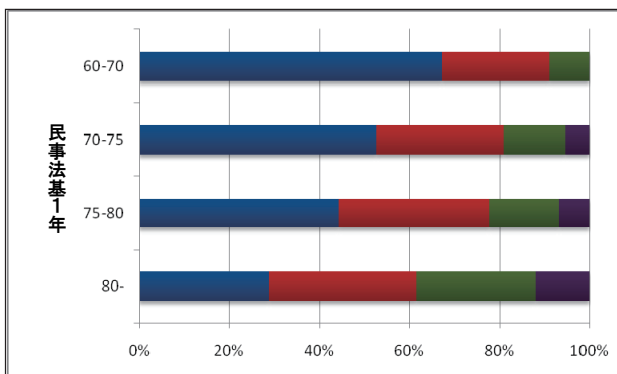


B 既修・未修別



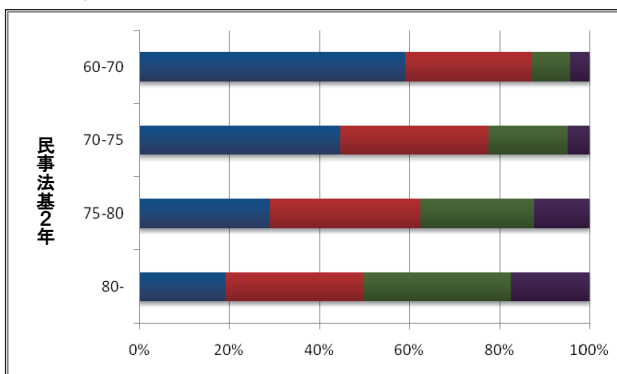
④ 論文式試験と民事系必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

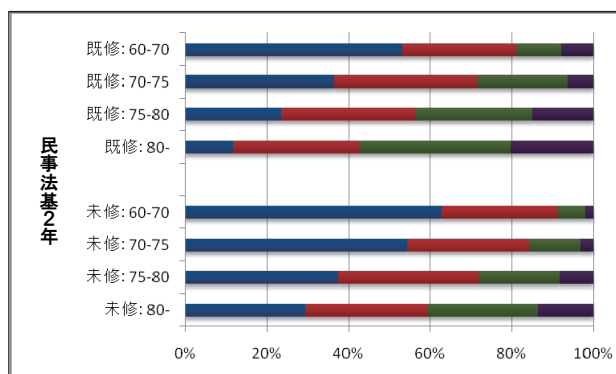


⑤ 論文式試験と民事系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

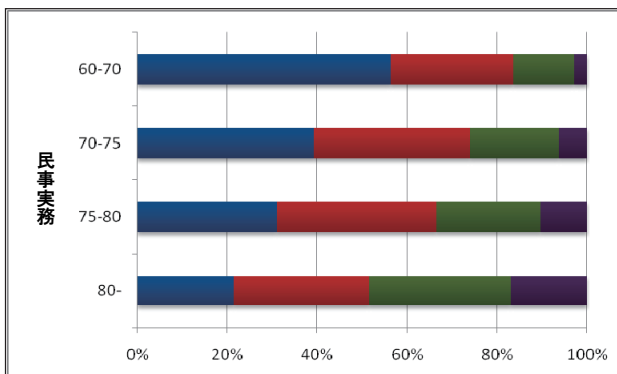


B 既修・未修別

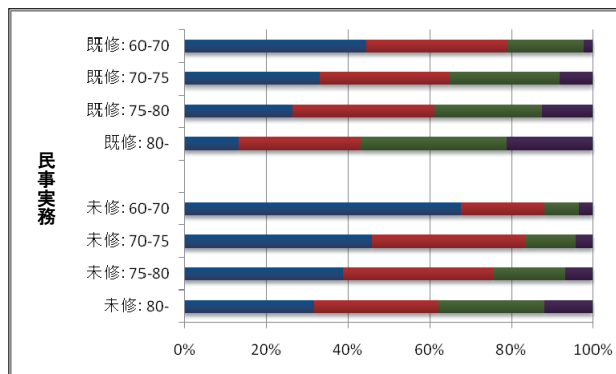


⑥ 論文式試験と民事系必修実務基礎科目

A 全体



B 既修・未修別



【表 2-6-1】 新司法試験の刑事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(刑事系法律基本科目[1年次])

				司法試験刑事系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
刑事法律基本1年	未修	60-70	度数	40	167	91	5	303	
			%	13.2%	55.1%	30.0%	1.7%	100.0%	15.9%
		70-75	度数	27	204	151	17	399	
			%	6.8%	51.1%	37.8%	4.3%	100.0%	21.0%
		75-80	度数	29	213	262	33	537	
	%		5.4%	39.7%	48.8%	6.1%	100.0%	28.2%	
	80-	度数	18	179	393	72	662		
		%	2.7%	27.0%	59.4%	10.9%	100.0%	34.8%	
	合計	度数	114	763	897	127	1901		
		%	6.0%	40.1%	47.2%	6.7%	100.0%	100.0%	

【表 2-6-2】 新司法試験の刑事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(刑事系法律基本科目[2年次以降])

				司法試験刑事系短答式成績					
				D	C	B	A	合計	
刑事法律基本2年	全体	60-70	度数	48	255	204	22	529	
			%	9.1%	48.2%	38.6%	4.2%	100.0%	14.5%
		70-75	度数	38	314	386	50	788	
			%	4.8%	39.8%	49.0%	6.3%	100.0%	21.7%
		75-80	度数	31	355	692	135	1213	
	%		2.6%	29.3%	57.0%	11.1%	100.0%	33.4%	
	80-	度数	10	159	733	205	1107		
		%	0.9%	14.4%	66.2%	18.5%	100.0%	30.4%	
	合計	度数	127	1083	2015	412	3637		
		%	3.5%	29.8%	55.4%	11.3%	100.0%	100.0%	
	既修	60-70	度数	5	54	84	13	156	
			%	3.2%	34.6%	53.8%	8.3%	100.0%	9.0%
		70-75	度数	6	83	177	31	297	
			%	2.0%	27.9%	59.6%	10.4%	100.0%	17.1%
		75-80	度数	2	134	424	99	659	
%	0.3%		20.3%	64.3%	15.0%	100.0%	38.0%		
80-	度数	0	49	433	142	624			
	%	0.0%	7.9%	69.4%	22.8%	100.0%	35.9%		
合計	度数	13	320	1118	285	1736			
	%	0.7%	18.4%	64.4%	16.4%	100.0%	100.0%		
未修	60-70	度数	43	201	120	9	373		
		%	11.5%	53.9%	32.2%	2.4%	100.0%	19.6%	
	70-75	度数	32	231	209	19	491		
		%	6.5%	47.0%	42.6%	3.9%	100.0%	25.8%	
	75-80	度数	29	221	268	36	554		
%		5.2%	39.9%	48.4%	6.5%	100.0%	29.1%		
80-	度数	10	110	300	63	483			
	%	2.1%	22.8%	62.1%	13.0%	100.0%	25.4%		
合計	度数	114	763	897	127	1901			
	%	6.0%	40.1%	47.2%	6.7%	100.0%	100.0%		

【表 2-6-3】 新司法試験の刑事系試験成績(短答式)と法科大学院の成績(刑事系法律実務基礎科目)

			司法試験刑事系短答式成績					
			D	C	B	A	合計	
刑事実務基礎	全体	60-70	度数	47	299	351	54	751
			%	6.3%	39.8%	46.7%	7.2%	100.0% 20.9%
		70-75	度数	16	173	256	36	481
			%	3.3%	36.0%	53.2%	7.5%	100.0% 13.4%
		75-80	度数	41	329	664	108	1142
	%		3.6%	28.8%	58.1%	9.5%	100.0% 31.8%	
	80-	度数	15	262	729	212	1218	
		%	1.2%	21.5%	59.9%	17.4%	100.0% 33.9%	
	合計	度数	119	1063	2000	410	3592	
		%	3.3%	29.6%	55.7%	11.4%	100.0% 100.0%	
	既修	60-70	度数	7	89	180	42	318
			%	2.2%	28.0%	56.6%	13.2%	100.0% 18.3%
		70-75	度数	2	43	126	21	192
			%	1.0%	22.4%	65.6%	10.9%	100.0% 11.1%
		75-80	度数	3	124	412	77	616
%	0.5%		20.1%	66.9%	12.5%	100.0% 35.5%		
80-	度数	1	64	400	145	610		
	%	0.2%	10.5%	65.6%	23.8%	100.0% 35.1%		
合計	度数	13	320	1118	285	1736		
	%	0.7%	18.4%	64.4%	16.4%	100.0% 100.0%		
未修	60-70	度数	40	210	171	12	433	
		%	9.2%	48.5%	39.5%	2.8%	100.0% 23.3%	
	70-75	度数	14	130	130	15	289	
		%	4.8%	45.0%	45.0%	5.2%	100.0% 15.6%	
	75-80	度数	38	205	252	31	526	
%		7.2%	39.0%	47.9%	5.9%	100.0% 28.3%		
80-	度数	14	198	329	67	608		
	%	2.3%	32.6%	54.1%	11.0%	100.0% 32.8%		
合計	度数	106	743	882	125	1856		
	%	5.7%	40.0%	47.5%	6.7%	100.0% 100.0%		

【表 2-6-4】 新司法試験の刑事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(刑事系法律基本科目[1年次])

				司法試験刑事系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
刑事法律基本1年	未修	60-70	度数	58	40	11	4	113	
			%	51.3%	35.4%	9.7%	3.5%	100.0%	9.7%
		70-75	度数	76	74	42	7	199	
			%	38.2%	37.2%	21.1%	3.5%	100.0%	17.1%
		75-80	度数	123	123	63	21	330	
	%		37.3%	37.3%	19.1%	6.4%	100.0%	28.4%	
	80-	度数	182	156	140	41	519		
		%	35.1%	30.1%	27.0%	7.9%	100.0%	44.7%	
	合計	度数	439	393	256	73	1161		
		%	37.8%	33.9%	22.0%	6.3%	100.0%	100.0%	

【表 2-6-5】 新司法試験の刑事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(刑事系法律基本科目[2年次以降])

				司法試験刑事系論文式成績					
				D	C	B	A	合計	
刑事法律基本2年	全体	60-70	度数	124	96	37	7	264	
			%	47.0%	36.4%	14.0%	2.7%	100.0%	9.8%
		70-75	度数	201	178	94	20	493	
			%	40.8%	36.1%	19.1%	4.1%	100.0%	18.2%
		75-80	度数	326	343	227	45	941	
			%	34.6%	36.5%	24.1%	4.8%	100.0%	34.8%
		80-	度数	222	351	299	135	1007	
			%	22.0%	34.9%	29.7%	13.4%	100.0%	37.2%
		合計	度数	873	968	657	207	2705	
			%	32.3%	35.8%	24.3%	7.7%	100.0%	100.0%
	既修	60-70	度数	40	46	18	4	108	
			%	37.0%	42.6%	16.7%	3.7%	100.0%	7.0%
		70-75	度数	88	90	49	14	241	
			%	36.5%	37.3%	20.3%	5.8%	100.0%	15.6%
		75-80	度数	190	221	147	29	587	
			%	32.4%	37.6%	25.0%	4.9%	100.0%	38.0%
		80-	度数	116	218	187	87	608	
			%	19.1%	35.9%	30.8%	14.3%	100.0%	39.4%
		合計	度数	434	575	401	134	1544	
			%	28.1%	37.2%	26.0%	8.7%	100.0%	100.0%
未修	60-70	度数	84	50	19	3	156		
		%	53.8%	32.1%	12.2%	1.9%	100.0%	13.4%	
	70-75	度数	113	88	45	6	252		
		%	44.8%	34.9%	17.9%	2.4%	100.0%	21.7%	
	75-80	度数	136	122	80	16	354		
		%	38.4%	34.5%	22.6%	4.5%	100.0%	30.5%	
	80-	度数	106	133	112	48	399		
		%	26.6%	33.3%	28.1%	12.0%	100.0%	34.4%	
	合計	度数	439	393	256	73	1161		
		%	37.8%	33.9%	22.0%	6.3%	100.0%	100.0%	

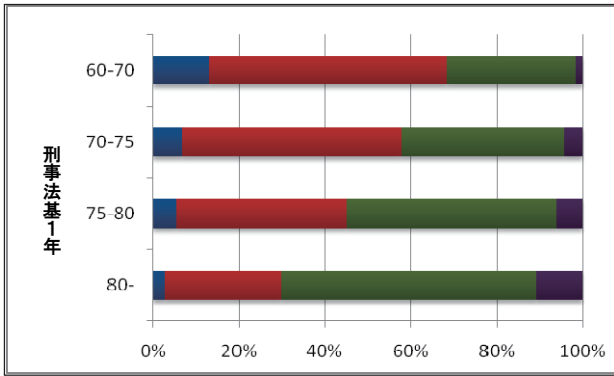
【表 2-6-6】 新司法試験の刑事系試験成績(論文式)と法科大学院の成績(刑事系法律実務基礎科目)

			司法試験刑事系論文式成績					
			D	C	B	A	合計	
刑事実務基礎	全体	60-70	度数	185	171	89	19	464
			%	39.9%	36.9%	19.2%	4.1%	100.0% 17.3%
		70-75	度数	119	114	79	21	333
			%	35.7%	34.2%	23.7%	6.3%	100.0% 12.4%
		75-80	度数	279	323	213	47	862
	%		32.4%	37.5%	24.7%	5.5%	100.0% 32.1%	
	80-	度数	277	354	272	120	1023	
		%	27.1%	34.6%	26.6%	11.7%	100.0% 38.1%	
	合計	度数	860	962	653	207	2682	
		%	32.1%	35.9%	24.3%	7.7%	100.0% 100.0%	
	既修	60-70	度数	88	96	54	12	250
			%	35.2%	38.4%	21.6%	4.8%	100.0% 16.2%
		70-75	度数	49	66	37	13	165
			%	29.7%	40.0%	22.4%	7.9%	100.0% 10.7%
		75-80	度数	159	218	138	33	548
%	29.0%		39.8%	25.2%	6.0%	100.0% 35.5%		
80-	度数	138	195	172	76	581		
	%	23.8%	33.6%	29.6%	13.1%	100.0% 37.6%		
合計	度数	434	575	401	134	1544		
	%	28.1%	37.2%	26.0%	8.7%	100.0% 100.0%		
未修	60-70	度数	97	75	35	7	214	
		%	45.3%	35.0%	16.4%	3.3%	100.0% 18.8%	
	70-75	度数	70	48	42	8	168	
		%	41.7%	28.6%	25.0%	4.8%	100.0% 14.8%	
	75-80	度数	120	105	75	14	314	
%		38.2%	33.4%	23.9%	4.5%	100.0% 27.6%		
80-	度数	139	159	100	44	442		
	%	31.4%	36.0%	22.6%	10.0%	100.0% 38.8%		
合計	度数	426	387	252	73	1138		
	%	37.4%	34.0%	22.1%	6.4%	100.0% 100.0%		

【図 2-12】 新司法試験の刑事系試験成績と法科大学院の成績

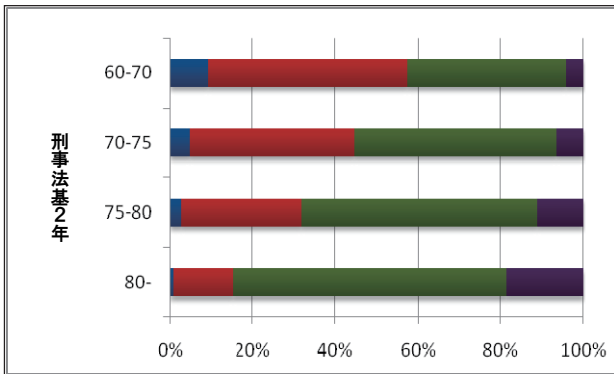
① 短答式試験と刑事系必修法律科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

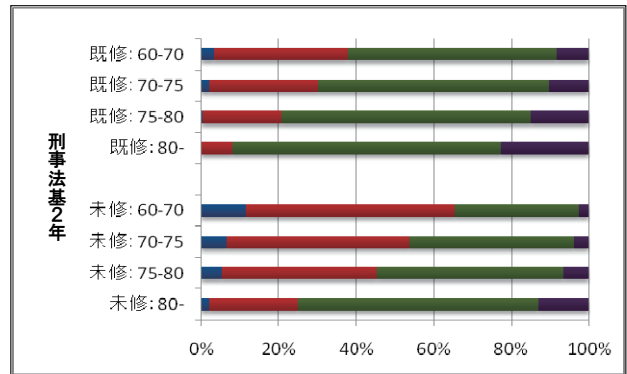


② 短答式試験と刑事系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

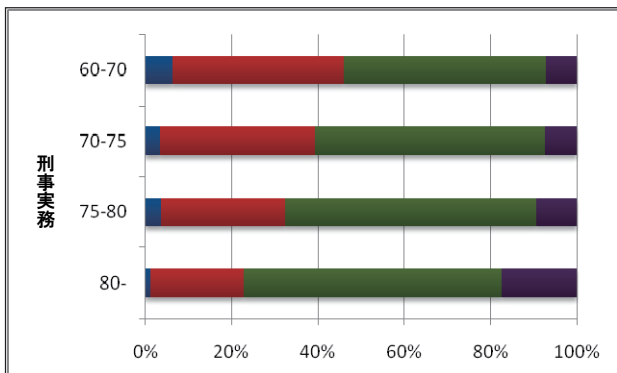


B 既修・未修別

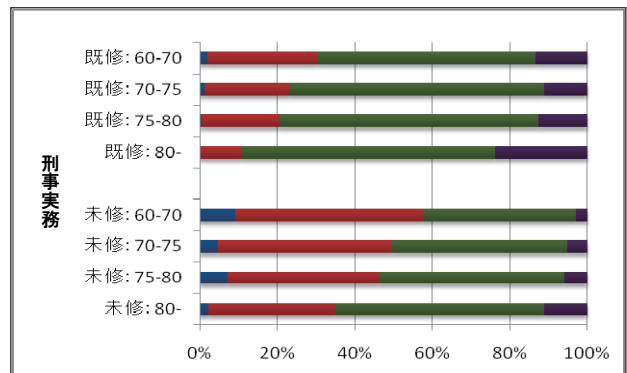


③ 短答式試験と刑事系必修実務基礎科目

A 全体

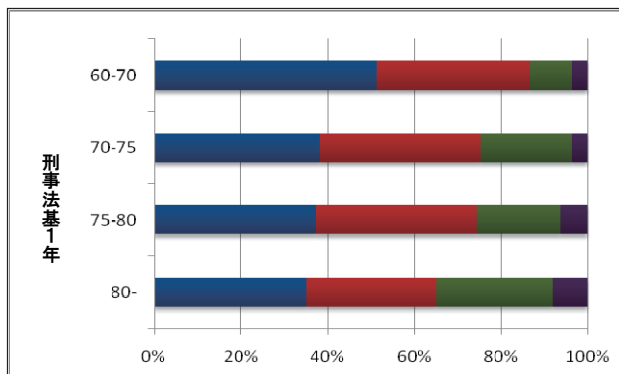


B 既修・未修別



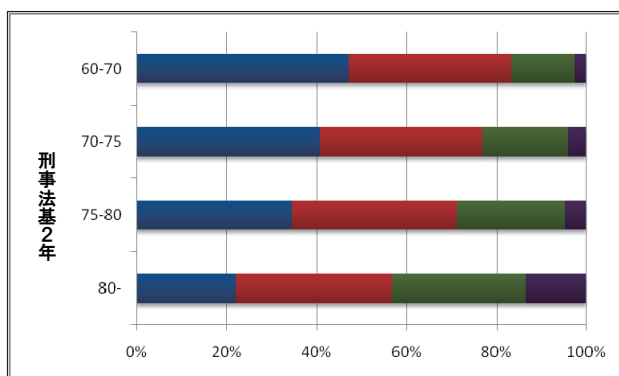
④ 論文式試験と刑事系必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

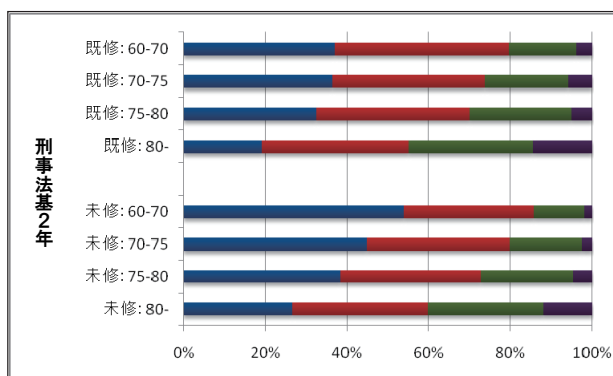


⑤ 論文式試験と刑事系必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

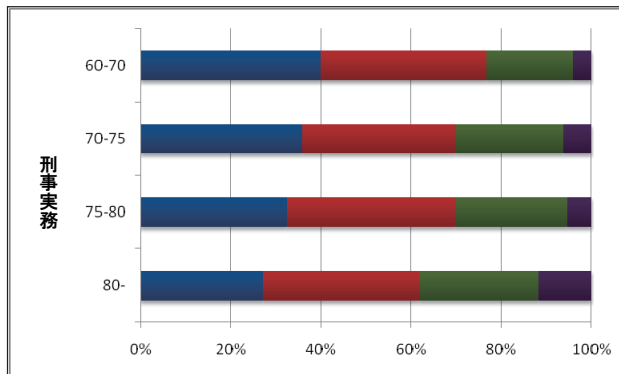


B 既修・未修別

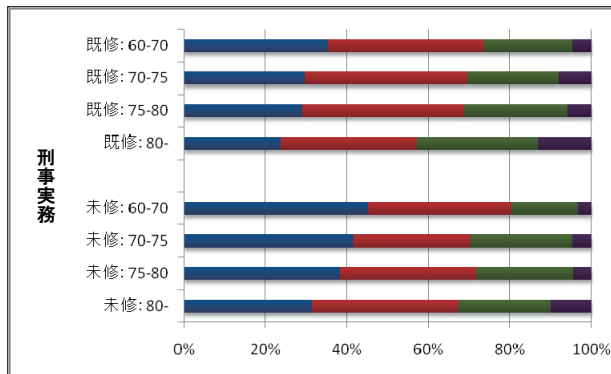


⑥ 論文式試験と刑事系必修実務基礎科目

A 全体



B 既修・未修別



(2) 新司法試験の成績ランクと法科大学院の成績分布

新司法試験の成績ランク別の法科大学院の成績（得点）分布を図表化した。

【図 2-13】は、新司法試験の総合評価成績ランク（A～Fの6段階の総合評価成績ランクに、総合評価に至らなかった「1次評価不合格（G）」を加えた7段階のカテゴリを用いた）ごとの法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）の得点分布を示した箱ひげ図である。

【図 2-14】は、新司法試験の短答式試験総合成績ランク（A～Eの5段階）ごとの法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）の得点分布を示した箱ひげ図である。

【図 2-15】は、新司法試験の論文式試験総合成績ランク（A～Eの5段階）ごとの法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）の得点分布を示した箱ひげ図である。

【図 2-16】～【図 2-18】は、新司法試験の科目別の短答式試験、論文式試験の各成績ランク（A～Dの4段階）ごとに法科大学院の対応する分野の成績（公法系は、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕の2項目、民事系と刑事系は、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の3項目）の得点分布を示した箱ひげ図である。

これらの箱ひげ図に示された法科大学院の成績と新司法試験の成績との関連性を数値化して検証するため、【表 2-7】では、新司法試験の成績カテゴリを数値化し（最下位の成績カテゴリを1とする1点刻みの数値を与えた。なお、新司法試験の総合評価成績については、「1次評価不合格（G）」は除いた）、これと法科大学院の得点との間の相関係数を算出した。

これらによれば、新司法試験の成績の上位グループの方が下位グループよりも、法科大学院の成績も上位に分布する傾向が認められる。

このような傾向について、さらに立ち入って検証するため、大学グループ別（学生構成別、合格率別）に、法科大学院の成績と新司法試験の成績（成績カテゴリを数値化したもの）との対応する項目間における相関係数を算出したのが【表 2-8】である。

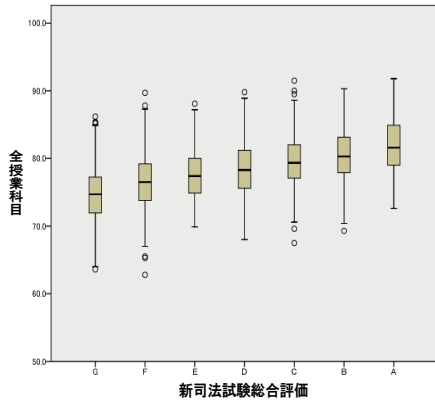
これによれば、いずれのグループにおいても概ね上記の傾向を確認することができるといえる。

以上に関連する参考資料として、資料編2【資料 2-7】には、新司法試験の総合評価成績ごとの法科大学院の全授業科目の得点分布について、大学別の統計資料（箱ひげ図）を示した。

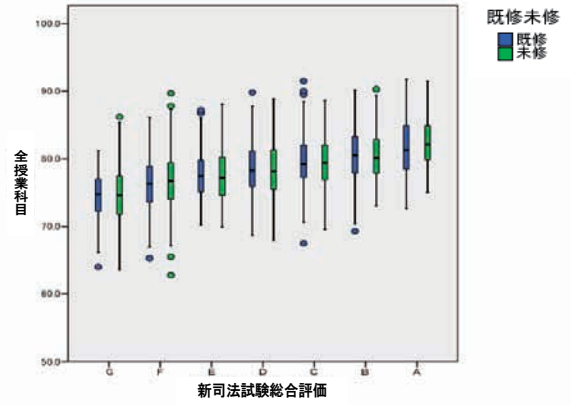
【図 2-13】 新司法試験の総合評価成績と法科大学院の成績分布

① 全授業科目の成績分布

A 全体

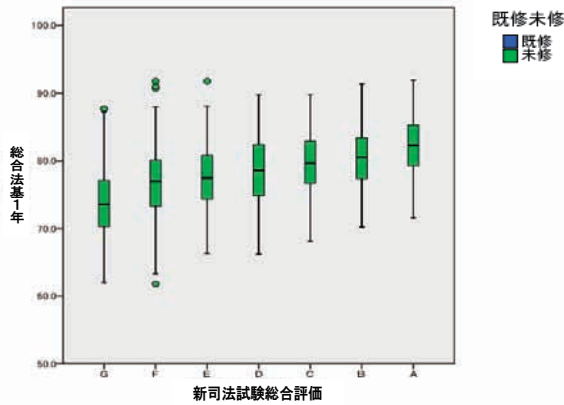


B 既修・未修別

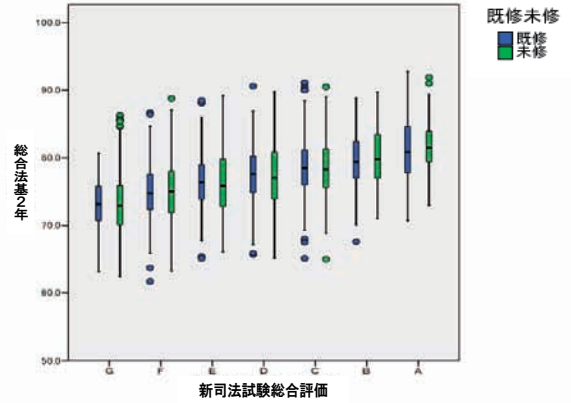


② 必修法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

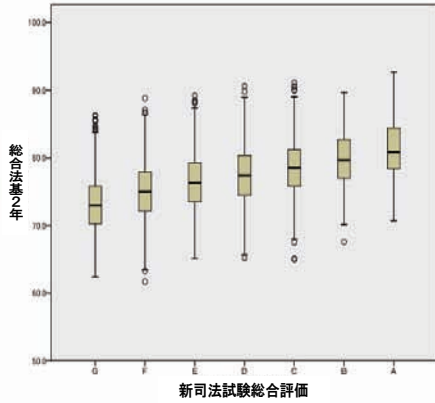


B 既修・未修別

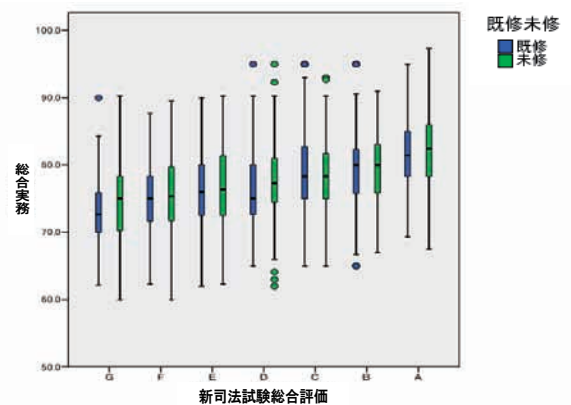


③ 必修法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

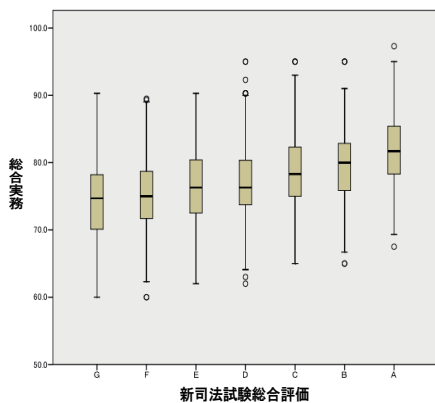


B 既修・未修別



④ 必修法律実務基礎科目の成績分布

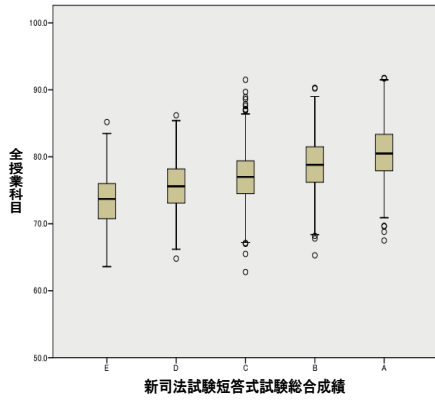
A 全体



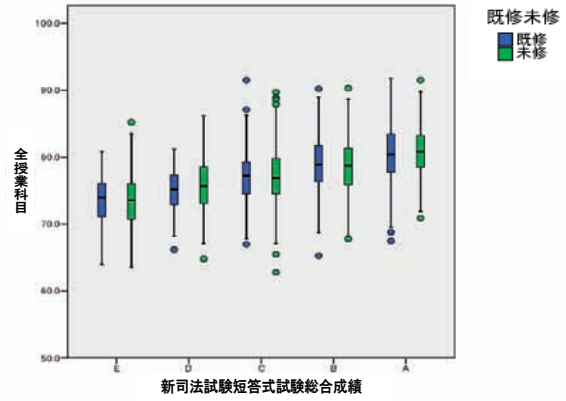
【図 2-14】 新司法試験の短答式試験総合評価と法科大学院の成績分布

① 全授業科目の成績分布

A 全体

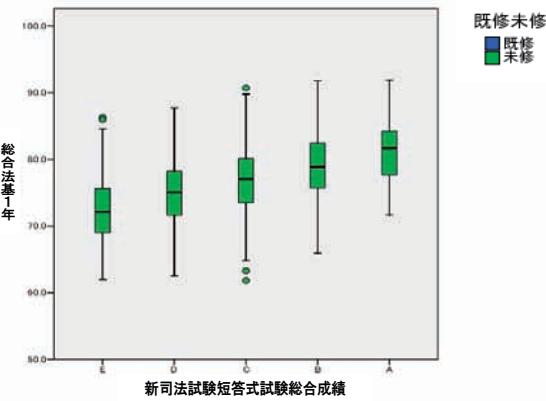


B 既修・未修別



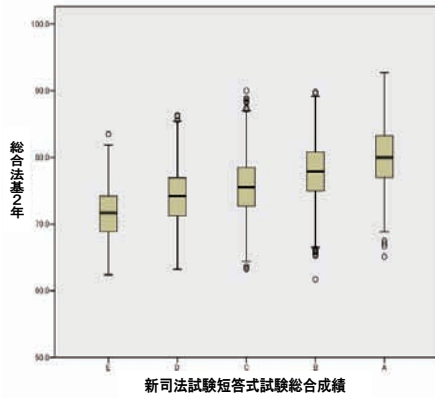
② 必修法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

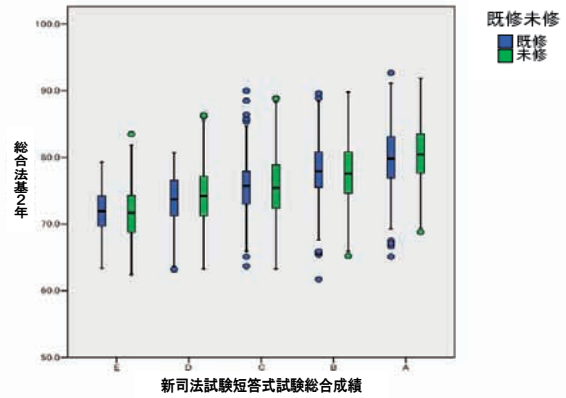


③ 必修法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

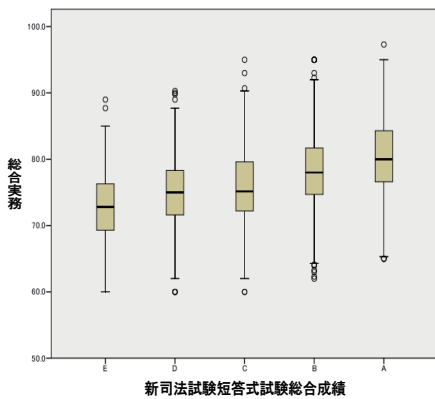


B 既修・未修別

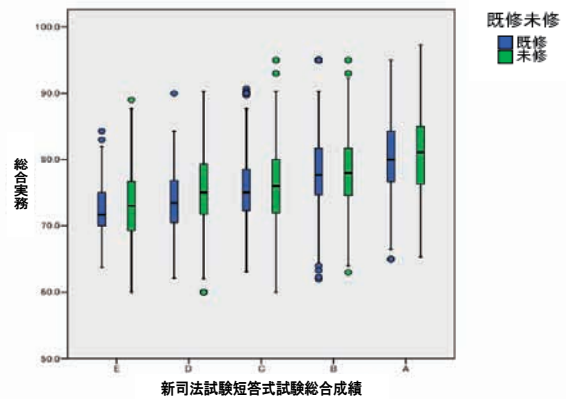


④ 必修実務基礎科目の成績分布

A 全体



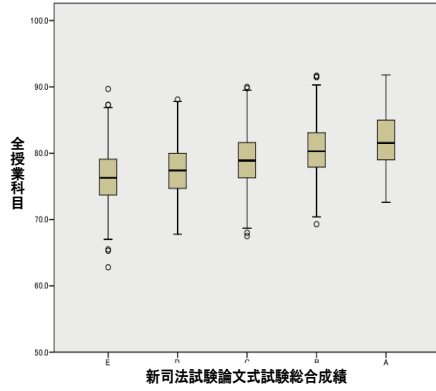
B 既修・未修別



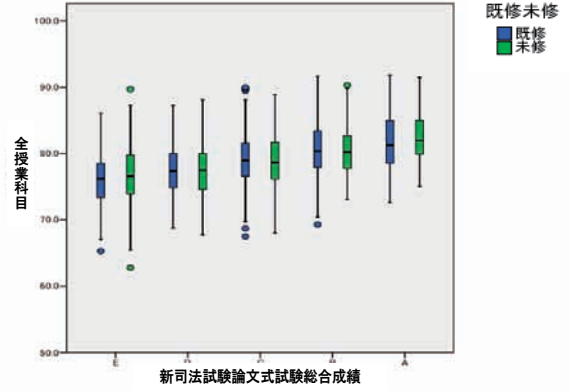
【図 2-15】 新司法試験の論文式試験総合成績と法科大学院の成績分布

① 全授業科目の成績分布

A 全体

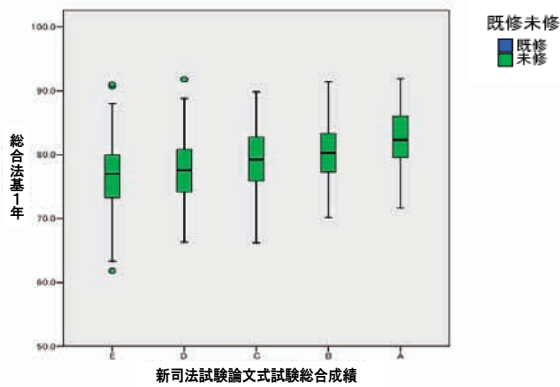


B 既修・未修別



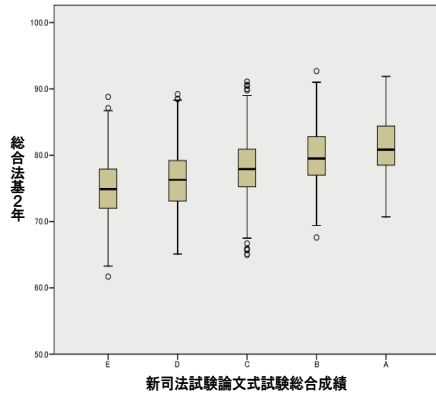
② 必修法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

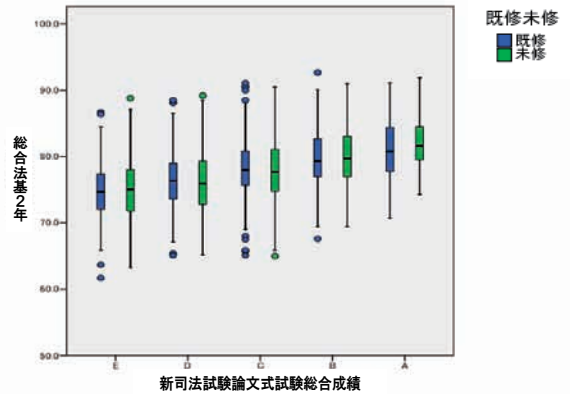


③ 必修法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

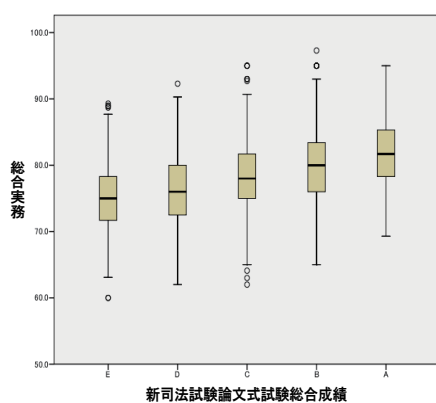


B 既修・未修別

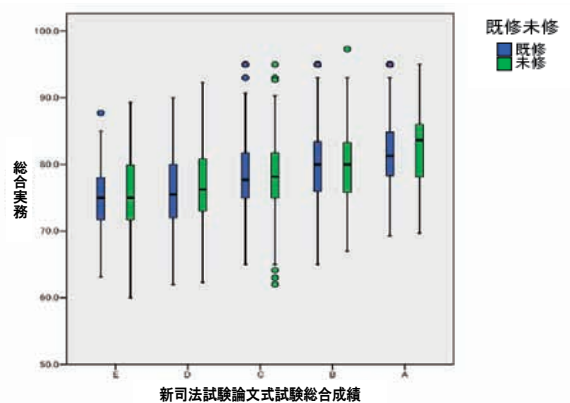


④ 必修実務基礎科目の成績分布

A 全体



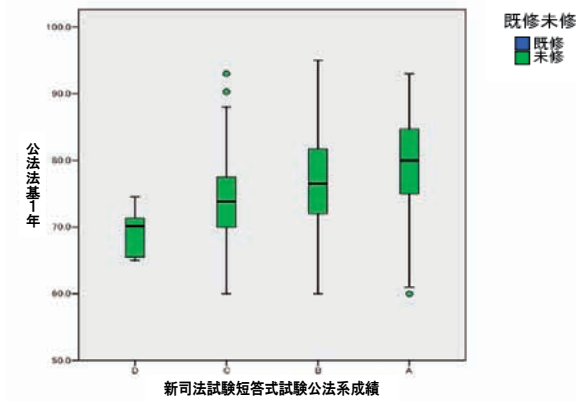
B 既修・未修別



【図 2-16】 新司法試験の公法系試験成績と法科大学院の成績分布

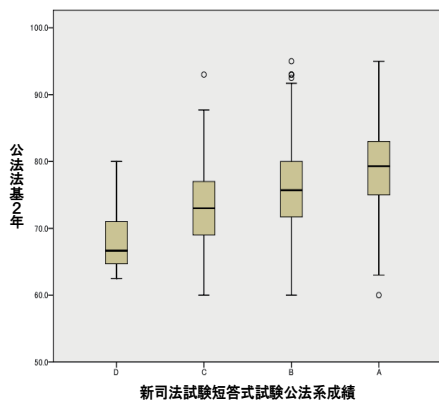
① 短答式試験成績と公法系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

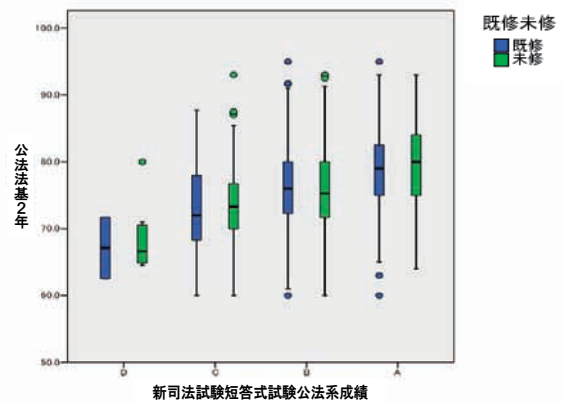


② 短答式試験成績と公法系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

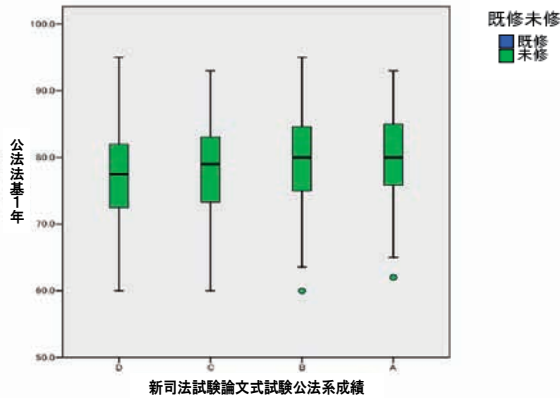


B 既修・未修別



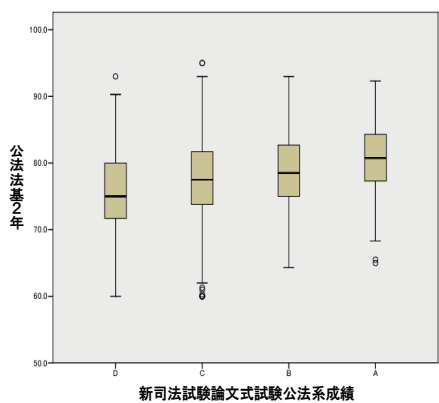
③ 論文式試験成績と公法系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

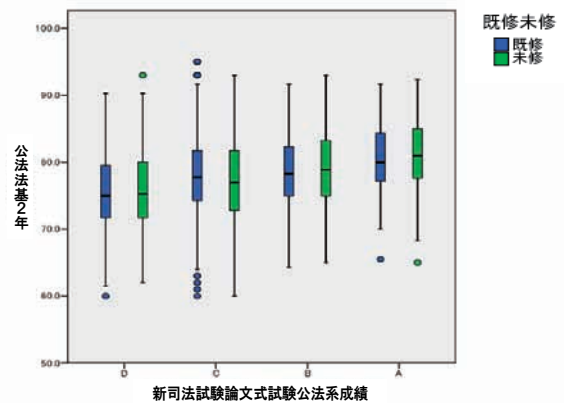


④ 論文式試験成績と公法系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体



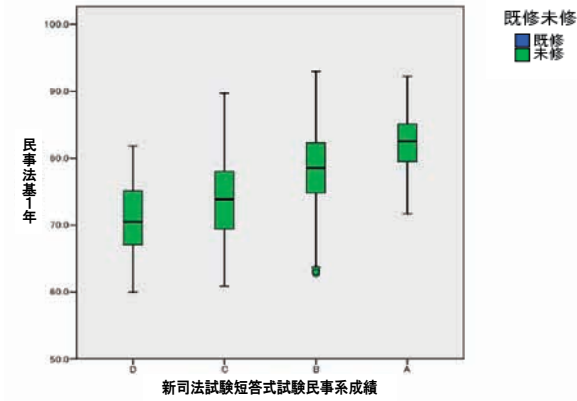
B 既修・未修別



【図 2-17】 新司法試験の民事系試験成績と法科大学院の成績分布

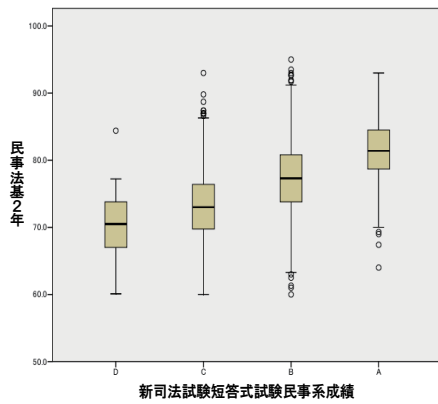
① 短答式試験成績と民事系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

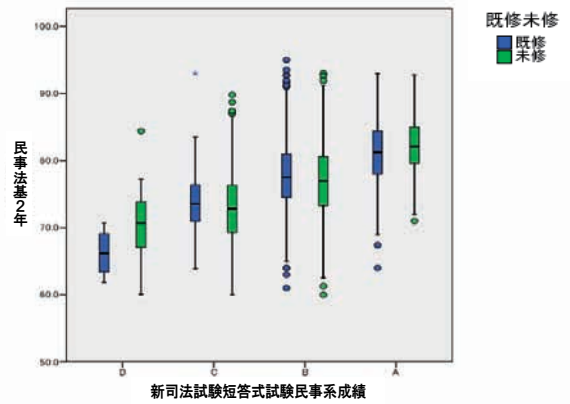


② 短答式試験成績と民事系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

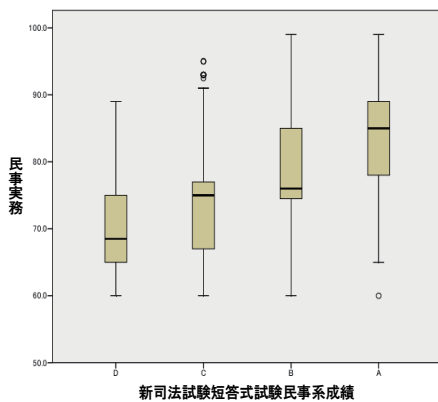


B 既修・未修別

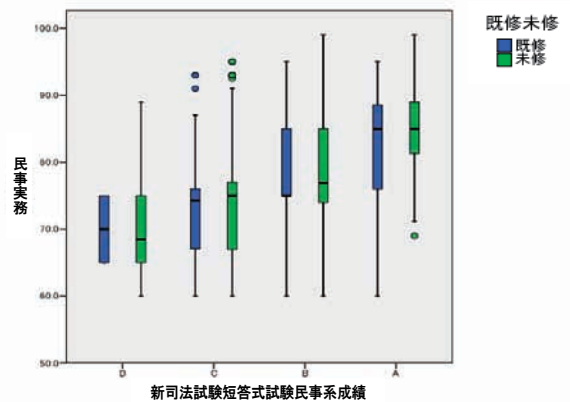


③ 短答式試験成績と民事系実務基礎科目の成績分布

A 全体

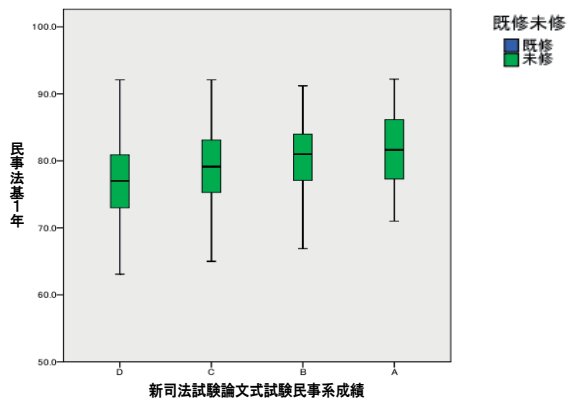


B 既修・未修別



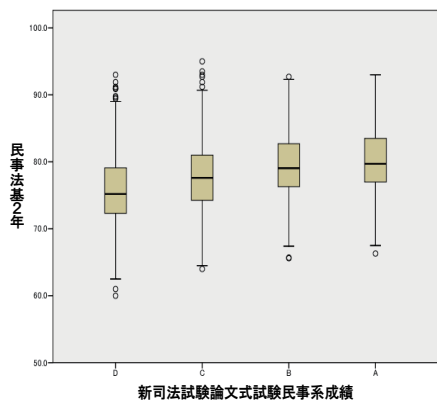
④ 論文式試験成績と民事系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

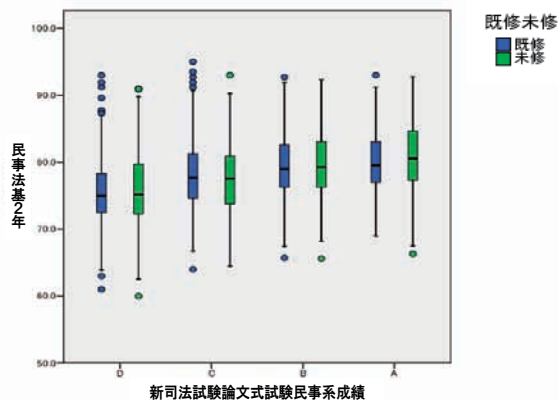


⑤ 論文式試験成績と民事系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

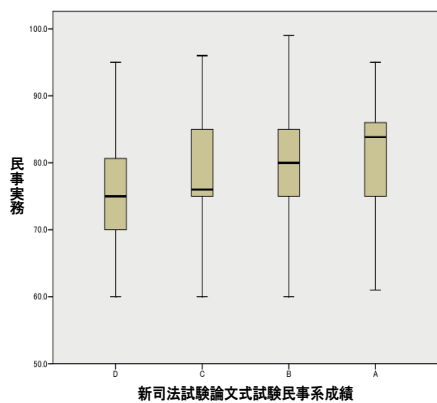


B 既修・未修別

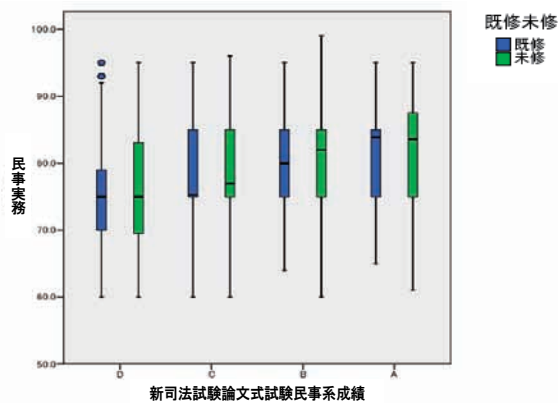


⑥ 論文式試験成績と民事系実務基礎科目の成績分布

A 全体



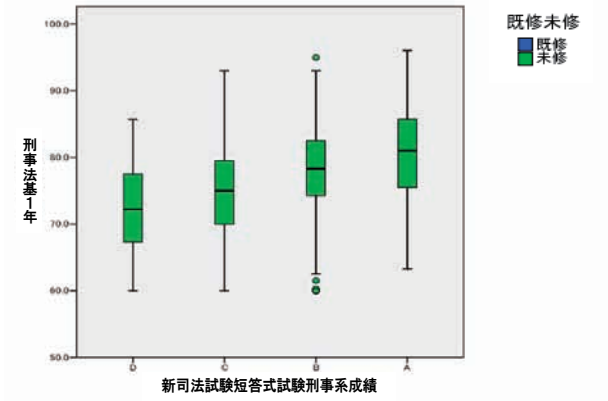
B 既修・未修別



【図 2-18】 新司法試験の刑事系試験成績と法科大学院の成績分布

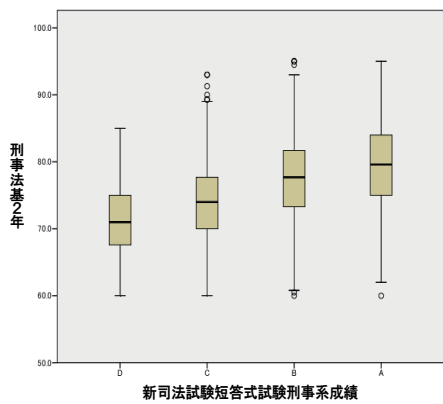
① 短答式試験成績と刑事系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

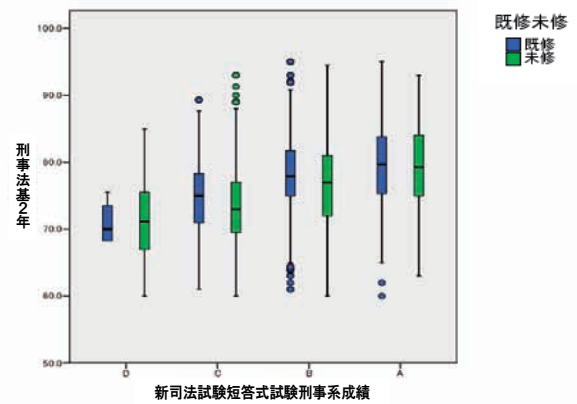


② 短答式試験成績と刑事系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

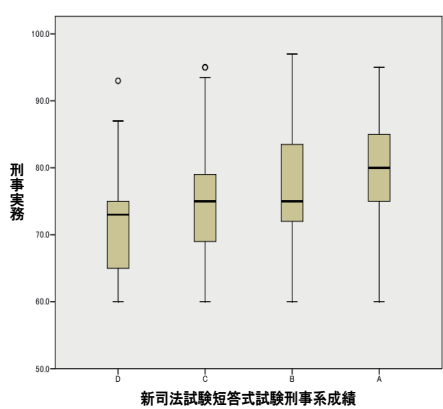


B 既修・未修別

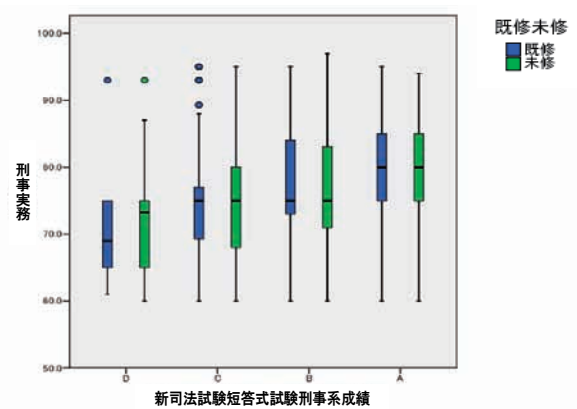


③ 短答式試験成績と刑事系実務基礎科目の成績分布

A 全体

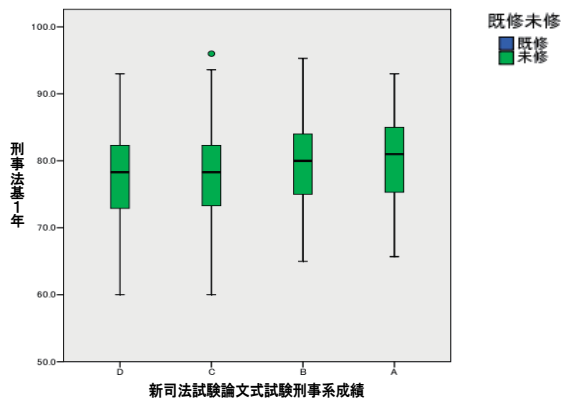


B 既修・未修別



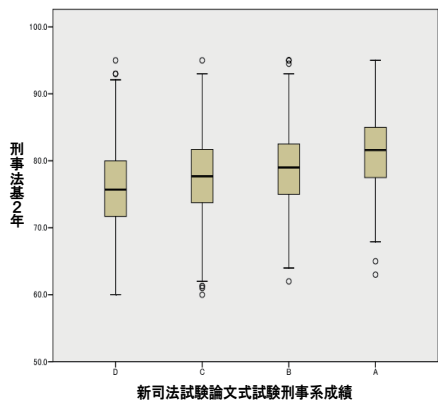
④ 論文式試験成績と刑事系法律基本科目(1年次)の成績分布

A 全体(未修者のみ)

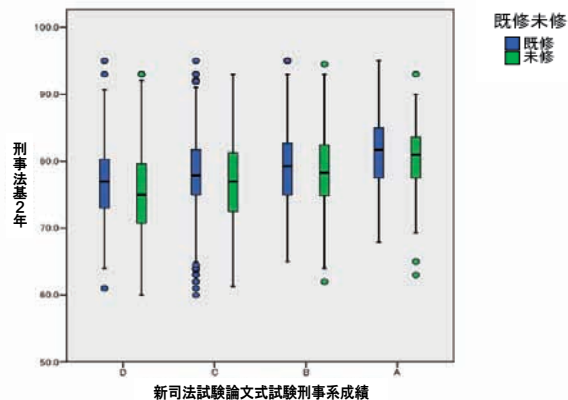


⑤ 論文式試験成績と刑事系法律基本科目(2年次以降)の成績分布

A 全体

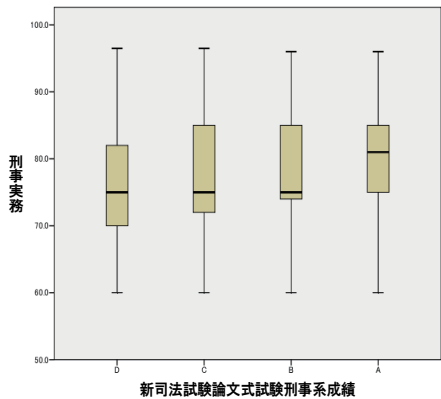


B 既修・未修別

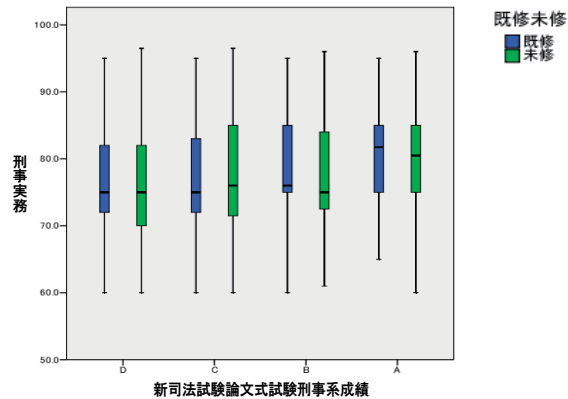


⑥ 論文式試験成績と刑事系実務基礎科目の成績分布

A 全体



B 既修・未修別



【表 2-7-1】 相関係数(全体)

		司試 総合評価	司試 短答総合	司試 論文総合	司試 短答公法	司試 論文公法	司試 短答民事	司試 論文民事	司試 短答刑事	司試 論文刑事
全授業科目	相関係数	.425**	.492**	.411**	.376**	.288**	.428**	.327**	.401**	.310**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
総合法基1年	相関係数	.340**	.495**	.321**	.390**	.236**	.422**	.286**	.394**	.242**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
総合法基2年	相関係数	.432**	.516**	.416**	.396**	.290**	.448**	.333**	.421**	.299**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
総合実務	相関係数	.356**	.375**	.340**	.292**	.249**	.334**	.281**	.313**	.238**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
公法法基1年	相関係数	.181**	.298**	.166**	.268**	.135**	.259**	.151**	.235**	.119**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161
公法法基2年	相関係数	.316**	.351**	.302**	.281**	.229**	.298**	.237**	.286**	.211**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
民事法基1年	相関係数	.345**	.488**	.325**	.377**	.247**	.421**	.282**	.381**	.255**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
民事法基2年	相関係数	.402**	.495**	.388**	.376**	.267**	.431**	.308**	.406**	.273**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
民事実務	相関係数	.353**	.384**	.336**	.295**	.224**	.339**	.286**	.317**	.227**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3636	2705	3636	2705	3636	2705	3636	2705
刑事法基1年	相関係数	.229**	.363**	.221**	.274**	.139**	.300**	.212**	.313**	.144**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
刑事法基2年	相関係数	.317**	.412**	.299**	.311**	.201**	.357**	.251**	.336**	.231**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705	3637	2705
刑事実務	相関係数	.232**	.259**	.221**	.197**	.173**	.221**	.178**	.221**	.149**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	2682	3592	2682	3592	2682	3592	2682	3592	2682

**：相関係数は1%水準で有意(両側)

【表 2-7-2】 相関係数(既修者)

		司試 総合評価	司試 短答総合	司試 論文総合	司試 短答公法	司試 論文公法	司試 短答民事	司試 論文民事	司試 短答刑事	司試 論文刑事
全授業科目	相関係数	.427**	.432**	.414**	.288**	.276**	.369**	.317**	.330**	.312**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
総合法基1年	相関係数	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	有意確率(両側)	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	N	/	/	/	/	/	/	/	/	/
総合法基2年	相関係数	.431**	.467**	.413**	.312**	.284**	.399**	.322**	.356**	.297**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
総合実務	相関係数	.391**	.383**	.371**	.268**	.257**	.324**	.296**	.303**	.267**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
公法法基1年	相関係数	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	有意確率(両側)	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	N	/	/	/	/	/	/	/	/	/
公法法基2年	相関係数	.345**	.363**	.331**	.245**	.238**	.287**	.245**	.286**	.245**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
民事法基1年	相関係数	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	有意確率(両側)	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	N	/	/	/	/	/	/	/	/	/
民事法基2年	相関係数	.394**	.425**	.379**	.287**	.252**	.369**	.302**	.322**	.259**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
民事実務	相関係数	.382**	.387**	.368**	.263**	.221**	.334**	.304**	.305**	.255**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
刑事法基1年	相関係数	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	有意確率(両側)	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	N	/	/	/	/	/	/	/	/	/
刑事法基2年	相関係数	.295**	.352**	.275**	.227**	.201**	.308**	.214**	.266**	.214**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544
刑事実務	相関係数	.253**	.250**	.240**	.171**	.192**	.192**	.192**	.208**	.157**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544	1736	1544

**：相関係数は 1% 水準で有意(両側)

【表 2-7-3】 相関係数(未修者)

		司試 総合評価	司試 短答総合	司試 論文総合	司試 短答公法	司試 論文公法	司試 短答民事	司試 論文民事	司試 短答刑事	司試 論文刑事
全授業科目	相関係数	.413**	.495**	.394**	.397**	.293**	.423**	.323**	.404**	.297**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
総合法基1年	相関係数	.340**	.495**	.321**	.390**	.236**	.422**	.286**	.394**	.242**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
総合法基2年	相関係数	.420**	.506**	.404**	.406**	.287**	.430**	.328**	.414**	.290**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
総合実務	相関係数	.315**	.359**	.302**	.288**	.236**	.324**	.260**	.300**	.195**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
公法法基1年	相関係数	.181**	.298**	.166**	.268**	.135**	.259**	.151**	.235**	.119**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161
公法法基2年	相関係数	.278**	.328**	.265**	.285**	.214**	.284**	.222**	.262**	.163**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
民事法基1年	相関係数	.345**	.488**	.325**	.377**	.247**	.421**	.282**	.381**	.255**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
民事法基2年	相関係数	.404**	.501**	.389**	.393**	.278**	.425**	.303**	.415**	.281**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
民事実務	相関係数	.322**	.372**	.300**	.295**	.225**	.322**	.264**	.304**	.190**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161	1900	1161
刑事法基1年	相関係数	.229**	.363**	.221**	.274**	.139**	.300**	.212**	.313**	.144**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
刑事法基2年	相関係数	.311**	.390**	.296**	.312**	.183**	.325**	.261**	.319**	.232**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161	1901	1161
刑事実務	相関係数	.200**	.250**	.192**	.197**	.142**	.223**	.153**	.209**	.133**
	有意確率(両側)	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1138	1856	1138	1856	1138	1856	1138	1856	1138

**：相関係数は1%水準で有意(両側)

【表 2-8-1】 相関係数:大学グループ別(学生構成別)

		全体			既修者			未修者			
		総合評価	短答式試験	論文式試験	総合評価	短答式試験	論文式試験	総合評価	短答式試験	論文式試験	
未修中心型	総合成績	全授業科目	.369**	.514**	.349**	.381**	.462**	.349**	.369**	.513**	.352**
		綜合法基1年	.287**	.509**	.274**	/	/	/	.287**	.509**	.274**
		綜合法基2年	.389**	.526**	.369**	.343**	.454**	.306**	.395**	.515**	.378**
		総合実務	.319**	.379**	.300**	.339**	.339**	.316**	.316**	.382**	.298**
	公法系	法基1年	.139**	.286**	.131**	/	/	/	.139**	.286**	.131**
		法基2年	.249**	.318**	.232**	.292**	.242**	.280**	.246**	.332**	.228**
	民事系	法基1年	.299**	.507**	.280**	/	/	/	.299**	.507**	.280**
		法基2年	.354**	.513**	.328**	.242**	.414**	.191**	.378**	.507**	.356**
		実務	.331**	.378**	.302**	.333**	.332**	.301**	.336**	.386**	.308**
	刑事系	法基1年	.182**	.361**	.189**	/	/	/	.182**	.361**	.189**
		法基2年	.311**	.441**	.304**	.271**	.368**	.261**	.306**	.418**	.298**
		実務	.206**	.274**	.194**	.263**	.206**	.256**	.186**	.271**	.173**
バランス型	総合成績	全授業科目	.264**	.440**	.245**	.271**	.456**	.260**	.258**	.465**	.212*
		綜合法基1年	.266**	.440**	.231*	/	/	/	.266**	.440**	.231*
		綜合法基2年	.284**	.456**	.272**	.266**	.460**	.247**	.327**	.465**	.328**
		総合実務	.214**	.307**	.189**	.276**	.393**	.252**	.066	.198**	.041
	公法系	法基1年	.191*	.315**	.146	/	/	/	.191*	.315**	.146
		法基2年	.279**	.390**	.281**	.281**	.422**	.288**	.283**	.391**	.267**
	民事系	法基1年	.196*	.426**	.181	/	/	/	.196*	.426**	.181
		法基2年	.243**	.392**	.229**	.220**	.392**	.194**	.304**	.420**	.312**
		実務	.256**	.328**	.233**	.270**	.356**	.271**	.220*	.285**	.149
	刑事系	法基1年	.303**	.291**	.247**	/	/	/	.303**	.291**	.247**
		法基2年	.214**	.363**	.189**	.192**	.367**	.165**	.253**	.295**	.246**
		実務	.119*	.176**	.119*	.189**	.244**	.178**	-.044	.101	-.018
既修中心型	総合成績	全授業科目	.484**	.437**	.473**	.463**	.418**	.453**	.549**	.457**	.534**
		綜合法基1年	.483**	.463**	.460**	/	/	/	.483**	.463**	.460**
		綜合法基2年	.499**	.493**	.482**	.485**	.467**	.468**	.521**	.505**	.507**
		総合実務	.421**	.380**	.408**	.429**	.385**	.410**	.406**	.369**	.411**
	公法系	法基1年	.269**	.299**	.255**	/	/	/	.269**	.299**	.255**
		法基2年	.373**	.358**	.358**	.372**	.371**	.352**	.360**	.309**	.363**
	民事系	法基1年	.508**	.449**	.487**	/	/	/	.508**	.449**	.487**
		法基2年	.471**	.468**	.463**	.457**	.430**	.449**	.505**	.518**	.499**
		実務	.403**	.397**	.396**	.419**	.406**	.405**	.344**	.371**	.360**
	刑事系	法基1年	.318**	.386**	.298**	/	/	/	.318**	.386**	.298**
		法基2年	.356**	.378**	.331**	.339**	.347**	.318**	.368**	.369**	.336**
		実務	.281**	.266**	.268**	.277**	.261**	.261**	.311**	.278**	.299**

**、相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

*、相関係数は 5% 水準で有意 (両側)。

【表 2-8-2】 相関係数:大学グループ別(合格率別)

		全体			既修者			未修者			
		総合評価	短答式試験	論文式試験	総合評価	短答式試験	論文式試験	総合評価	短答式試験	論文式試験	
合格率五〇%以上	総合成績	全授業科目	.518**	.379**	.514**	.331**	.316**	.324**	.395**	.371**	.387**
		綜合法基1年	.435**	.420**	.436**	/	/	/	.435**	.420**	.436**
		綜合法基2年	.572**	.493**	.573**	.393**	.417**	.375**	.459**	.481**	.444**
		総合実務	.360**	.282**	.380**	.369**	.325**	.345**	.377**	.335**	.365**
	公法系	法基1年	.286**	.267**	.281**	/	/	/	.286**	.267**	.281**
		法基2年	.314**	.236**	.324**	.278**	.268**	.259**	.301**	.286**	.289**
	民事系	法基1年	.443**	.398**	.445**	/	/	/	.443**	.398**	.445**
		法基2年	.554**	.496**	.562**	.358**	.368**	.351**	.425**	.446**	.420**
		実務	.370**	.306**	.385**	.367**	.347**	.344**	.381**	.360**	.368**
	刑事系	法基1年	.285**	.376**	.290**	/	/	/	.285**	.376**	.290**
		法基2年	.416**	.372**	.395**	.271**	.328**	.248**	.329**	.380**	.304**
		実務	.272**	.184**	.281**	.257**	.221**	.245**	.267**	.222**	.261**
合格率二〇〜五〇%	総合成績	全授業科目	.454**	.548**	.432**	.375**	.366**	.361**	.413**	.477**	.396**
		綜合法基1年	.386**	.514**	.368**	/	/	/	.386**	.514**	.368**
		綜合法基2年	.446**	.520**	.428**	.346**	.356**	.330**	.399**	.463**	.382**
		総合実務	.401**	.429**	.378**	.346**	.335**	.325**	.371**	.378**	.350**
	公法系	法基1年	.228**	.276**	.214**	/	/	/	.228**	.276**	.214**
		法基2年	.344**	.339**	.330**	.248**	.264**	.247**	.297**	.302**	.290**
	民事系	法基1年	.391**	.515**	.370**	/	/	/	.391**	.515**	.370**
		法基2年	.423**	.514**	.401**	.315**	.342**	.296**	.371**	.452**	.352**
		実務	.421**	.434**	.390**	.367**	.357**	.361**	.393**	.395**	.375**
	刑事系	法基1年	.232**	.345**	.229**	/	/	/	.232**	.345**	.229**
		法基2年	.319**	.404**	.309**	.278**	.268**	.256**	.301**	.372**	.286**
		実務	.207**	.277**	.193**	.228**	.232**	.196**	.215**	.251**	.193**
合格率二〇%未満	総合成績	全授業科目	.290**	.466**	.272**	.460**	.522**	.443**	.349**	.474**	.331**
		綜合法基1年	.231**	.491**	.202**	/	/	/	.231**	.491**	.202**
		綜合法基2年	.326**	.484**	.310**	.414**	.538**	.386**	.351**	.495**	.330**
		総合実務	.197**	.324**	.183**	.358**	.417**	.347**	.255**	.335**	.242**
	公法系	法基1年	.113*	.359**	.099	/	/	/	.113*	.359**	.099
		法基2年	.217**	.349**	.195**	.337**	.419**	.312**	.241**	.327**	.217**
	民事系	法基1年	.241**	.480**	.213**	/	/	/	.241**	.480**	.213**
		法基2年	.313**	.476**	.298**	.362**	.468**	.332**	.325**	.475**	.304**
		実務	.211**	.343**	.182**	.293**	.371**	.291**	.233**	.336**	.215**
	刑事系	法基1年	.156**	.340**	.134**	/	/	/	.156**	.340**	.134**
		法基2年	.261**	.373**	.246**	.299**	.443**	.285**	.282**	.413**	.269**
		実務	.138**	.239**	.129*	.269**	.294**	.281**	.196**	.266**	.195**

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側)。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側)。

2 法科大学院修了者の法科大学院の成績と新司法試験の結果

法科大学院教育と新司法試験とを有機的に連携させた新しい法曹養成制度のもとでは、法科大学院において、「厳格な成績評価及び修了認定が行われることを不可欠の前提とした上で、……その課程を修了した者のうち相当程度……の者が……新司法試験に合格できるよう、充実した教育を行う」（司法制度改革審議会意見書）ことがその理念とされていた。法科大学院教育と新司法試験との有機的連携にとって、両者の間の内容的な関連性の確保が重要であることは勿論であるが、課題はそれに尽きるものではない。そこにはさらに、法科大学院の修了水準と新司法試験の合格水準との関係等、より多様な内容が含まれるであろう。そこで、法曹養成プロセスの現状をより全体的に捉える手がかりとして、法科大学院修了者全体（新司法試験未受験者を含む）について、法科大学院の成績と新司法試験の受験有無及び合否結果（受験有無と合否結果とをあわせて、以下、単に「結果」ということがある）との関係についても、統計資料を作成した。

（1）法科大学院の成績と新司法試験の結果とのクロス集計

法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）について、成績を「60点以上70点未満」、「70点以上75点未満」、「75点以上80点未満」、「80点以上」の4段階にカテゴリ化し、これと新司法試験の結果（「未受験」、「1次評価不合格」、「1次評価合格・総合評価不合格」、「総合評価合格」の4カテゴリ）とのクロス集計を行った。

【表2-9-1】～【表2-9-4】は、そのクロス集計表であり、【図2-19】は、それを帯グラフで表したものである。

【表2-9】及び【図2-19】によれば、新司法試験の未受験者について、①その割合は、法科大学院の成績カテゴリの段階が下位のグループにおいて大きく、上位のグループになるほど小さいこと、②その割合は、法科大学院の成績カテゴリの段階が同じであれば、既修者よりも未修者において格段に大きいことがわかる。同様のことは、新司法試験の未受験者と1次評価不合格者とを合わせたカテゴリについてもあてはまる。

総合評価合格者については、その割合は、③法科大学院の成績カテゴリの段階が上位のグループになるほど大きく、④法科大学院の成績カテゴリの段階が同じであれば、未修者よりも既修者において格段に大きいことがわかる。

数値で見ると、法科大学院の全授業科目の成績について、新司法試験の未受験者と1次評価不合格者とを合わせた者の割合は、未修者の「60点以上70点未満」の層では約90%に及び（既修者では60%強）、「70点以上75点未満」の層でも約75%（既修者では40%弱）に及ぶ。逆に、総合評価合格は、既修者の「80点以上」の層では66%（未修者では40%弱）に達している。

【表 2-9-1】 法科大学院の成績(全授業科目)と新司法試験の結果

			新司法試験結果				合計	
			未受験	受験				
				不合格	短答合格	総合合格		
全授業科目	全体	60-70	度数 %	128 46.4%	106 38.4%	39 14.1%	3 1.1%	276 100.0%
		70-75	度数 %	437 34.0%	385 29.9%	378 29.4%	87 6.8%	1287 100.0%
		75-80	度数 %	351 18.7%	350 18.7%	684 36.5%	491 26.2%	1876 100.0%
		80-	度数 %	88 7.3%	91 7.6%	379 31.5%	644 53.6%	1202 100.0%
		合計	度数 %	1004 21.6%	932 20.1%	1480 31.9%	1225 26.4%	4641 100.0%
		既修	60-70	度数 %	18 34.0%	15 28.3%	18 34.0%	2 3.8%
	70-75	度数 %	72 18.2%	85 21.5%	180 45.6%	58 14.7%	395 100.0%	
	75-80	度数 %	63 7.6%	83 10.0%	349 42.1%	333 40.2%	828 100.0%	
	80-	度数 %	22 3.5%	9 1.4%	185 29.1%	419 66.0%	635 100.0%	
	合計	度数 %	175 9.2%	192 10.0%	732 38.3%	812 42.5%	1911 100.0%	
	未修	60-70	度数 %	110 49.3%	91 40.8%	21 9.4%	1 0.4%	223 100.0%
	70-75	度数 %	365 40.9%	300 33.6%	198 22.2%	29 3.3%	892 100.0%	
	75-80	度数 %	288 27.5%	267 25.5%	335 32.0%	158 15.1%	1048 100.0%	
	80-	度数 %	66 11.6%	82 14.5%	194 34.2%	225 39.7%	567 100.0%	
	合計	度数 %	829 30.4%	740 27.1%	748 27.4%	413 15.1%	2730 100.0%	

* 以下の図表中においては、新司法試験の結果に関するカテゴリについて、下の表のような略称表記を用いることがある。

司法試験の結果のカテゴリ	略称
1次評価不合格	不合格
1次評価合格・総合評価不合格	短答合格
総合評価合格	総合合格

【表 2-9-2】 法科大学院の成績(必修法律基本科目〔1年次〕)と新司法試験の結果

				新司法試験結果				合計
				未受験	受験			
					不合格	短答合格	総合合格	
総合法基1年	未修	60-70	度数 %	209 47.0%	176 39.6%	59 13.3%	1 0.2%	445 100.0%
		70-75	度数 %	297 38.1%	261 33.5%	180 23.1%	41 5.3%	779 100.0%
		75-80	度数 %	237 26.7%	222 25.0%	284 32.0%	144 16.2%	887 100.0%
		80-	度数 %	86 13.9%	81 13.1%	225 36.3%	227 36.7%	619 100.0%
		合計	度数 %	829 30.4%	740 27.1%	748 27.4%	413 15.1%	2730 100.0%

【表 2-9-3】 法科大学院の成績(必修法律基本科目〔2年次以降〕)と新司法試験の結果

				新司法試験結果				合計	
				未受験	受験				
					不合格	短答合格	総合合格		
総合法基2年	全体	60-70	度数 %	297 47.4%	212 33.9%	106 16.9%	11 1.8%	626 100.0%	
		70-75	度数 %	393 27.4%	426 29.7%	479 33.4%	138 9.6%	1436 100.0%	
		75-80	度数 %	244 15.2%	248 15.4%	601 37.3%	517 32.1%	1610 100.0%	
		80-	度数 %	70 7.2%	46 4.7%	294 30.3%	559 57.7%	969 100.0%	
		合計	度数 %	1004 21.6%	932 20.1%	1480 31.9%	1225 26.4%	4641 100.0%	
		既修	60-70	度数 %	33 29.5%	36 32.1%	37 33.0%	6 5.4%	112 100.0%
			70-75	度数 %	71 14.6%	95 19.5%	230 47.2%	91 18.7%	487 100.0%
			75-80	度数 %	56 7.1%	58 7.3%	327 41.3%	351 44.3%	792 100.0%
			80-	度数 %	15 2.9%	3 0.6%	138 26.5%	364 70.0%	520 100.0%
			合計	度数 %	175 9.2%	192 10.0%	732 38.3%	812 42.5%	1911 100.0%
	未修	60-70	度数 %	264 51.4%	176 34.2%	69 13.4%	5 1.0%	514 100.0%	
		70-75	度数 %	322 33.9%	331 34.9%	249 26.2%	47 5.0%	949 100.0%	
		75-80	度数 %	188 23.0%	190 23.2%	274 33.5%	166 20.3%	818 100.0%	
		80-	度数 %	55 12.2%	43 9.6%	156 34.7%	195 43.4%	449 100.0%	
		合計	度数 %	829 30.4%	740 27.1%	748 27.4%	413 15.1%	2730 100.0%	

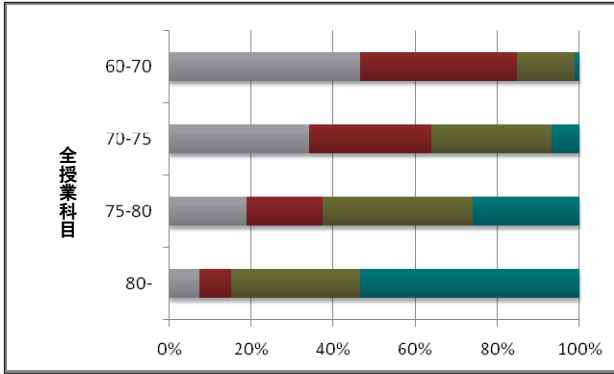
【表 2-9-4】 法科大学院の成績(必修実務基礎科目)と新司法試験の結果

			新司法試験結果				合計	
			未受験	受験				
				不合格	短答合格	総合合格		
総合実務	全体	60-70	度数 %	239 38.2%	199 31.8%	156 24.9%	32 5.1%	626 100.0%
		70-75	度数 %	302 27.2%	279 25.1%	380 34.2%	150 13.5%	1111 100.0%
		75-80	度数 %	327 20.4%	312 19.4%	562 35.0%	404 25.2%	1605 100.0%
		80-	度数 %	136 10.5%	142 10.9%	382 29.4%	639 49.2%	1299 100.0%
		合計	度数 %	1004 21.6%	932 20.1%	1480 31.9%	1225 26.4%	4641 100.0%
		既修	60-70	度数 %	35 20.5%	37 21.6%	80 46.8%	19 11.1%
	70-75	度数 %	59 13.9%	79 18.6%	193 45.4%	94 22.1%	425 100.0%	
	75-80	度数 %	58 8.6%	63 9.3%	284 42.0%	271 40.1%	676 100.0%	
	80-	度数 %	23 3.6%	13 2.0%	175 27.4%	428 67.0%	639 100.0%	
	合計	度数 %	175 9.2%	192 10.0%	732 38.3%	812 42.5%	1911 100.0%	
	未修	60-70	度数 %	204 44.8%	162 35.6%	76 16.7%	13 2.9%	455 100.0%
	70-75	度数 %	243 35.4%	200 29.2%	187 27.3%	56 8.2%	686 100.0%	
	75-80	度数 %	269 29.0%	249 26.8%	278 29.9%	133 14.3%	929 100.0%	
	80-	度数 %	113 17.1%	129 19.5%	207 31.4%	211 32.0%	660 100.0%	
	合計	度数 %	829 30.4%	740 27.1%	748 27.4%	413 15.1%	2730 100.0%	

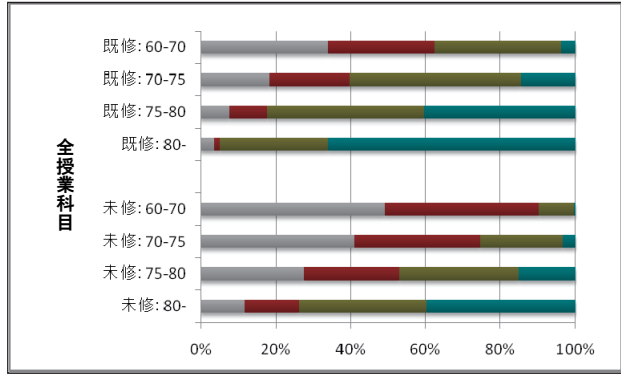
【図 2-19】法科大学院の成績と新司法試験の結果

① 全授業科目

A 全体

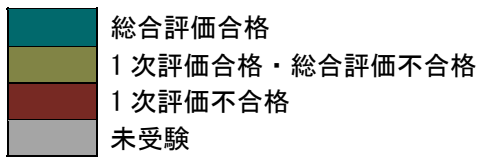
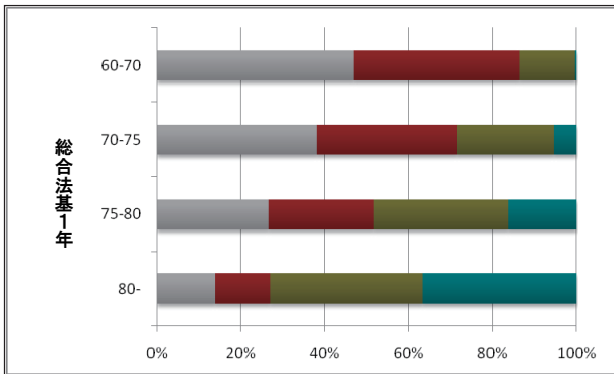


B 既修・未修別



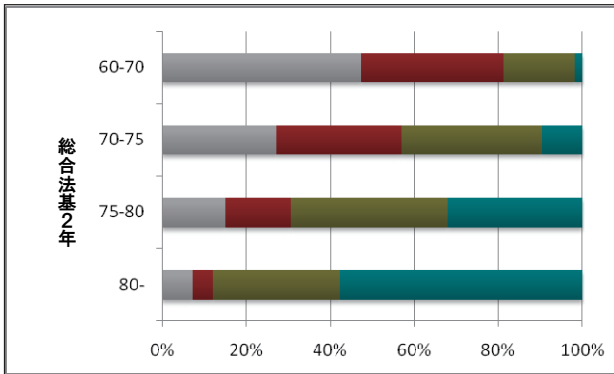
② 総合必修法律基本科目(1年次)

A 全体(未修者のみ)

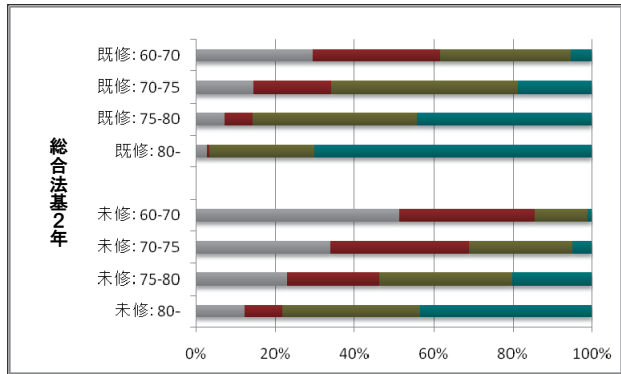


③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)

A 全体

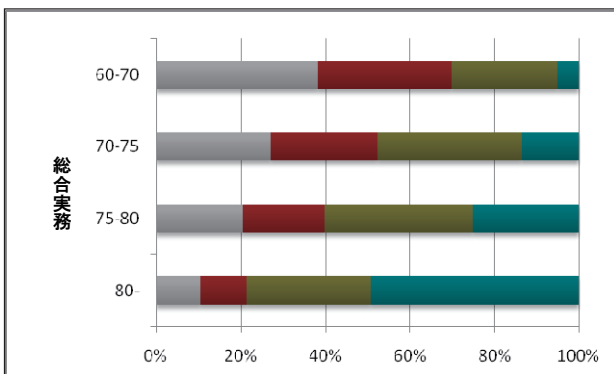


B 既修・未修別

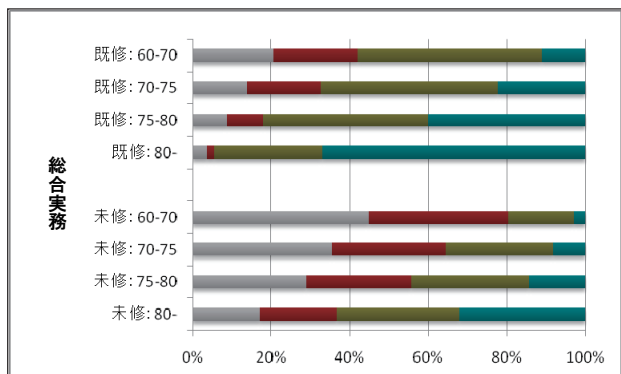


④ 総合必修実務基礎科目

A 全体



B 既修・未修別



上述の傾向について、さらに立ち入って検証するため、法科大学院の全授業科目の成績について、大学グループ別（学生構成別、合格率別）の集計を行い、それを帯グラフに表したのが【図 2-20】【図 2-21】である（クロス集計表は、資料編 1【資料 1-7】【資料 1-8】参照）。

まず、学生構成による大学グループ別の集計を行い、その結果を示したのが【図 2-20】である。これによれば、既修者と未修者の差異に関する上記②④の傾向は、未修中心型の法科大学院においても、既修中心型の法科大学院においても、同様に確認することができる。

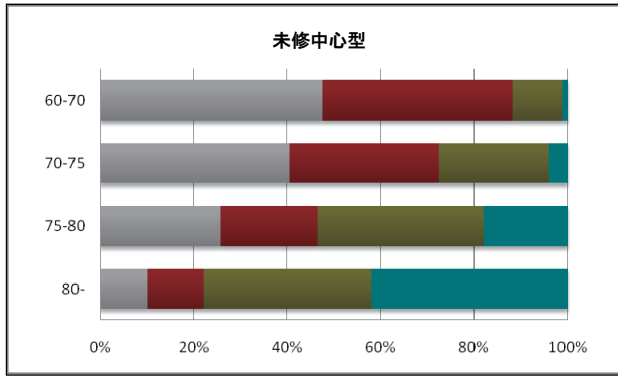
次に、合格率による大学グループ別の集計を行い、その結果を示したのが【図 2-21】である。これによれば、上記①～④の傾向は、いずれのグループにおいても、概ね確認することができる。

* 【図 2-20】【図 2-21】において、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層は、サンプル数が極めて少ない場合がある。とりわけ、【図 2-20】の「未修中心型」グループの既修者、【図 2-21】の「合格率 50%以上」グループの既修者、未修者は、法科大学院の成績が「60 点以上 70 点未満」の層のサンプル数が 10 未満である（【資料 1-7】【資料 1-8】参照）。この点は、【図 2-20】【図 2-21】を見るうえで注意を要する。例えば、【図 2-20】における「合格率 50%以上」のグループの既修者には、③の傾向とやや異なった所見が認められる部分があるが、上記の点に注意した見方が必要である。

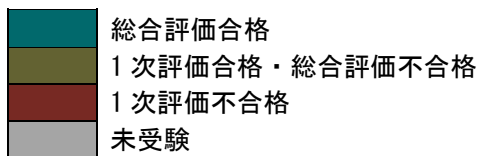
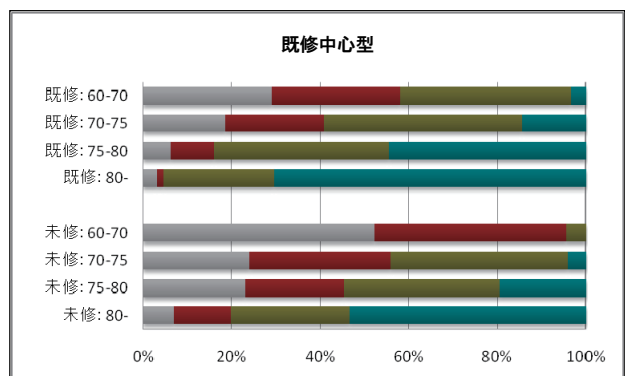
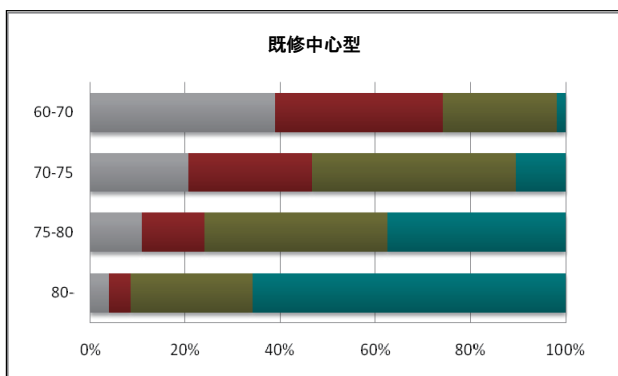
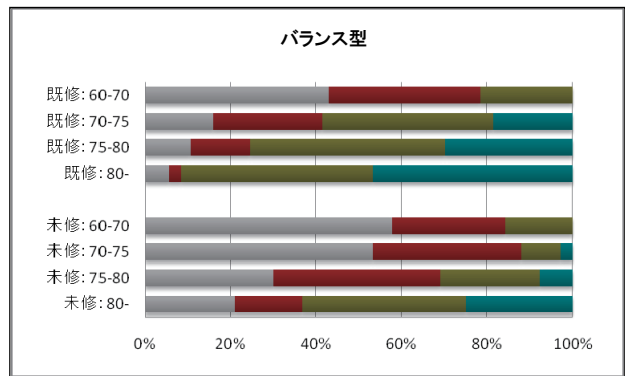
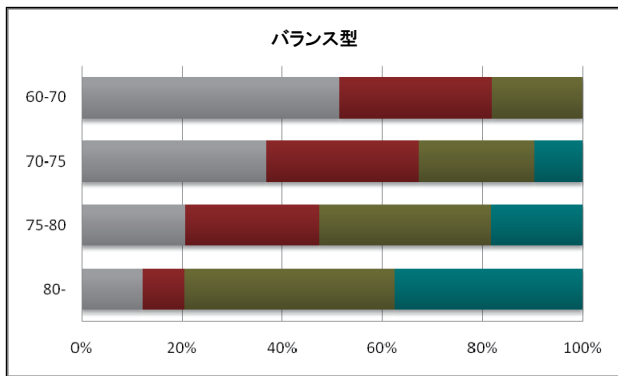
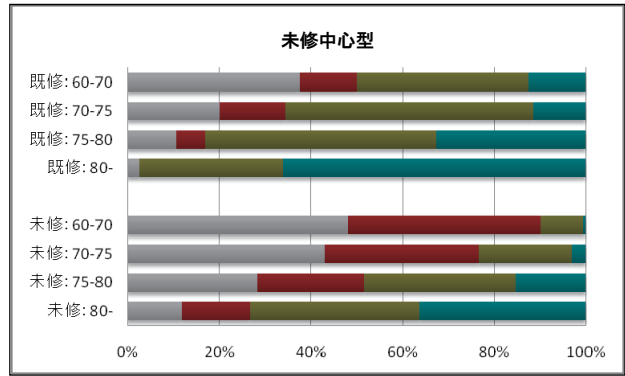
以上に関連する参考資料として、資料編 2【資料 2-8】には、法科大学院の全授業科目の成績について、大学別の統計資料（帯グラフ）を掲げた（大規模校については、既修者・未修者別の帯グラフも掲げた）。

【図 2-20】 法科大学院の成績(全授業科目)と新司法試験の結果: 大学グループ別(学生構成別)

A 全体

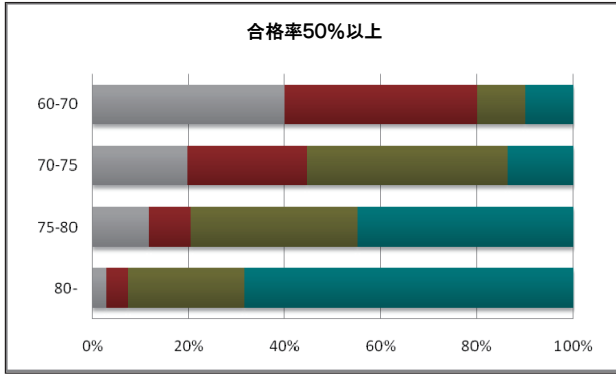


B 既修・未修別

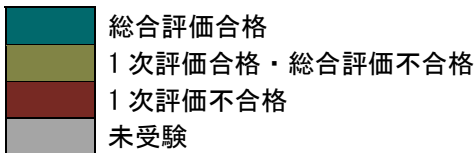
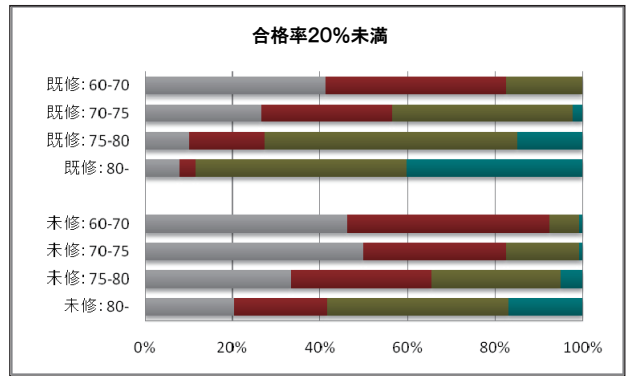
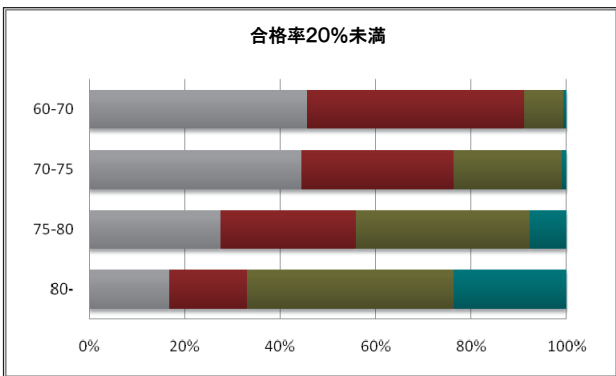
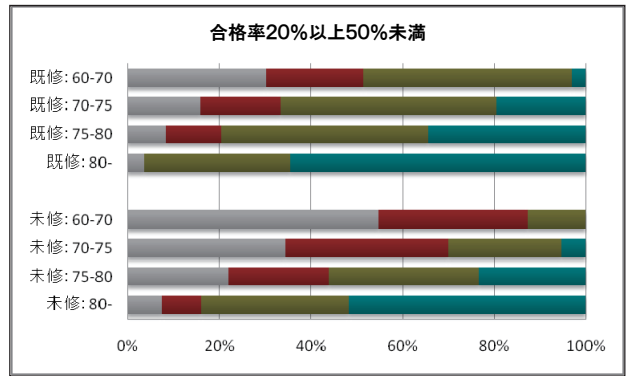
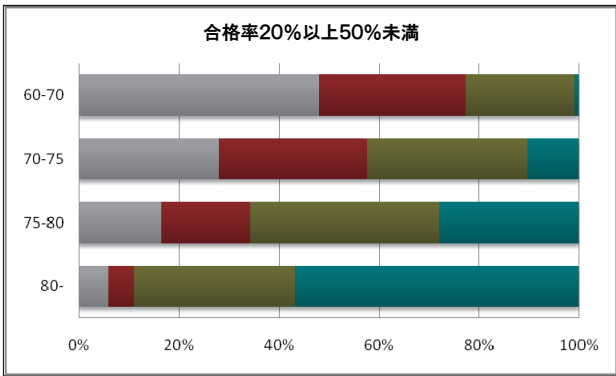
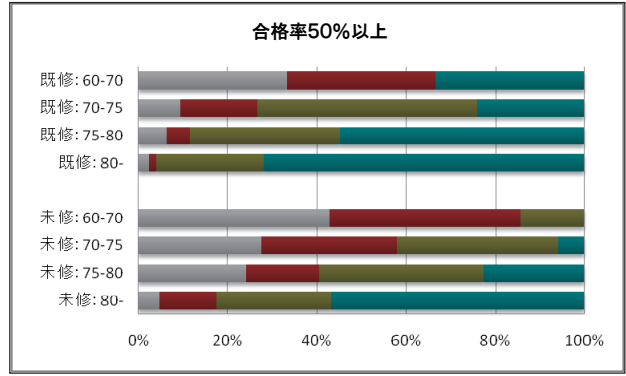


【図 2-21】 法科大学院の成績(全授業科目)と新司法試験の結果: 大学グループ別(合格率別)

A 全体



B 既修・未修別



(2) 新司法試験の結果と法科大学院の成績分布

新司法試験の結果（「未受験」、「1次評価不合格」、「1次評価合格・総合評価不合格」、「総合評価合格」の4カテゴリ。略称表記については、【表2-9-1】の注記参照）ごとの法科大学院の成績分布を図表化した。

【表2-10】は、新司法試験の結果別の法科大学院の総合成績（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）の分布を平均点で比較したものである。

また、【図2-22】は、新司法試験の結果別の法科大学院の成績分布（全授業科目、必修法律基本科目〔1年次〕、同〔2年次以降〕、必修法律実務基礎科目の4項目）を箱ひげ図で示したものである。

これらによれば、①新司法試験の「未受験者」と「1次評価不合格者」の法科大学院の成績は下位に分布し、「1次評価合格・総合評価不合格」、「総合評価合格」の順に成績は上位に分布する傾向にあるといえる。

また、②「未受験者」と「1次評価不合格者」の法科大学院の成績の分布には、際立った差異は認められない。

以上に関連する参考資料として、資料編2【資料2-9】には、法科大学院の全授業科目について成績分布を示す大学別の統計資料（箱ひげ図）を掲げた（大規模校については、既修者・未修者別の箱ひげ図も掲げた）。

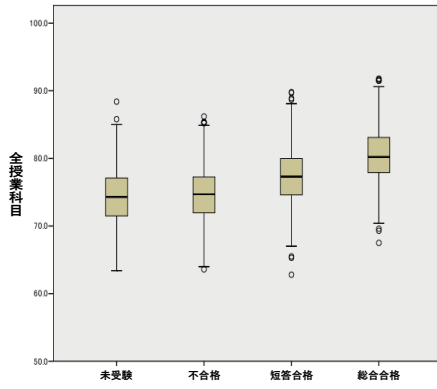
【表 2-10】 新司法試験の結果と法科大学院の成績分布(平均点等)

	司試結果		全授業科目	総合法基 1 年	総合法基 2 年	総合実務
全 体	未受験	平均値	74.39	73.51	72.57	73.81
		度数	1004	829	1004	1004
		標準偏差	3.96	5.01	4.65	5.44
	不合格	平均値	74.70	73.85	72.99	74.15
		度数	932	740	932	932
		標準偏差	3.84	4.89	4.26	5.41
	短答合格	平均値	77.38	77.38	76.13	76.27
		度数	1480	748	1480	1480
		標準偏差	3.97	5.08	4.48	5.58
	総合合格	平均値	80.51	80.55	79.66	79.99
		度数	1225	413	1225	1225
		標準偏差	3.92	4.54	4.35	5.57
合計	平均値	77.02	75.72	75.66	76.30	
	度数	4641	2730	4641	4641	
	標準偏差	4.61	5.57	5.24	6.02	
既 修	未受験	平均値	75.07		73.79	74.09
		度数	175		175	175
		標準偏差	3.91		4.50	4.88
	不合格	平均値	74.06		72.99	73.20
		度数	192		192	192
		標準偏差	3.33		3.71	4.50
	短答合格	平均値	77.43		76.30	75.94
		度数	732		732	732
		標準偏差	3.84		4.13	5.40
	総合合格	平均値	80.53		79.68	80.05
		度数	812		812	812
		標準偏差	4.02		4.33	5.58
合計	平均値	78.25		77.17	77.24	
	度数	1911		1911	1911	
	標準偏差	4.44		4.85	5.93	
未 修	未受験	平均値	74.25	73.50	72.32	73.76
		度数	829	829	829	829
		標準偏差	3.96	5.01	4.65	5.55
	不合格	平均値	74.73	73.85	73.00	74.40
		度数	740	740	740	740
		標準偏差	3.96	4.89	4.40	5.60
	短答合格	平均値	77.33	77.38	75.96	76.60
		度数	748	748	748	748
		標準偏差	4.09	5.08	4.79	5.72
	総合合格	平均値	80.46	80.55	79.63	79.88
		度数	413	413	413	413
		標準偏差	3.72	4.54	4.41	5.56
合計	平均値	76.16	75.72	74.60	75.64	
	度数	2730	2730	2730	2730	
	標準偏差	4.53	5.57	5.25	6.00	

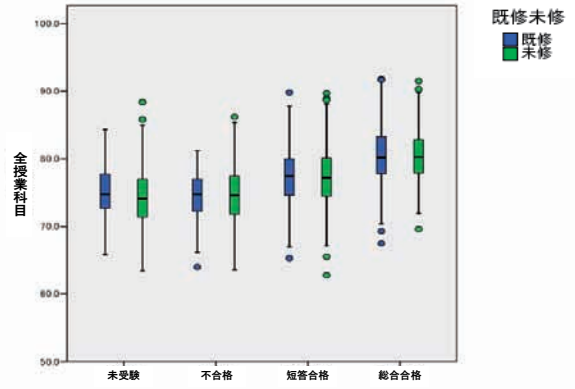
【図 2-22】 司法試験の結果と法科大学院の成績分布

① 全授業科目成績

A 全体

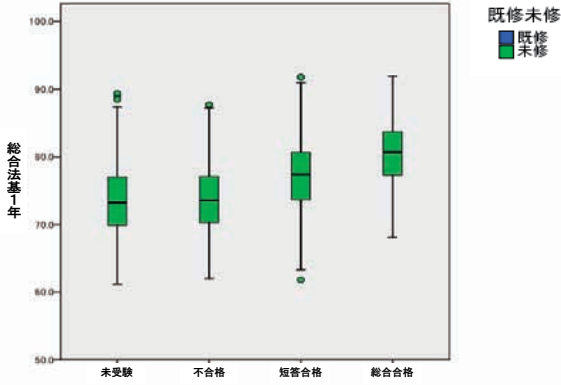


B 既修・未修別



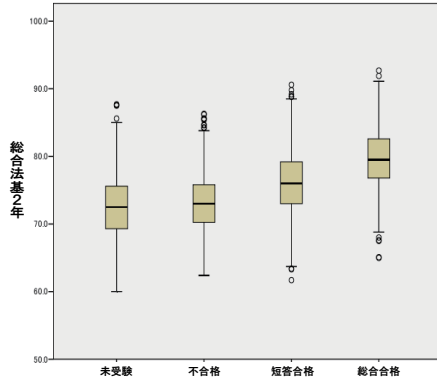
② 総合必修法律基本科目(1年次)成績

A 全体(未修者のみ)

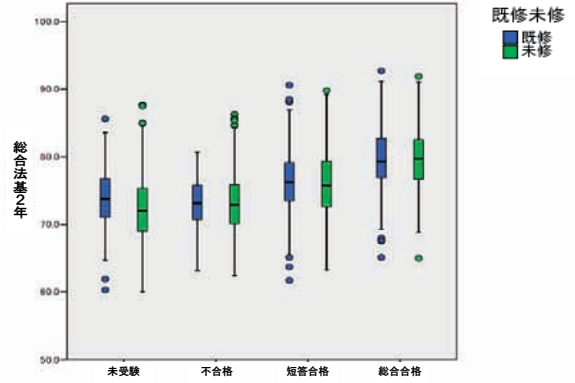


③ 総合必修法律基本科目(2年次以降)成績

A 全体

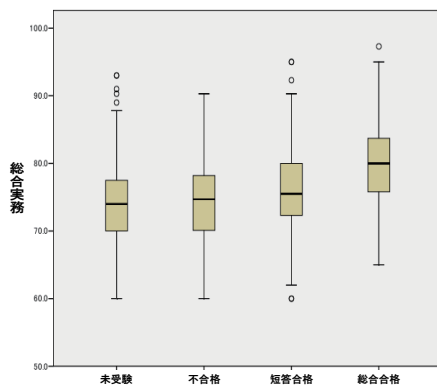


B 既修・未修別

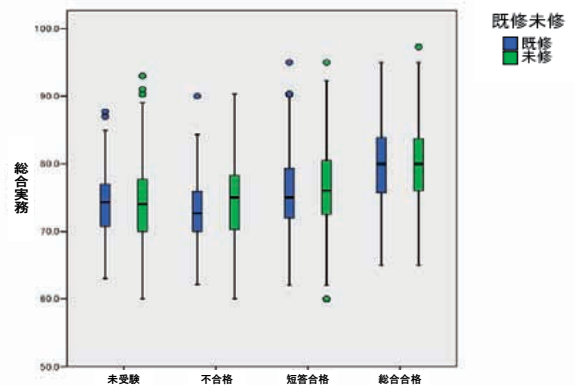


④ 総合必修実務基礎科目成績

A 全体



B 既修・未修別



3 調査結果のまとめ

本調査の目的は、法科大学院教育と新司法試験との有機的連携のあり方を検討する前提として、両者の関係の現状を客観的資料として提示することにある。資料編を含む本章において、数多くの図表をそのままの形で示したのも、それが本調査の目的に沿うと考えたことによる。

もっとも、本調査の結果については、本文の記述においても言及してきたように、いくつかの所見というべきものを挙げるができる。それらは、基本的に 2009 年調査の結果と一致するが、改めて、2009 年調査、試行的調査の結果とも対比しつつ整理して、本調査の報告を終えることとする。

(1) 新司法試験受験者の法科大学院の成績と新司法試験の成績

①法科大学院の成績と新司法試験の成績との間には一定の関連性が認められる。

法科大学院の成績と新司法試験の成績との間には、法科大学院の成績がよい者ほど新司法試験の成績もよい傾向にあるという関連性を認めることができる。

このような傾向は、協力校を絞った試行的調査においても現れており、協力校を 68 校に拡大した 2009 年調査においても所見として指摘したが、法科大学院全 74 校を協力校とした今回の調査においても、同様の傾向を確認することができた（本文中に掲げた統計資料とともに、大学別の集計を行った参考資料においても、同様の傾向を確認することができる）。

このことは、法科大学院教育と新司法試験とがその内容において一定の整合性を有していることを推論させるものと思われる。

②既修者と未修者とでは、法科大学院の成績レベルが同じでも新司法試験の成績レベルにおいて差異が認められる。

法科大学院の成績と新司法試験の成績との間には、既修者についても未修者についても、一定の関連性が認められた。しかし、法科大学院の成績カテゴリが同じ段階の既修者と未修者とを比べると、既修者の方が未修者よりも新司法試験の成績がよい傾向にあることが認められた。

このような傾向については、主として成績間の関連性の有無・程度に焦点をあてた試行的調査では、所見としての指摘を欠いたが、少なくとも、2008 年調査における「法科大学院の成績段階グループ別に見た新司法試験の合否結果の比率」に関する統計資料には、同様の傾向が現れていたといえる。新司法試験の成績データとして成績ランクを用い、それと法科大学院の成績（段階）とのクロス集計表を基本資料として用いることとした 2009 年調査では、成績間の関連性とともに、上記の傾向が所見として注目を引いたが、同様の傾向は、今回の調査においても確認された。

* 2009年調査では、既修者と未修者の差は、総合評価成績や短答式試験成績と比べて論文式試験成績において小さいことを指摘した。同様の傾向は、今回の調査でも認められる。

【図3-1】は、法科大学院の成績カテゴリが同じ段階の既修者と未修者の新司法試験の成績を比較するため、法科大学院の全授業科目の成績カテゴリの段階ごとに、既修者、未修者別の新司法試験の成績の分布を、新司法試験の上位の成績カテゴリから下位の成績カテゴリへの累計割合（その成績カテゴリ以上の成績をとった者の割合）で示した折れ線グラフである。上位の成績の者が多ければ折れ線は左上に膨らみ、下位の成績の者が多ければ折れ線は右下に膨らむ。既修者の折れ線と未修者の折れ線の幅が大きいほど、法科大学院の成績カテゴリが同じ段階の既修者と未修者との間で、成績分布に差があることになる。

【図3-1】によれば、短答式試験総合成績についても、論文式試験総合成績についても、既修者の折れ線が未修者の折れ線よりも上に位置するが、その差は、短答式試験総合成績よりも論文式試験総合成績の方が小さいといえる。

同じグラフを学生構成による大学グループのうち、未修中心型と既修中心型の法科大学院について示したのが【図3-2】である。未修中心型の法科大学院（【図3-2-1】）でも、既修中心型の法科大学院（【図3-2-2】）でも、基本的に上記と同様の傾向が確認できるであろう。

なお、【図3-3】には、合格率による大学グループ別のグラフ（ただし、論文式試験総合成績についてのみ）を示した。2009年調査では、大学グループ別に見た場合、上記②の所見が、論文式試験総合成績については必ずしも明らかとはいえない法科大学院の成績カテゴリの段階があることを指摘したが、同様のことは、今回の調査でも、【図3-2】【図3-3】から見て取ることができよう。

* 2009年調査では、既修者と未修者とは、法科大学院の成績と新司法試験の短答式試験成績との間において、他の項目間に比べ、相関係数の数値に開きがあり、未修者の方が既修者よりもその値が大きいことを所見として指摘した。2010年調査でも、法科大学院の成績のうち実務基礎科目を除いた成績項目と新司法試験の短答式試験成績との間においては、同様の傾向が認められる。これは、2008年調査においても認められた所見であるが、相関係数という統計数値に関する所見であり、その見方については、慎重な検討が必要である。試みに、2008年調査では、このような傾向が現れる理由として、次のような可能性を指摘した。

「既修者の法科大学院の成績、新司法試験の成績には、法科大学院の学習成果のほかに法科大学院に入学する前の知識・能力が影響している。これに対し、未修者の場合は、法科大学院に入学する前の知識・能力が影響するところは少なく、法科大学院の学習成果が直接に反映されやすい。」

「既修者は、未修者に比べ均質性が高〔い〕……。」

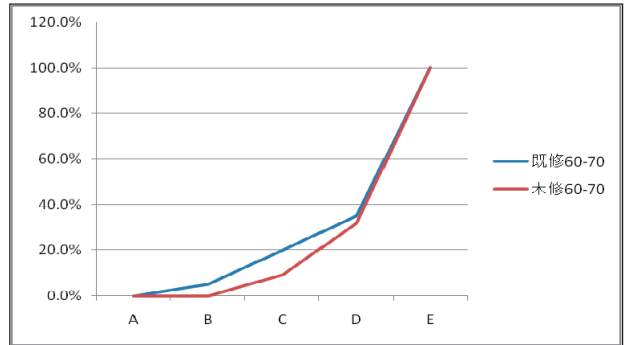
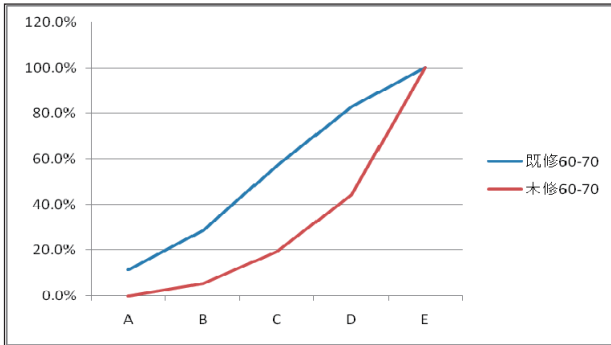
上記の点において既修者と未修者との間に差異が存在しているとすれば、そのような差異が1次評価による選抜以前の短答式試験において直接的に現れ、相関係数の値に影響を及ぼしている可能性も排除することはできないであろう。

【図 3-1】 法科大学院の成績(全授業科目)別に見た既修者と未修者の新司法試験の成績比較

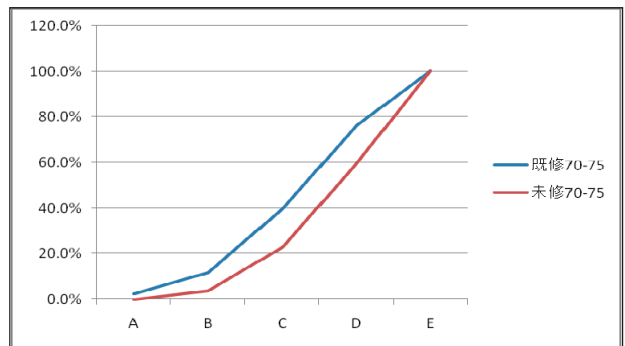
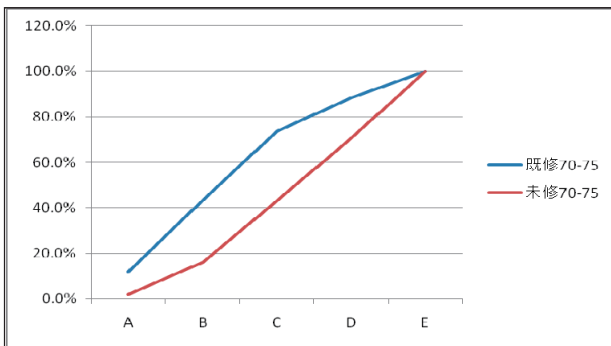
①新司法試験短答式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

②新司法試験論文式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

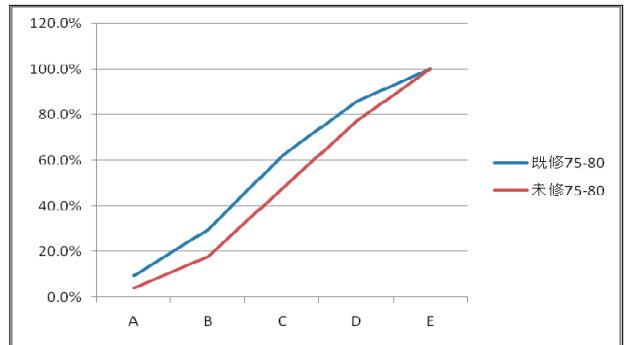
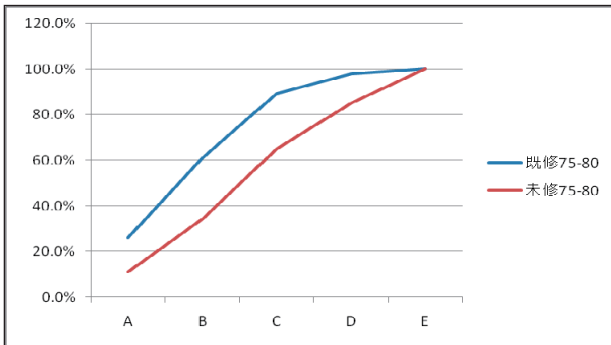
A. 法科大学院の成績60～70



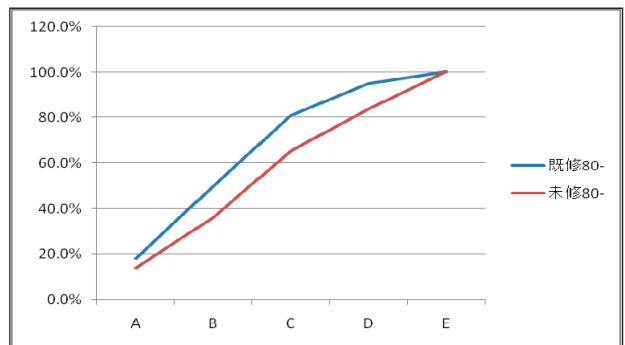
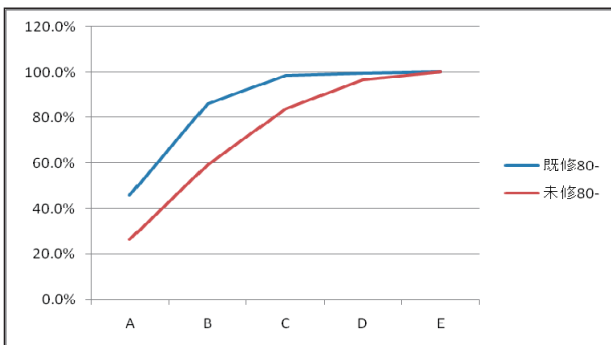
B. 法科大学院の成績70～75



C. 法科大学院の成績75～80



D. 法科大学院の成績80～

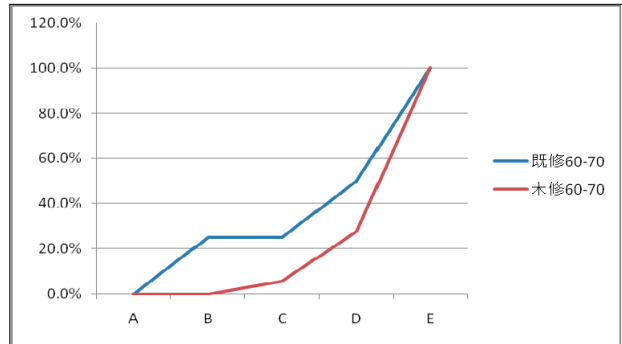
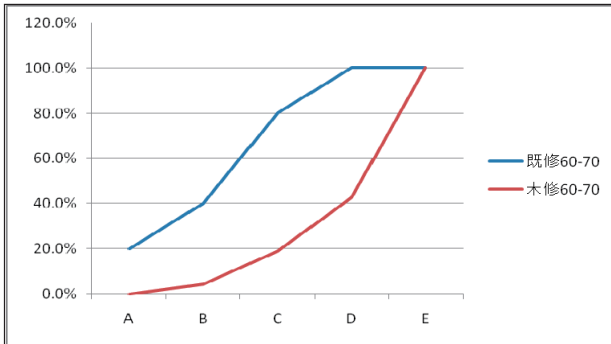


【図 3-2-1】法科大学院の成績(全授業科目)別に見た既修者と未修者の新司法試験の成績比較:未修中心型

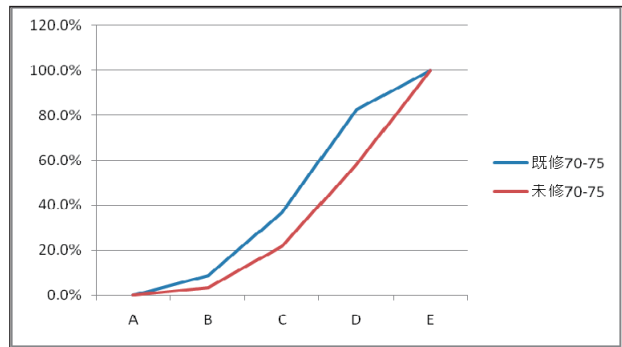
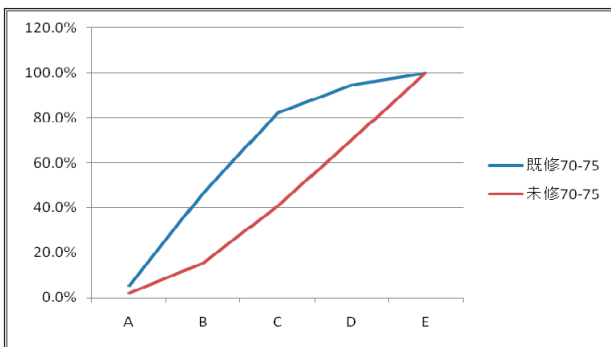
①新司法試験短答式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

②新司法試験論文式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

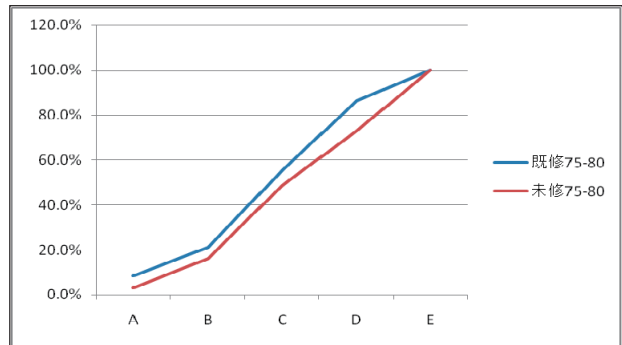
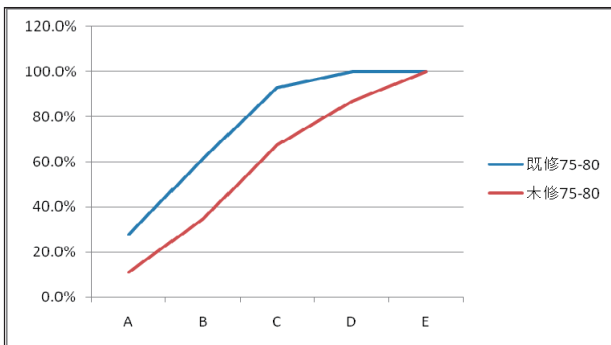
A. 法科大学院の成績60~70



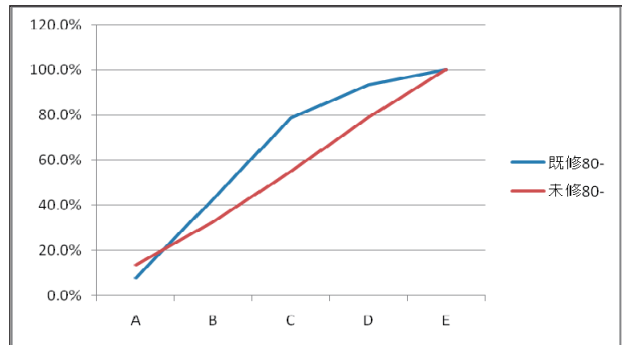
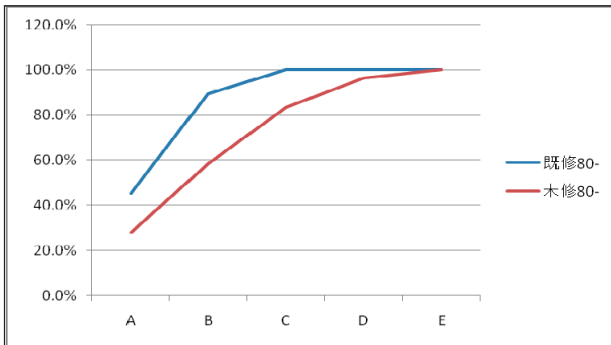
B. 法科大学院の成績70~75



C. 法科大学院の成績75~80



D. 法科大学院の成績80~

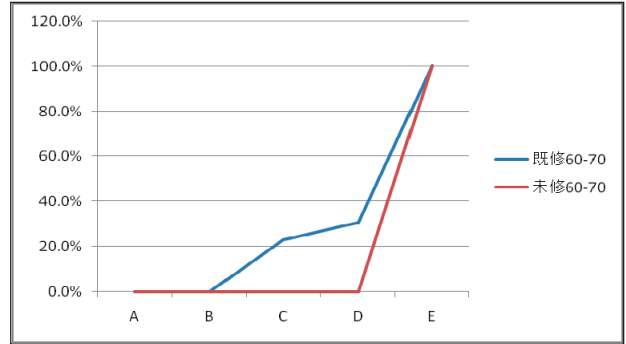
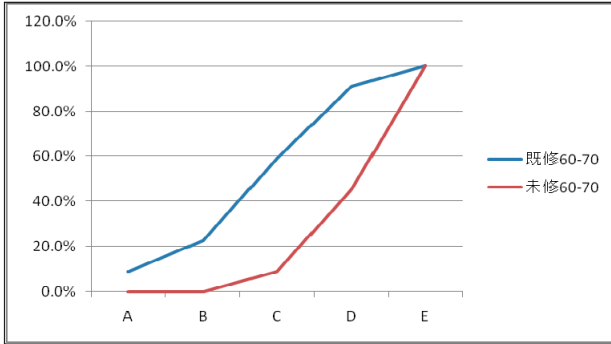


【図 3-2-2】法科大学院の成績(全授業科目)別に見た既修者と未修者の新司法試験の成績比較:既修中心型

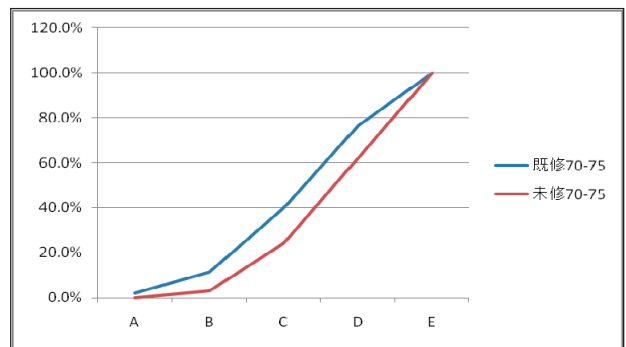
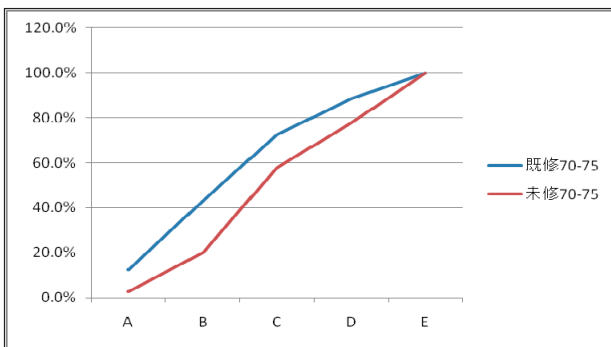
①新司法試験短答式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

②新司法試験論文式試験総合成績
(成績ランクAからEへの累積割合)

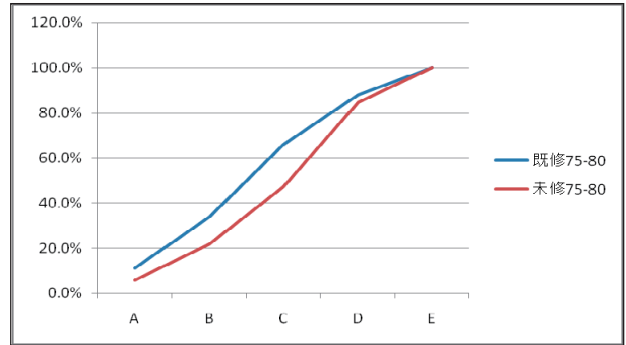
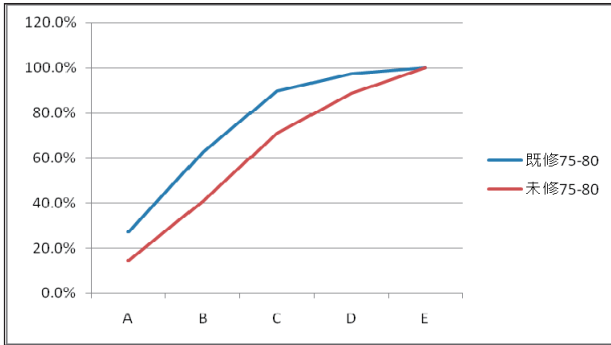
A. 法科大学院の成績60~70



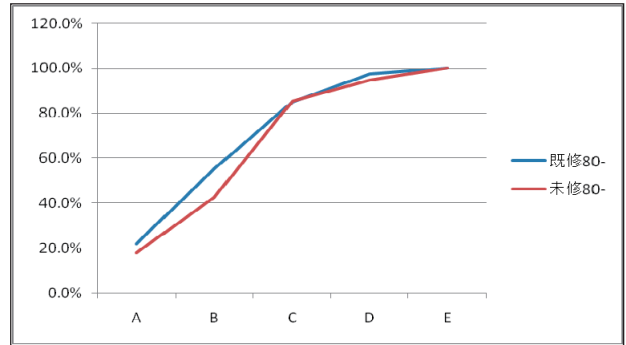
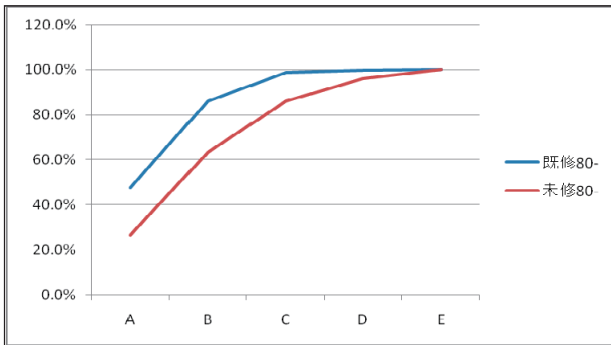
B. 法科大学院の成績70~75



C. 法科大学院の成績75~80



D. 法科大学院の成績80~



【図 3-3】 法科大学院の成績(全授業科目)別に見た既修者と未修者の新司法試験の成績比較:合格率別

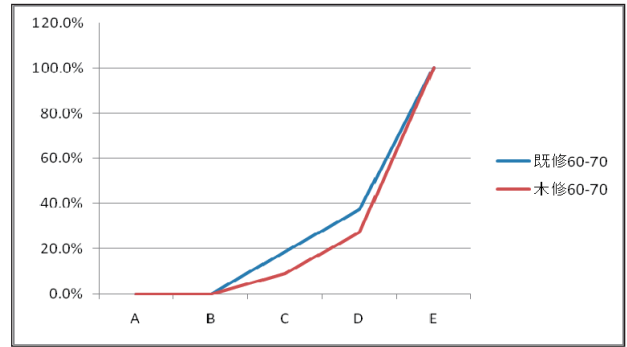
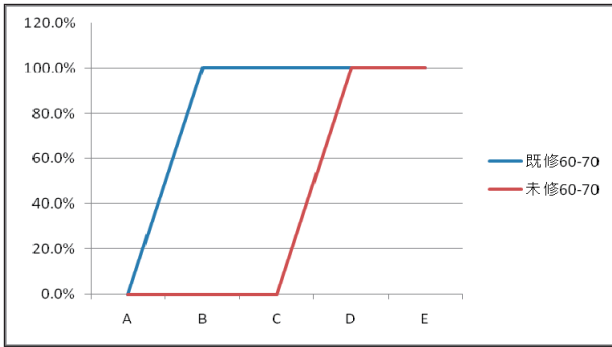
新司法試験論文式試験総合成績(成績ランクAからEへの累積割合)

①合格率 50%以上

②合格率 20%以上 50%未満

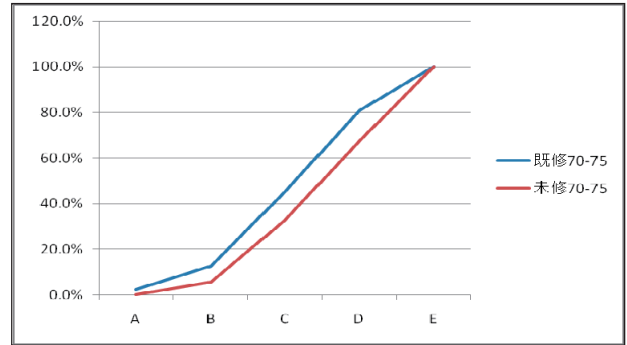
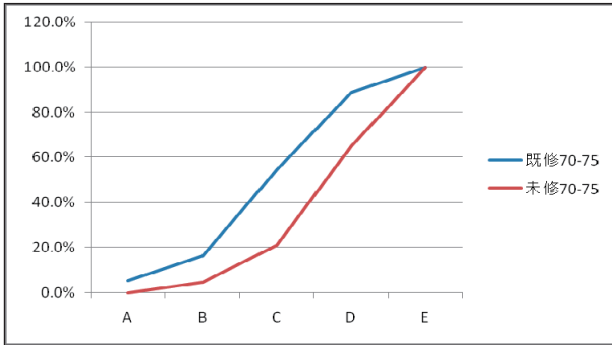
A. 法科大学院の成績60~70

A. 法科大学院の成績60~70



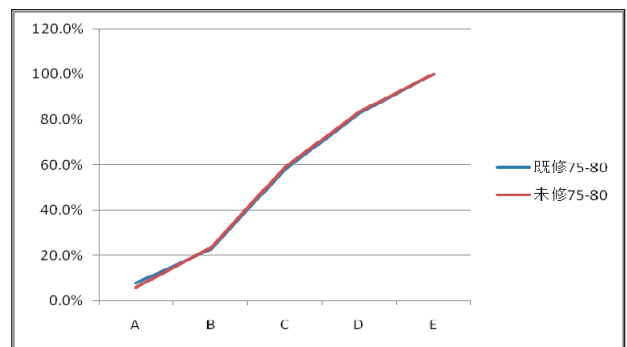
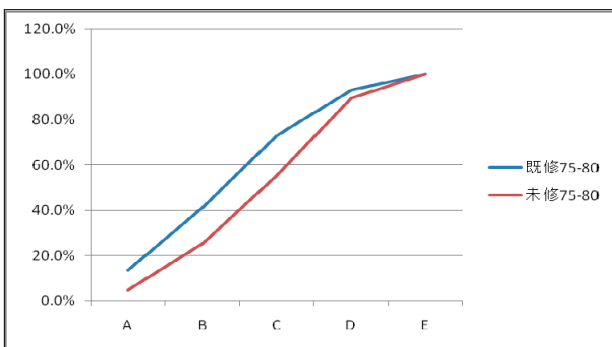
B. 法科大学院の成績70~75

B. 法科大学院の成績70~75



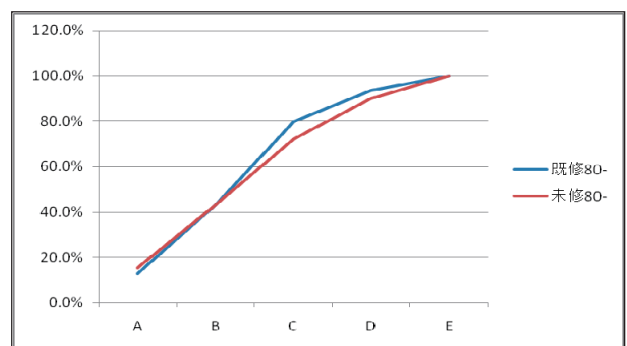
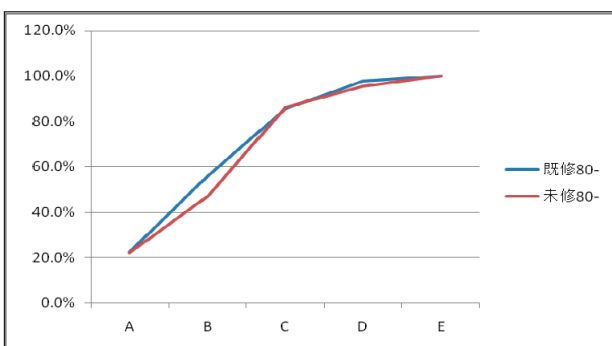
C. 法科大学院の成績75~80

C. 法科大学院の成績75~80



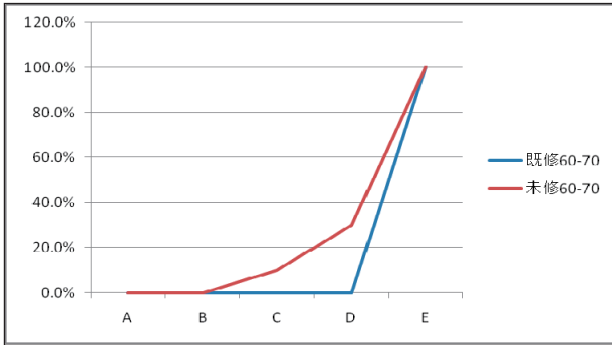
D. 法科大学院の成績80~

D. 法科大学院の成績80~

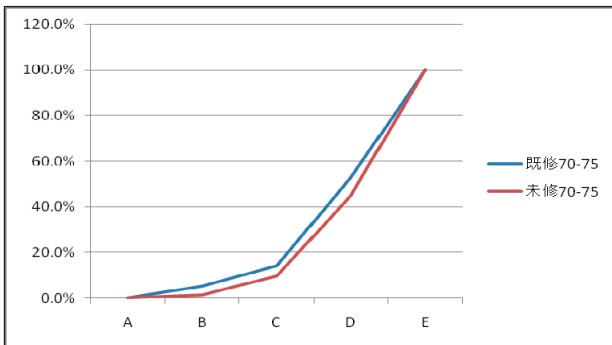


③合格率 20%未満

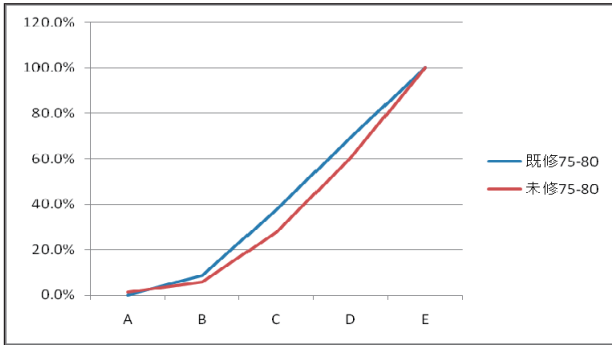
A. 法科大学院の成績60～70



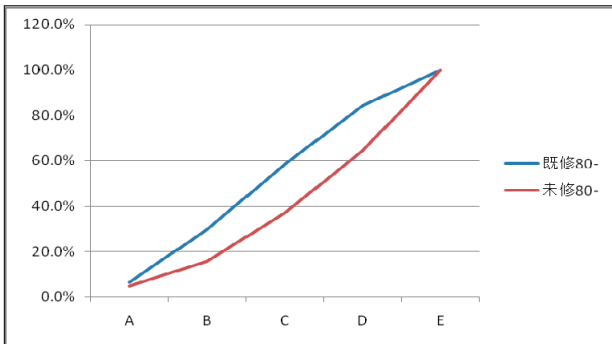
B. 法科大学院の成績70～75



C. 法科大学院の成績75～80



D. 法科大学院の成績80～



(2) 法科大学院修了者の法科大学院の成績と新司法試験の結果

2009年調査では、新司法試験の未受験者について、法科大学院の成績に関わるいくつかの特徴点を所見として指摘したが、今回の調査においても、同様の傾向が確認された。

①新司法試験の受験・未受験と法科大学院の成績との間には一定の関連性が認められる。

未受験者の割合は、法科大学院の成績カテゴリが下位の層になるほど大きくなる傾向にある。また、未受験者の法科大学院の成績は、「1次評価合格・総合評価不合格者」や「総合評価合格者」に比べて下位に分布する傾向にあることも認められた（本文中に掲げた統計資料とともに、大学別の集計を行った参考資料においても、それぞれ同様の傾向を確認することができる）。

②未受験者と「1次評価不合格者」の法科大学院の成績レベルには、際立った差異は認められない。

未受験者の法科大学院の成績が、「1次評価合格・総合評価不合格者」や「総合評価合格者」よりも下位に分布する傾向にあることは、上述のとおりである。しかし、「1次評価不合格者」と比較する限り、際立った差異は認められないといえる。

③既修者と未修者とでは、未受験者の割合において差異が認められる。

未受験者の割合は、法科大学院の成績カテゴリが同じ段階の既修者と未修者とを比べると、未修者の方が既修者よりも大きい。なお、1次評価不合格者の割合も同様の傾向が認められるから、両者を合わせたカテゴリ（新司法試験の総合評価に至らなかった者）の割合においても、未修者と既修者との間には顕著な差異が認められる（本文中に掲げた統計資料とともに、大学別の集計を行った参考資料においても、同様の傾向を確認することができる）。